



2016年上期の業種別部会長シンポジウム

**SIMPÓSIO DOS PRESIDENTES DOS
DEPARTAMENTOS SETORIAIS**

CÂMARA DE COMÉRCIO E INDÚSTRIA JAPONESA DO BRASIL

HomePage: www.camaradojapao.org.br / E-mail: secretaria@camaradojapao.org.br

前半司会

樹神 幸夫 総務委員長

APRESENTADOR

**Presidente da Comissão
de Coordenação Geral:**

Yukio Kodama

挨拶

村田 俊典 会頭

Palavras do Presidente da Câmara:

Toshifumi Murata

金融 部会

原 敬一 部会長

Departamento Financeiro

Presidente: Keiichi Hara

2015年の回顧と2016年の展望

～景気低迷期だから見えてくるビジネス機会～
経済回復期はいつか？日系企業はどう備えるか？

2016年2月25日(木)

2015年の回顧と2016年の展望

- | | |
|-------------|----|
| 1. ブラジル経済動向 | 2 |
| 2. 銀行業界動向 | 17 |
| 3. 保険業界動向 | 21 |

1. ブラジル経済動向

ルセフ大統領二期目スタート (1月)

- 2015年1月1日、ルセフ大統領の二期目がスタート。
- ペトロbras汚職問題の解決、財政再建、経済回復と、多くの難題に直面。
- 2015年10月2日、行政改革を発表。
- 国民の大統領支持率が低下する中、12月2日、Cunha下院議長はルセフ大統領弾劾手続き開始を決定。

ペトロbras社を巡る 汚職贈収賄スキャンダル 1月以降深刻化

- 2014年3月からスタートした『ラヴァ・ジャット作戦』は、ブラジルの政財界を巻き込む大スキャンダルに発展。ペトロbras社経営陣刷新(2月)、オデブレヒト社CEO逮捕(6月)、現職のAmaral上院議員逮捕(11月)等あり。
- 2015年末現在、捜査は第22ステージ目まで進展。

S&P社ソブリン格下げ (9月)

- 米国格付機関のS&P社は、政府財政の見通しの悪化や政局の混迷化を背景に、外貨長期格付を「BBB-」から「BB+」に格下げ実施。
- 12月には、Fitch社の格下げ、Moody's社による見通し引下げもあり。

2015年末

(参考)2014年末時点

S&P	BB+	ネガティブ
Moody's	Baa3	ネガティブ
Fitch	BB+	ネガティブ

S&P	BBB-	安定的
Moody's	Baa2	ネガティブ
Fitch	BBB	安定的

通貨リアル史上最安値更新 (9月)

- 2015年9月22日、2002年10月以来13年ぶりに1ドル=4.0リアルを突破。
- 9月24日には4.24リアル台後半まで到達し、最安値を更新。

レヴィ財務大臣辞任 (12月)

- ルセフ大統領二期目がスタートした1月以降、財政改革・改善を推進してきたレヴィ財務大臣が、12月18日に辞任。後任は、バルボーザ前企画予算行政管理大臣。

主要マクロ経済指標の推移

金融部会

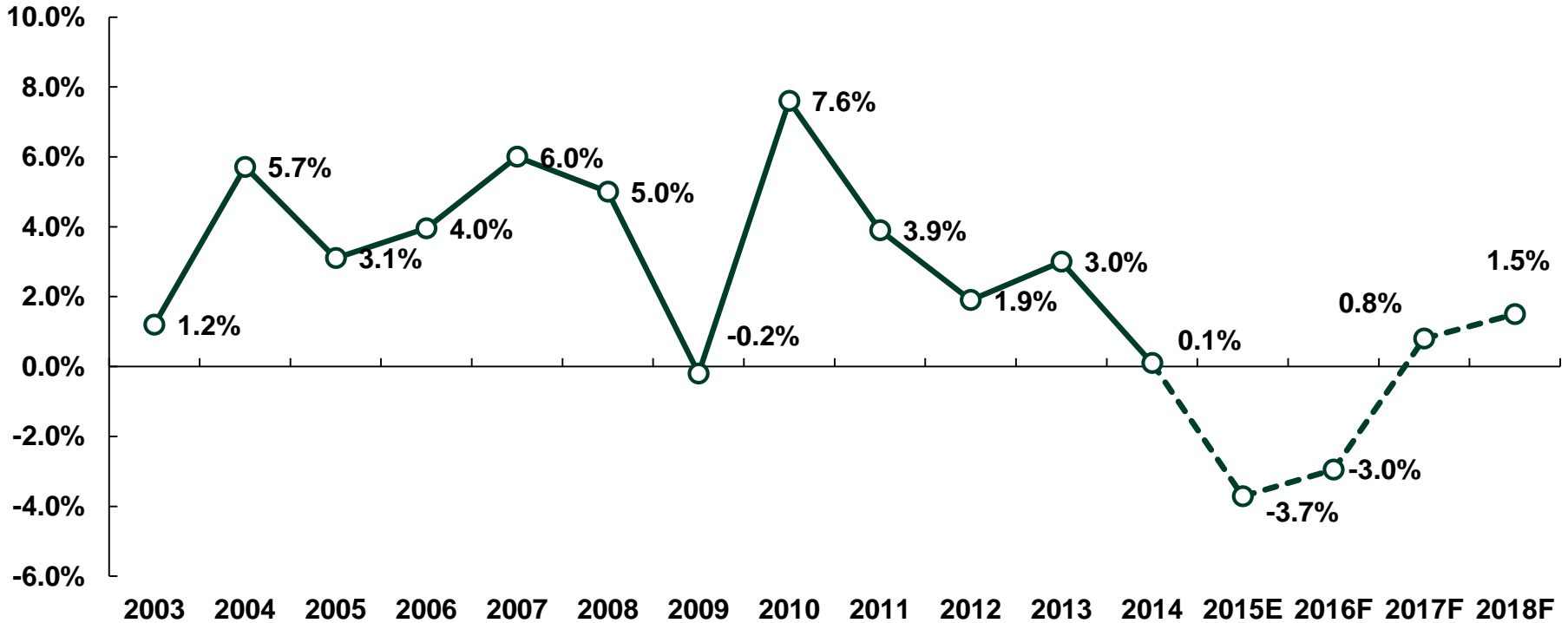
		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	備考
GDP成長率(%)		2.7	1.9	3.0	0.1	▲3.7	推定値(出所)Focus
名目GDP	(BRL/10億)	4,143	4,806	5,316	5,521	N.A.	
	(USD/10億)	2,473	2,459	2,464	2,345	N.A.	
貿易収支(USD/10億)		29.8	19.4	2.3	▲4.1	19.7	(出所)開発商工省
小売売上動向指数(%)		6.7	8.4	4.3	0.3	N.A.	
基礎的財政収支(BRL/10億)		129	105	91	▲33	▲116	(出所)国庫局
株価【BOVESPA】(ポイント)		56,754	60,952	51,507	50,007	43,350	
政策金利【Selicレート】(%)		11.00	7.25	10.00	11.75	14.25	
インフレ率【IPCA】(%)		6.50	5.84	5.91	6.41	10.67	(出所)IBGE
為替レート(リアルドル)		1.8668	2.0516	2.3621	2.6576	3.9608	

出所:ブラジル中央銀行、IBGE、Bloomberg

GDP成長率

金融部会

前年比(%)



ルーラ政権

年平均GDP成長率:4.0%

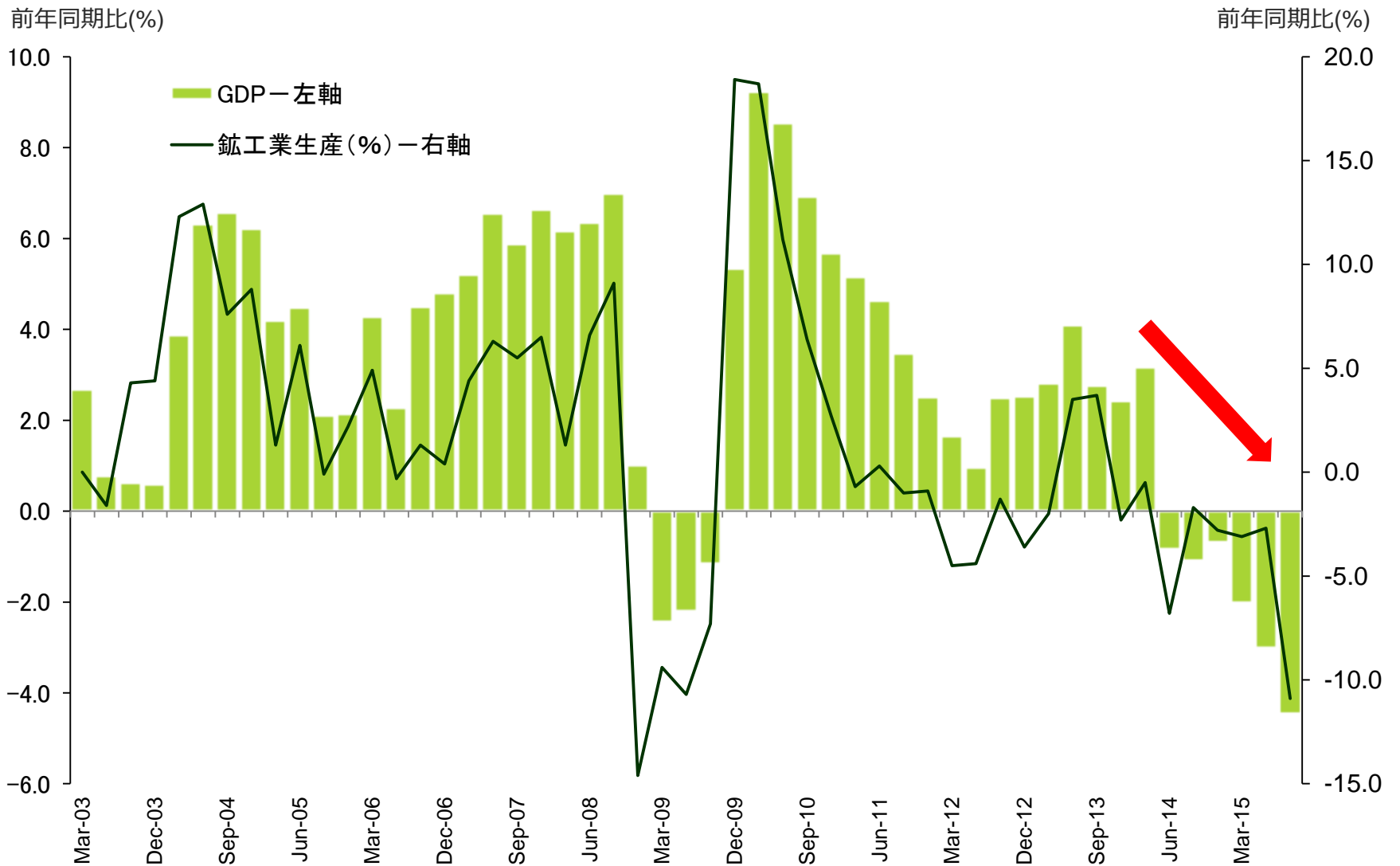
第1次
ルセフ政権

年平均GDP成長率:2.2%

第2次
ルセフ政権

GDP成長率および工業生産推移(四半期ベース)

金融部会



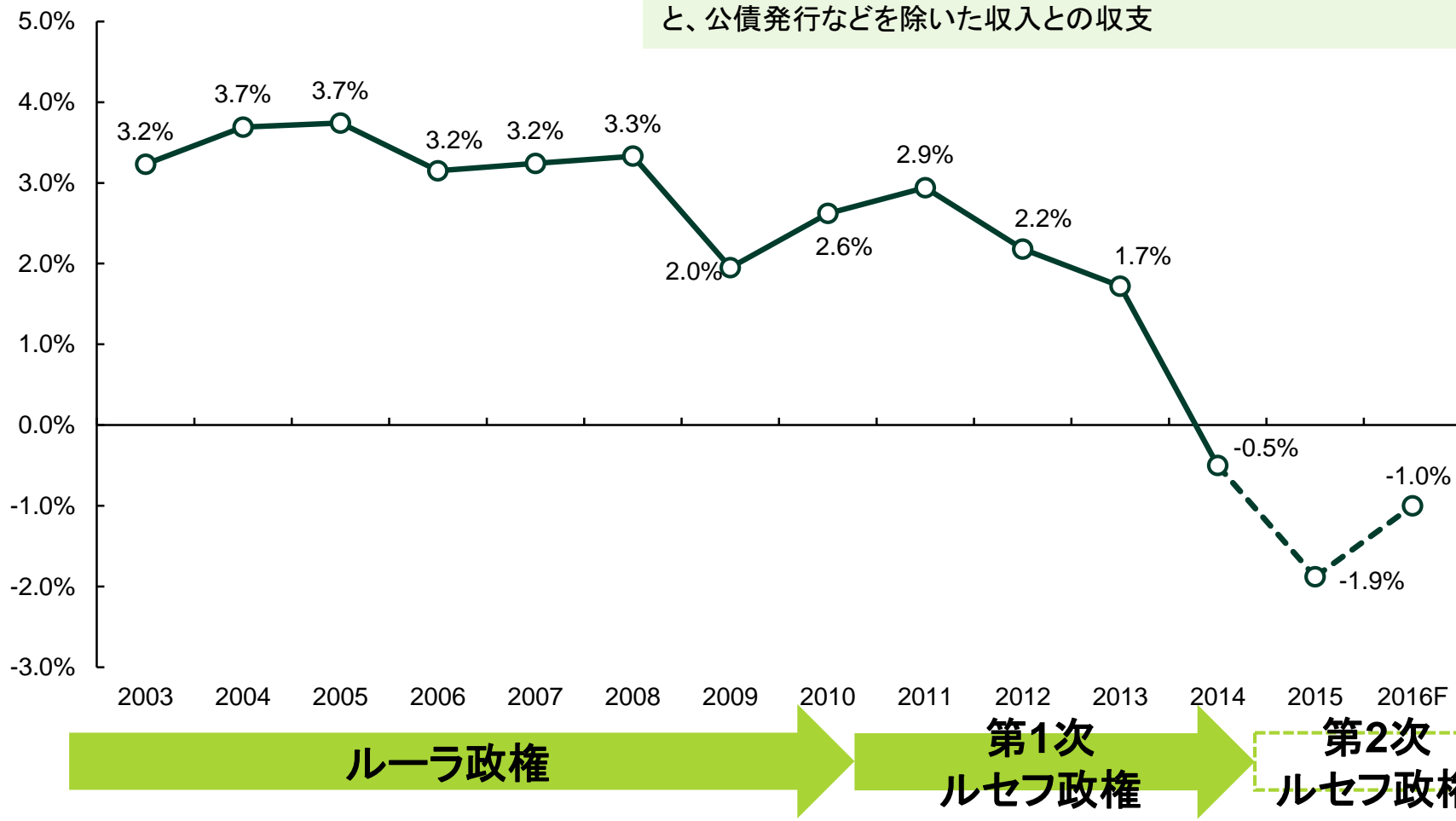
出所: Bloomberg

基礎的財政収支(対GDP比)

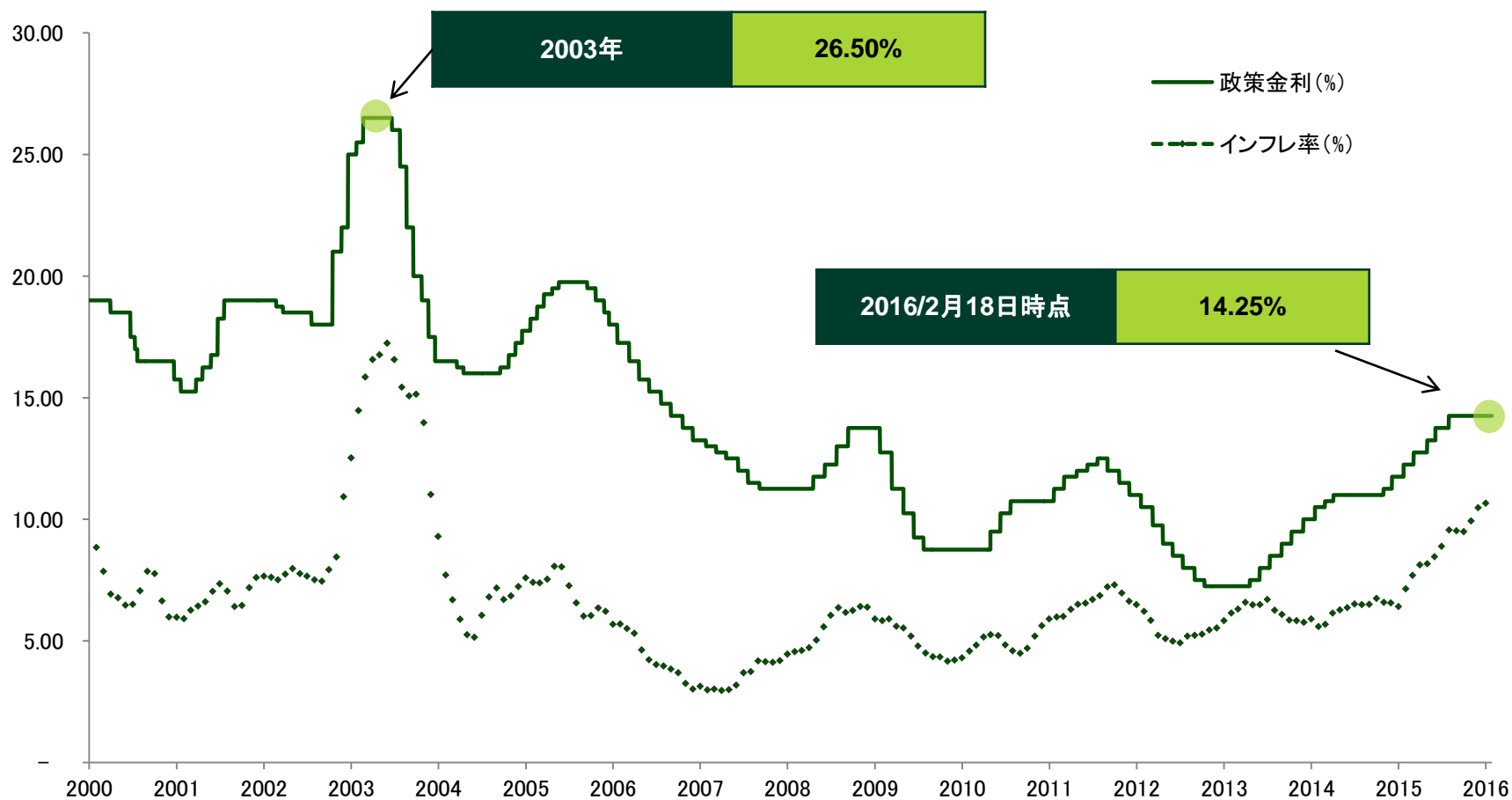
金融部会

基礎的財政収支

政府会計において、過去の債務に関わる元利払い以外の支出と、公債発行などを除いた収入との収支



出所:各種資料に基づき、ブラジル三井住友銀行作成



為替推移①(リアルドル)

(2000年1月から2016年2月18日迄)

(リアルドル)



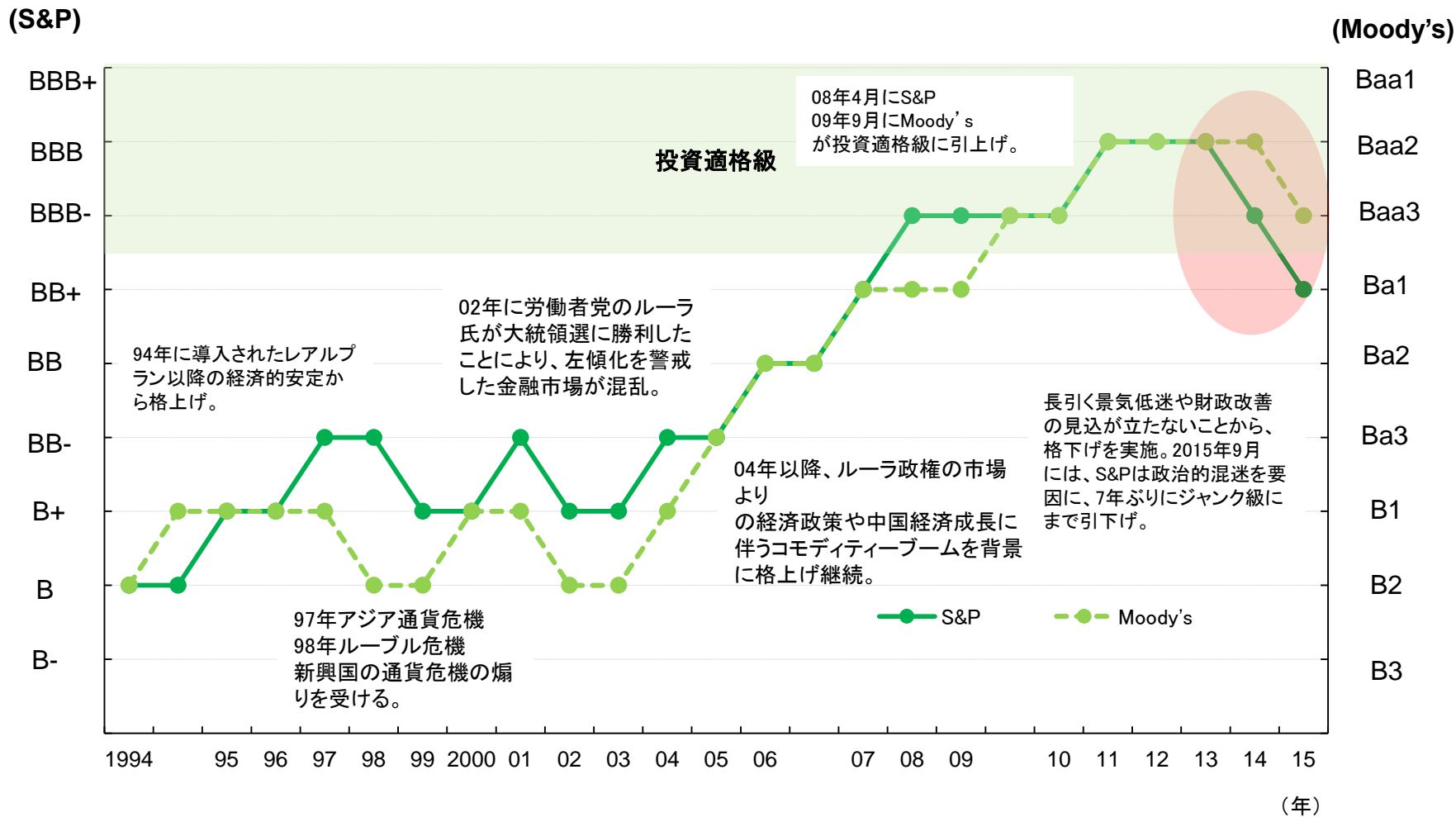
為替推移②(円-リアル)

(2000年1月から2016年2月18日迄)

(リアル/円)

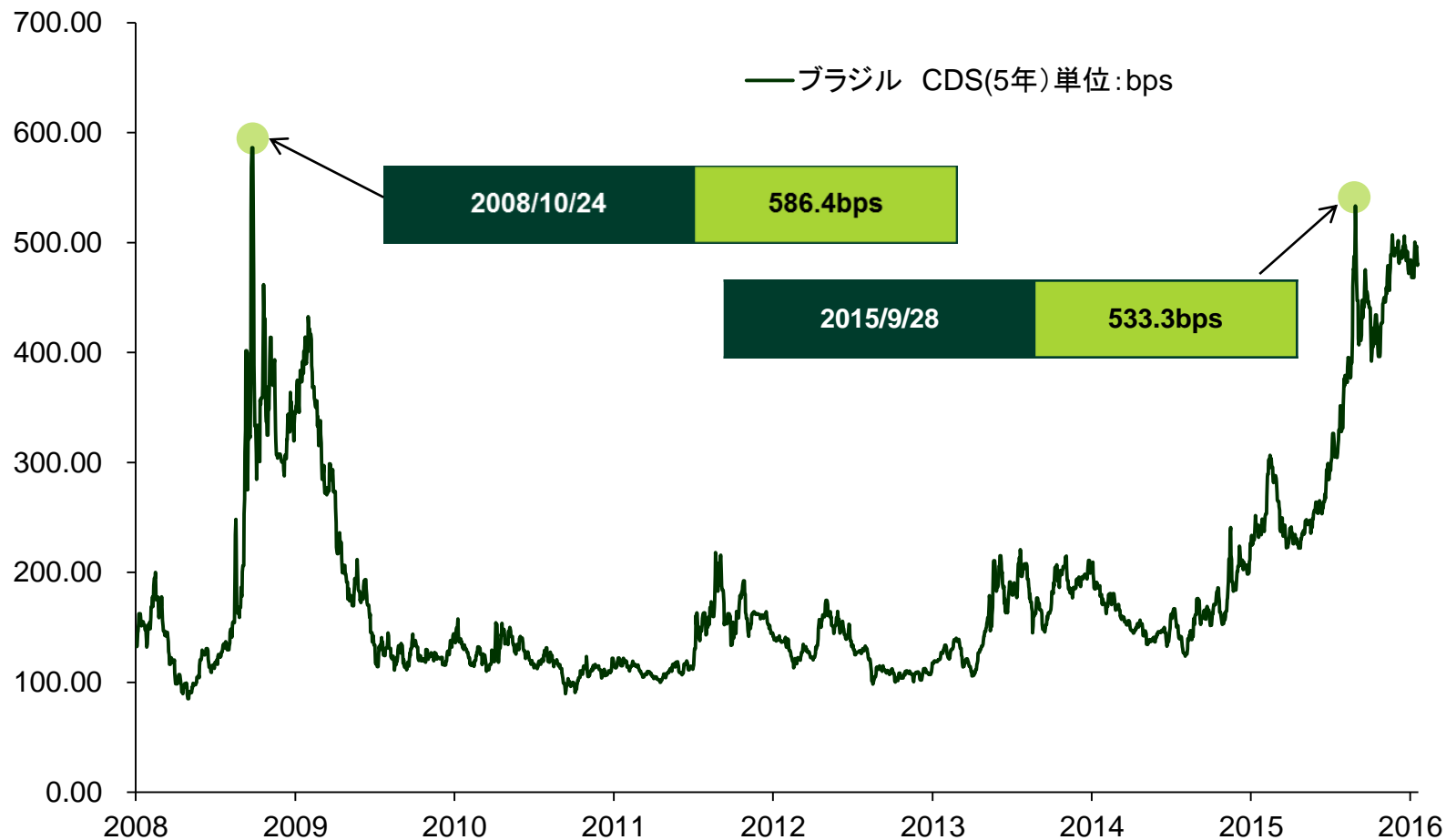


■ ブラジル外貨建長期国債の格付推移

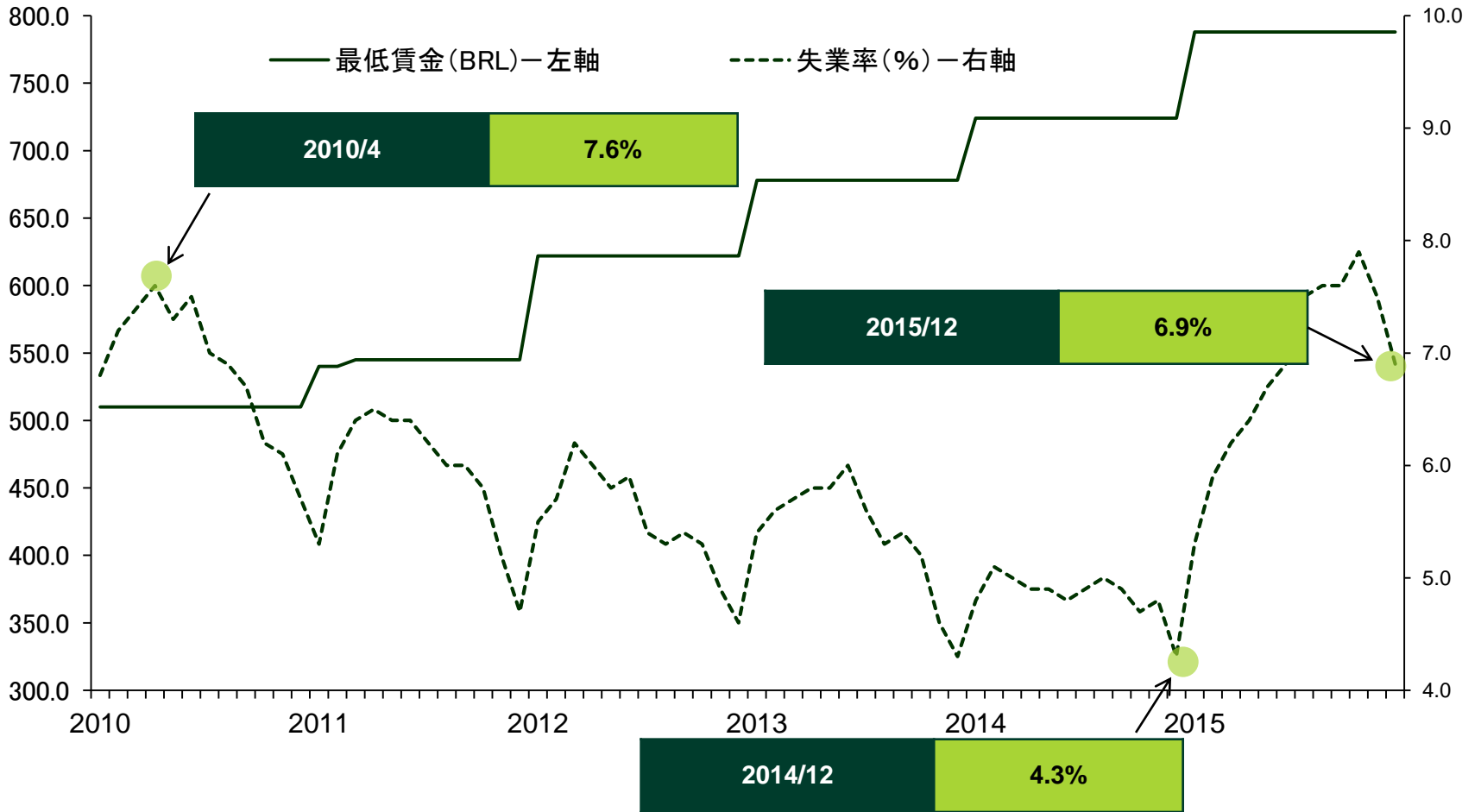


■ ブラジル5年物CDS推移

(2008年1月から2016年2月18日迄)



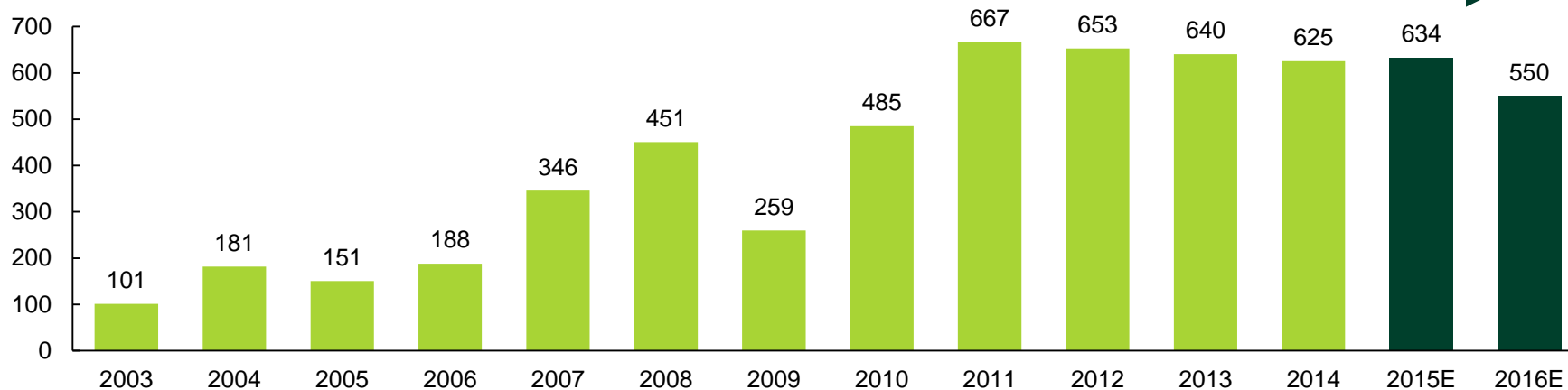
失業率および最低賃金推移



(補足)失業率は、IBGE(ブラジル地理統計院)が算出するブラジル主要6都市における失業率平均値を使用。

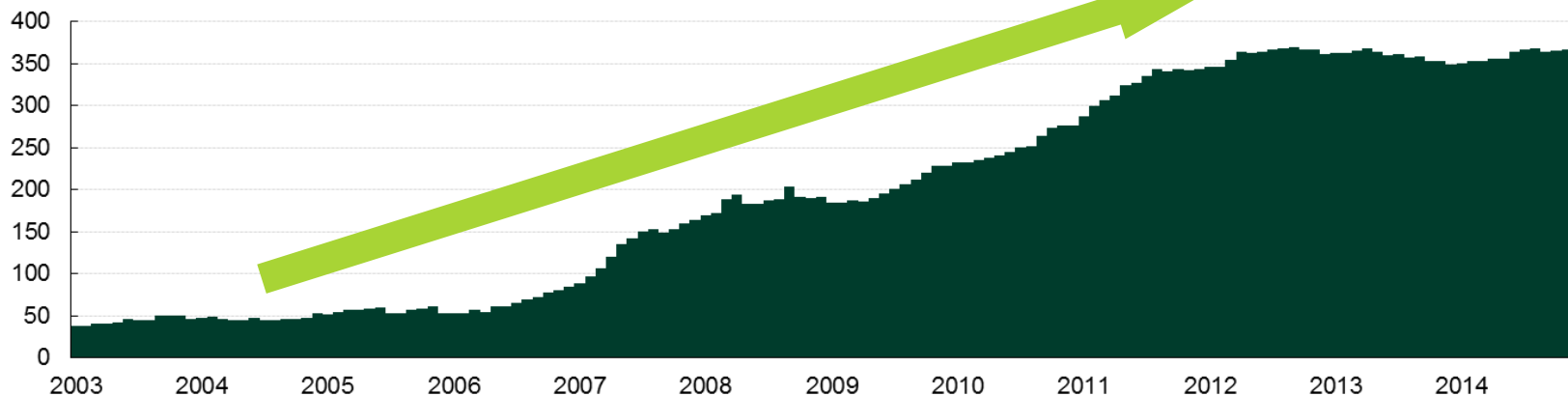
外国直接投資

(億ドル)



外貨準備高

(十億ドル)



2016年ブラジル経済の展望(予想値)

金融部会

指標	2015年			2016年	
	金融部会予測値 (2015年8月シンポジウム予測値)		実績	Focus予測値 (2016/2/5時点)	金融部会予測値 (レンジ)
	メインシナリオ	リスクシナリオ			
GDP成長率 (前年比%)	▲1.7~▲2.2	▲2.0~▲3.0	▲3.7 (推定値)	▲3.2	▲2.5~▲4.0
インフレ率 (IPCA%)	9.0~9.4	8.0~10.3	10.67	7.56	6.50~9.00
年末為替レート (リアル/ドル)	3.2~3.5	3.7~4.2	3.96	4.4	4.0~4.5
年末政策 目標金利 (%)	14.25	12.0~15.0	14.25	14.25	13.25~15.25

現在の不振の理由

- 経済が好調時に、同国のボトルネックである税制や輸出政策等の構造改革に着手してこなかったため。ブラジルを取巻くブームが去ると、消費者・投資家心理が自信喪失、冷え込んだため。
- 国内要因は「バラ撒き」から「財政再建策」に舵を切ったため。国外要因は、中国経済の減速。
- 政府財政に余裕がないことや、汚職問題等で企業が難しい状況に直面しているゆえ、官民による投資額の減少したため。
- 成長を牽引してきた個人消費が限界点に到達したため。また、政治面では「連合大統領制」が機能しなくなってきたため。
- インフレ沈静のために総需要抑制政策を採用しているにも拘らず、供給サイドの下方硬直性により、インフレ抑制効果は薄く、経済成長のみを減退させる「スタグフレーション的状况」に突入したため。

いつ好転するのか？ また、その契機は？

2017年説

- 長いリセッションを経た後の景気サイクルの一環で、2017年下期から回復軌道に乗るのでは？
- 2016年に行われる雇用を通じた供給サイドの調整が進むことで、インフレ率は2017年中には一服。以降、政府は総需要拡大政策に比重を置くことができるため、消費が回復基調になるのでは？

2018年説

- 同年10月に行われる大統領選を控え、政権交代期待が高まり、経営者・消費者・投資家マインドが好転し、前年までの低い経済パフォーマンス対比でV字回復するのでは？

その他

- 財政改革本格化、コモディティ価格の回復があるまでは、自立的な回復は困難では？
- 強力なリーダーシップを持った指導者の登場。

日系企業にとっての ビジネスチャンス

- ブラジル企業価値低下およびレアル安による買収チャンス。
- ブラジル企業によるリストラが進み、売却資産等の出物に出くわすチャンス。
- レアル安による輸出可能性を探るチャンス。
- インフラプロジェクト等の参画チャンス。

2. 銀行業界動向

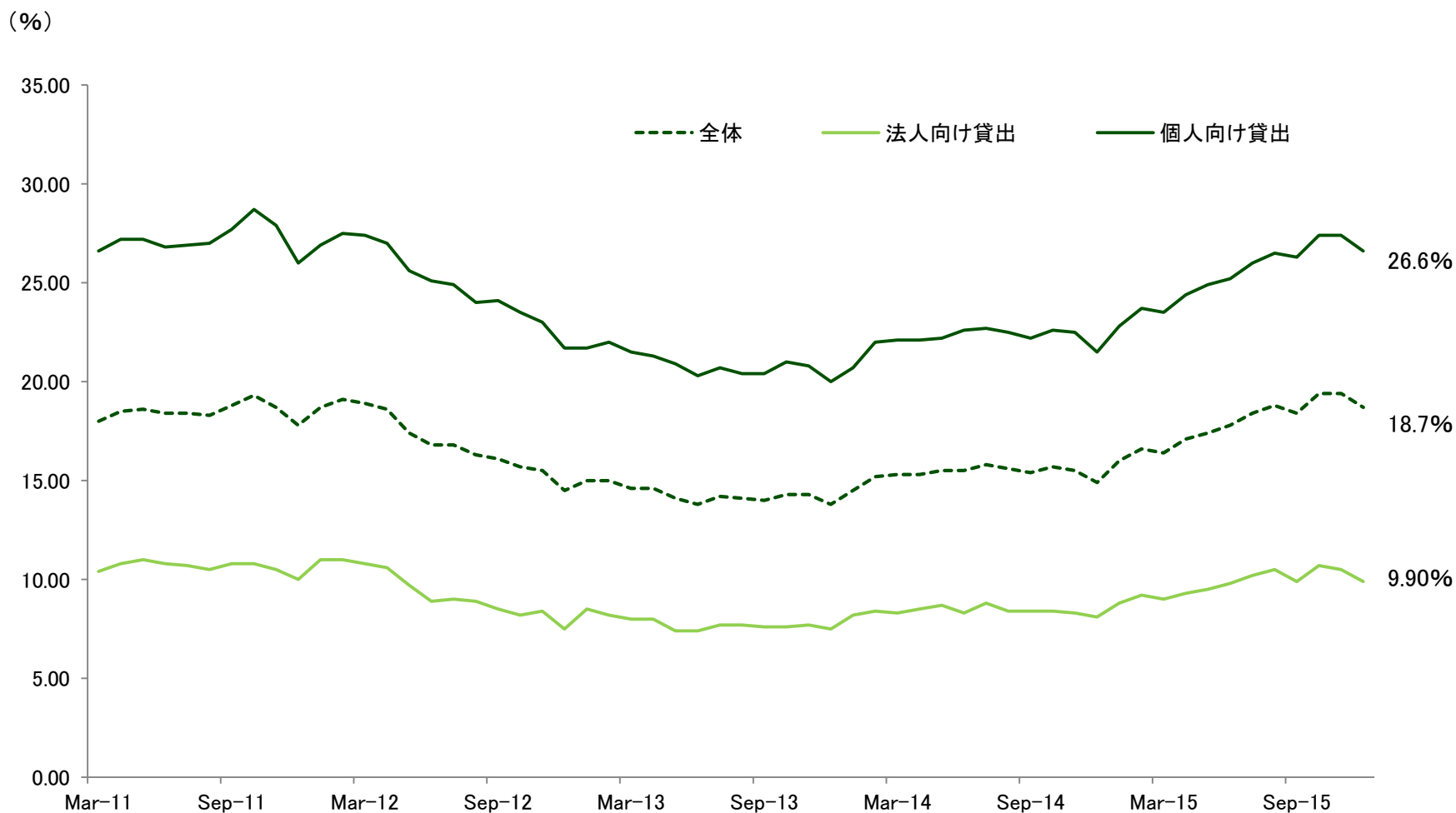
貸出残高推移

金融部会

(10億リアル)	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
個人向け貸出	627	776	920	1,074	1,246	1,412	1,510
(同増加率)	N.A.	23.8%	18.6%	16.7%	16.0%	13.3%	6.9%
法人向け貸出	794	937	1,114	1,294	1,466	1,605	1,707
(同増加率)	N.A.	18.0%	18.9%	16.2%	13.3%	9.5%	6.4%
農業				20	22	23	25
(同増加率)				N.A.	10.0%	4.5%	8.7%
鉱工業				610	691	738	778
(同増加率)				N.A.	13.3%	6.8%	5.4%
サービス業等				664	753	844	904
(同増加率)				N.A.	13.4%	12.1%	7.1%
合計	1,421	1,713	2,034	2,368	2,712	3,017	3,217
(同増加率)	N.A.	20.5%	18.7%	16.4%	14.5%	11.2%	6.6%

平均スプレッド推移

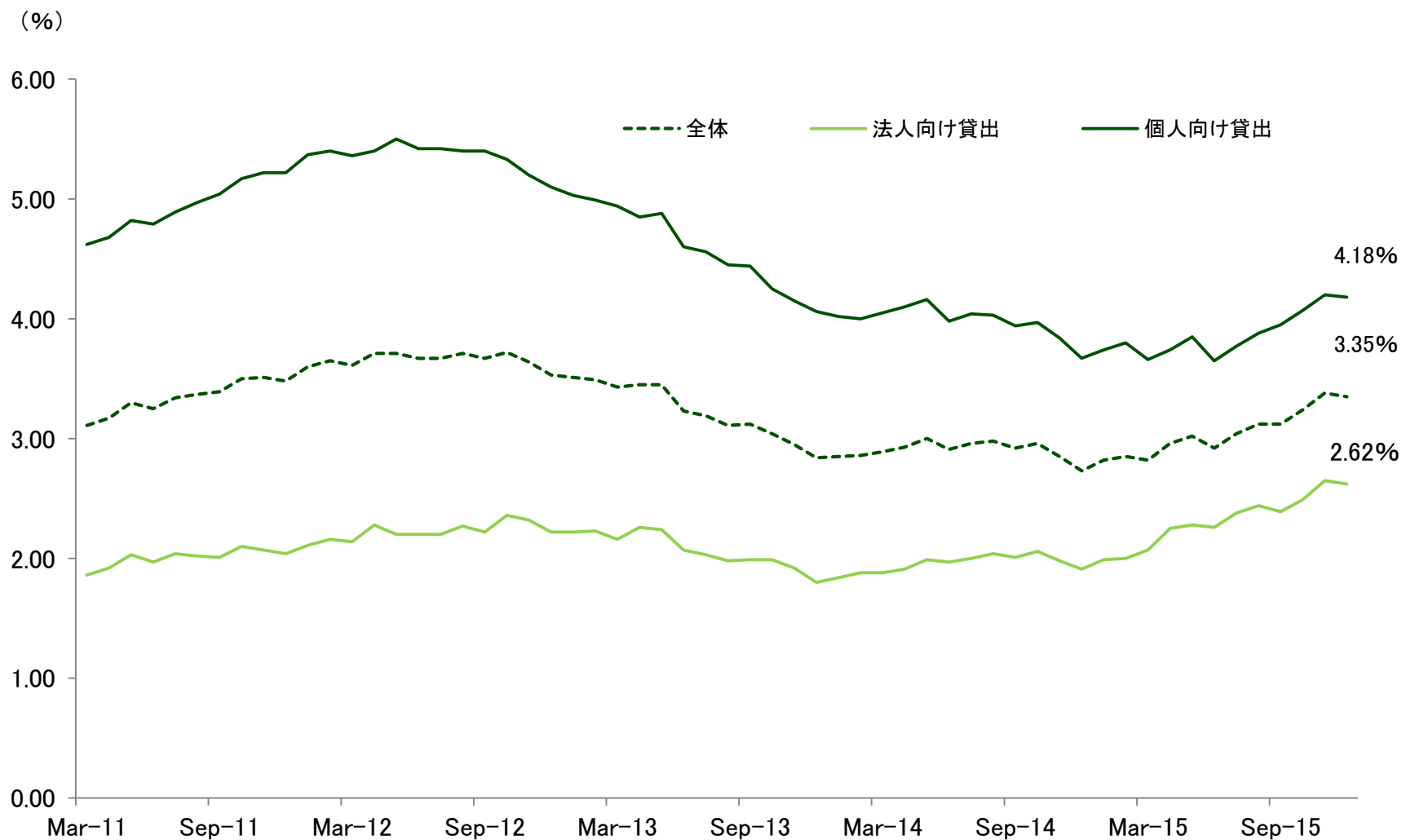
金融部会



出所:ブラジル中銀資料に基づきブラジル三井住友銀行作成

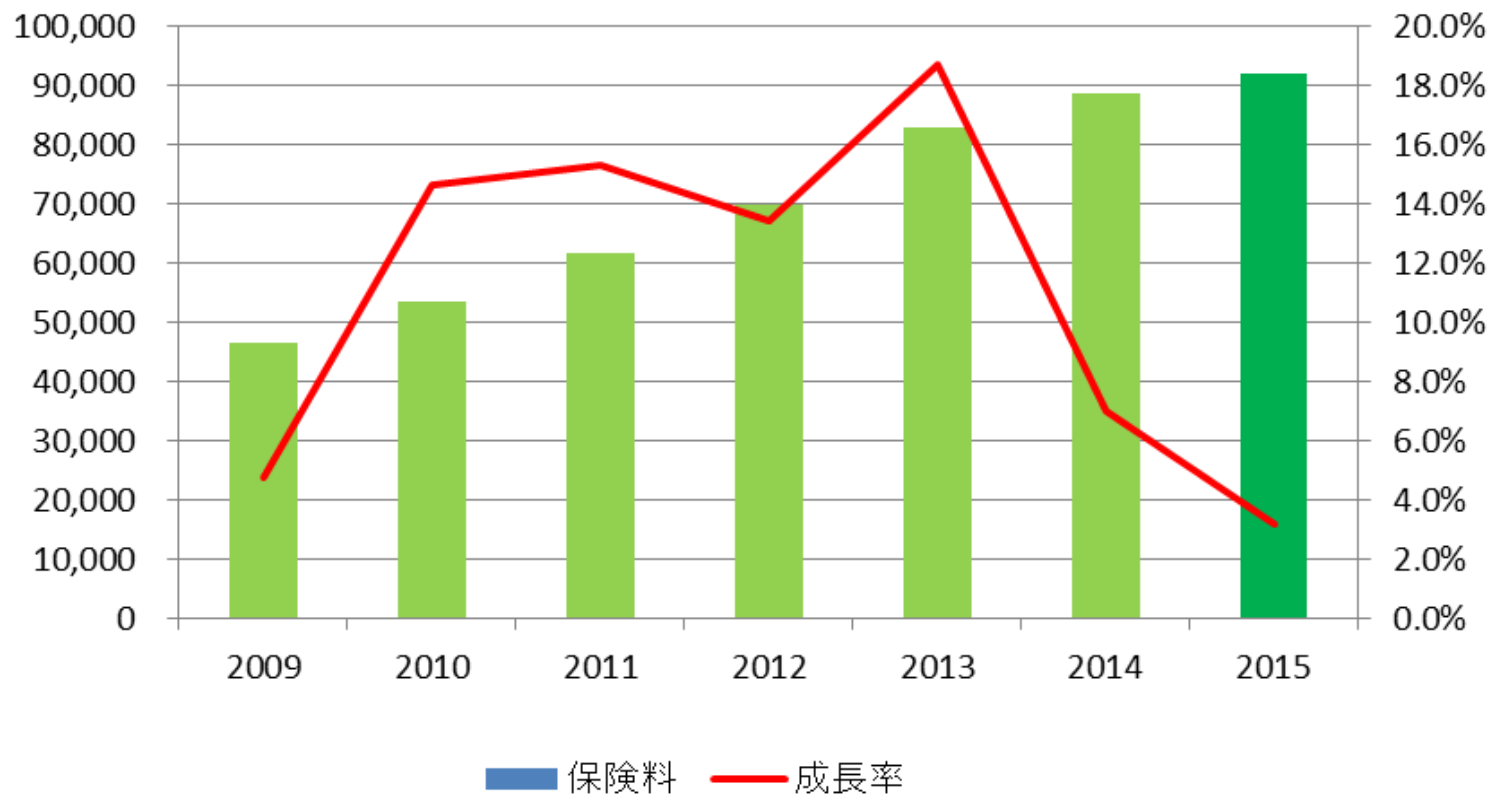
不良債権比率推移

金融部会



3. 保険業界動向

単位：百万リアル

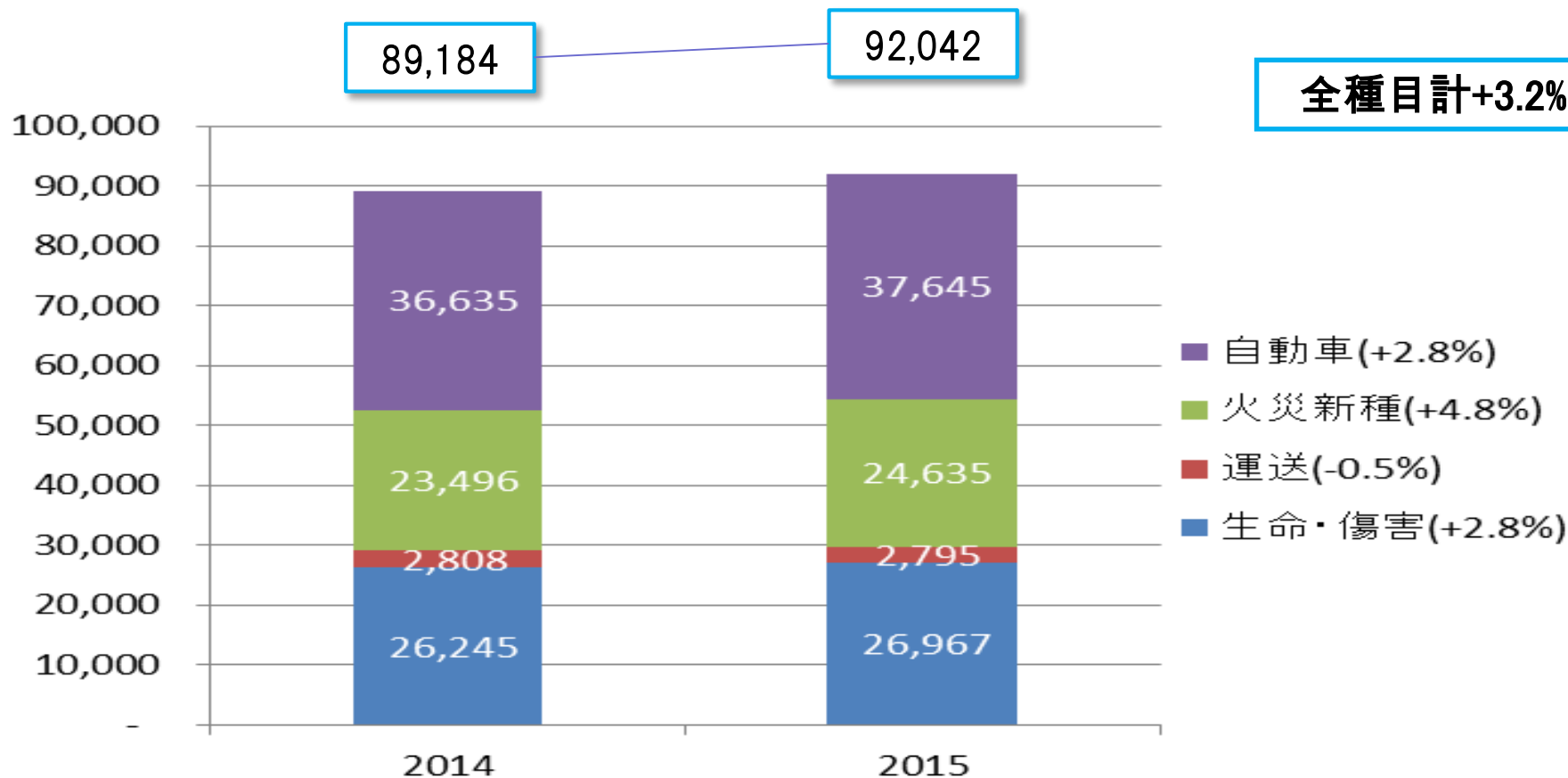


2014年以降、ブラジル経済の低迷と共に、保険業界の成長も鈍化している。

■ 保険種目別 保険料収入

金融部会

単位：百万リアル



保険種目	2014年1-12月	2015年1-12月	前年比
自動車	64.3%	62.0%	▲ 2.3pt
火災新種	41.0%	46.5%	+5.5pt
運送	67.7%	65.7%	▲ 2.0pt
損害保険計	57.8%	58.2%	+0.4pt
生命・傷害	31.8%	29.9%	▲ 1.9pt
合計	50.3%	50.1%	▲ 0.2pt

※グロス損害率

企業を対象にした火災・新種保険の損害率は、悪化傾向にある。

市場規模		保険普及			
保険料 (US\$ Billion)		保険料/GDP		保険料/人(US\$)	
米国(1)	1,280	米国(16)	7.3%	米国(10)	4,017
日本(2)	480	日本(7)	10.8%	日本(14)	3,778
英国(3)	351	英国(8)	10.6%	英国(7)	4,823
伯国(13)	85	伯国(39)	3.9%	伯国(44)	422

※2014年データ、 () は世界ランキング、年金保険等を含む

ブラジルは、他の先進国と比べ保険の普及が低く、中長期的には、保険市場の拡大が見込まれる。

貿易 部会

寺本 将人 副部会長

Departamento de Comércio Exterior

Vice-Presidente: Masahito Teramoto

2015年 ブラジル貿易動向

2016年2月25日
ブラジル日本商工会議所
貿易部会

1. 総括

半期ごとの輸出入額の推移

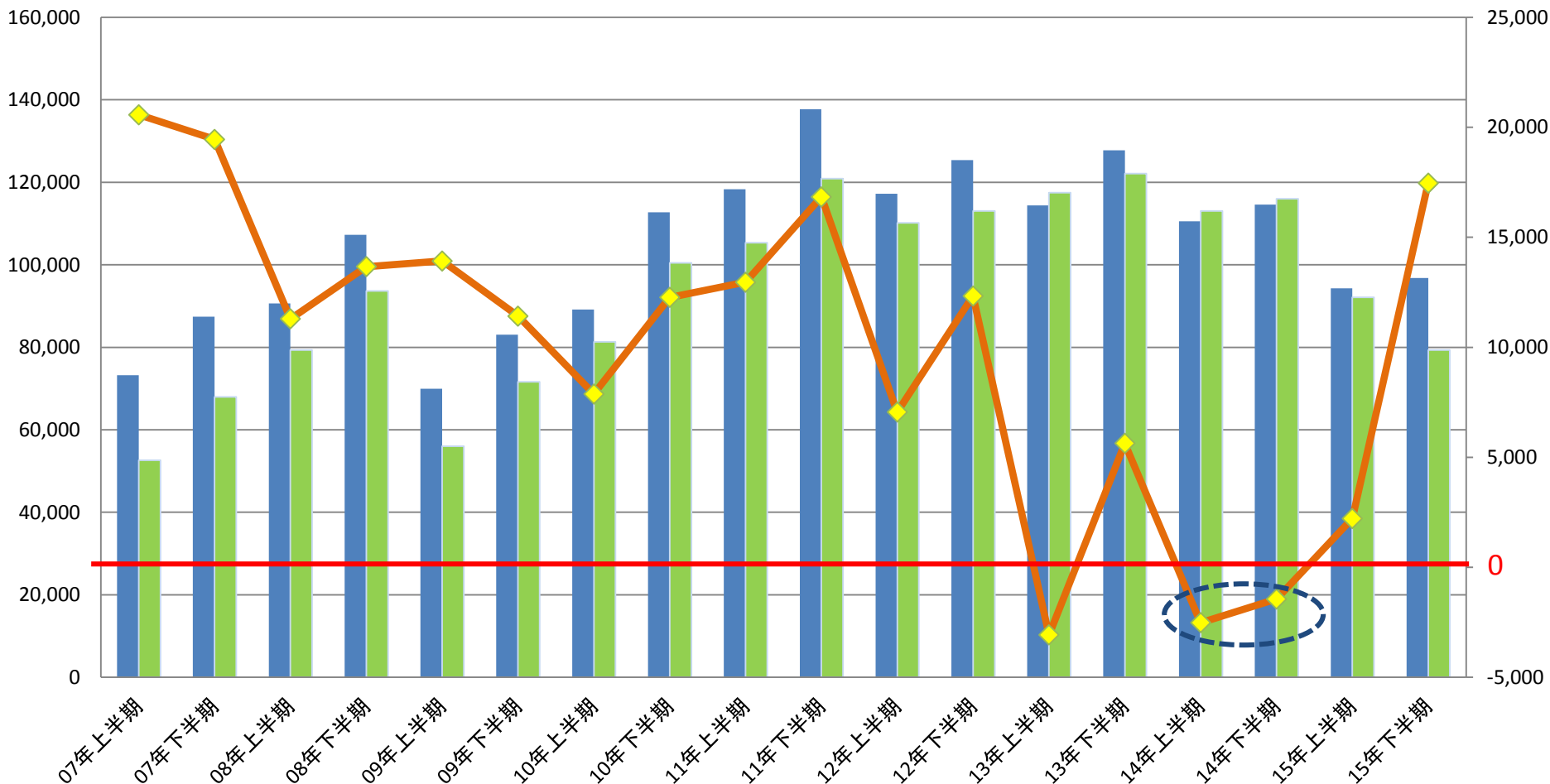
<輸出入額>

■ 輸出額

■ 輸入額

◆ 貿易収支

<貿易収支>



(単位:百万ドル)

為替レート 2014年 R\$2.35/US\$

(期中平均) 2015年 R\$3.33/US\$

2. 輸出 ～主要商品別～

金額: 単位百万ドル

数量: 単位千トン(*乗用車のみ単位は「台数」)

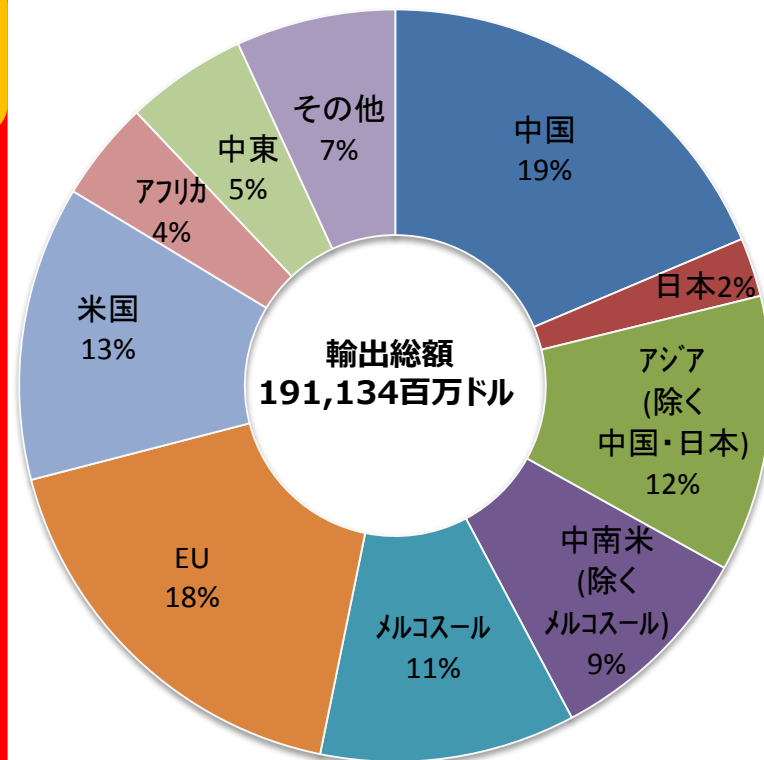
	2014年			2015年			増減率	
	金額	金額 構成比	数量	金額	金額 構成比	数量	金額 増減率	数量 増減率
一次産品	109,556	48.7%	480,730	87,188	45.6%	534,725	-20.4%	11.2%
大豆	23,277	10.3%	45,691	20,984	10.9%	54,324	-9.9%	18.9%
鉄鉱石	25,819	11.5%	344,384	14,076	7.4%	366,194	-45.5%	6.3%
原油	16,357	7.3%	27,058	11,781	6.2%	38,416	-27.9%	41.9%
鶏肉	6,893	3.1%	3,648	6,230	3.3%	3,888	-9.6%	6.6%
半製品	29,065	12.9%	44,263	26,463	13.9%	48,189	-8.9%	8.9%
粗糖	7,450	3.3%	19,261	5,901	3.1%	18,927	-20.8%	-1.7%
化学木材パルプ	5,290	2.4%	11,028	5,586	2.9%	11,963	5.6%	8.5%
鉄鋼半製品	3,194	1.4%	6,295	3,008	1.6%	8,716	-5.8%	38.5%
合金	2,746	1.2%	364	2,260	1.2%	321	-17.7%	-11.9%
工業製品	80,211	35.6%	45,904	72,791	38.1%	48,338	-9.3%	5.3%
航空機	3,430	1.5%	2	4,034	2.1%	3	17.6%	20.4%
乗用車	3,195	1.4%	* 309,874	3,366	1.8%	* 388,761	5.4%	25.5%
水酸化アルミニウム	2,409	1.1%	8,634	2,593	1.4%	8,966	7.7%	3.9%
自動車・トラクター部品	2,579	1.2%	344	2,297	1.2%	337	-10.9%	-2.1%
その他	6,268	2.8%	5,833	4,692	2.5%	6,375	-25.1%	9.3%
輸出総額	225,100	100%	576,730	191,134	100%	637,627	-15.1%	10.6%

2. 輸出 ～主要国/地域別～

(単位:百万ドル)

国名	2014年	2015年		増減率
		金額	構成比	
中国	40,616	35,607	18.6%	-12.3%
米国	27,027	24,079	12.6%	-10.9%
アルゼンチン	14,281	12,800	6.7%	-10.4%
オランダ	13,035	10,044	5.3%	-22.9%
ドイツ	6,632	5,178	2.7%	-21.9%
日本	6,718	4,844	2.5%	-27.9%
チリ	4,984	3,978	2.1%	-20.2%
インド	4,788	3,617	1.9%	-24.5%
メキシコ	3,669	3,588	1.9%	-2.2%
イタリア	4,020	3,270	1.7%	-18.7%
その他	99,330	84,129	44.0%	-15.3%
輸出総額	225,100	191,134	100.0%	-15.1%

地域別構成比率



<出所> 開発商工省貿易局 (SECEX)

3. 輸入 ～主要商品別～

金額:単位百万ドル

数量:単位千トン(*乗用車のみ単位は「台数」)

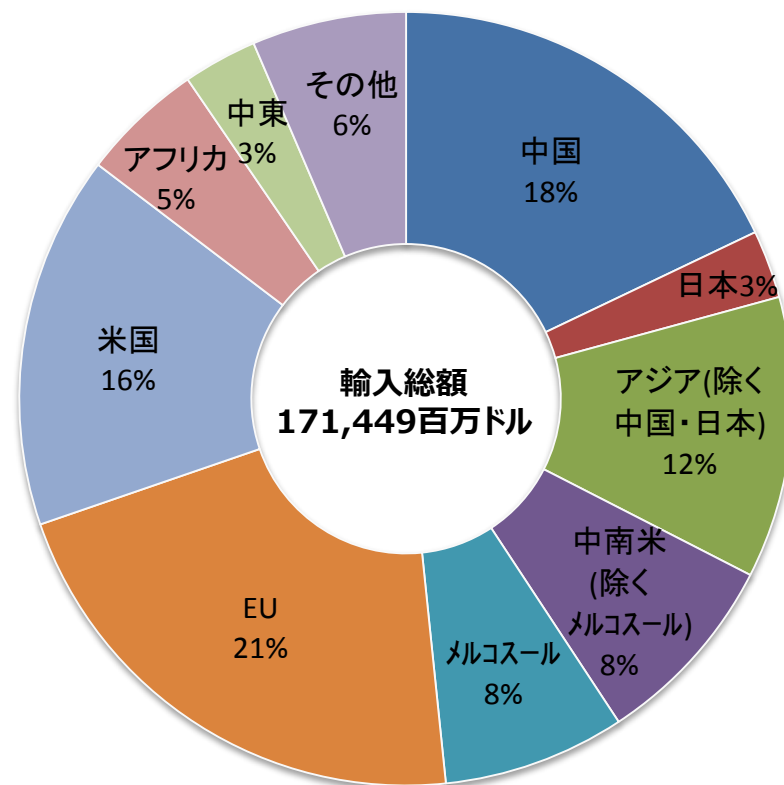
	2014年			2015年			増減率	
	金額	金額 構成比	数量	金額	金額 構成比	数量	金額 増減率	数量 増減率
一次産品	31,573	13.8%	71,220	19,874	11.6%	68,012	-37.1%	-4.5%
原油	15,533	6.8%	19,220	7,380	4.3%	16,092	-52.5%	-16.3%
天然ガス	3,827	1.7%	9,076	2,568	1.5%	9,347	-32.9%	2.9%
半製品	7,815	3.4%	10,963	6,853	4.0%	9,773	-12.3%	-10.9%
塩化カリウム	2,897	1.3%	9,051	2,513	1.5%	7,821	-13.2%	-13.6%
工業製品	189,765	82.8%	83,125	144,720	84.4%	68,687	-23.7%	-17.4%
医薬品	6,760	3.0%	35	5,834	3.4%	37	-13.7%	3.3%
自動車部品	7,143	3.1%	882	5,361	3.1%	697	-24.9%	-20.9%
乗用車	7,675	3.4%	* 505,292	5,019	2.9%	* 336,000	-34.6%	-33.5%
燃料油	9,036	3.9%	10,010	3,556	2.1%	6,272	-60.6%	-37.3%
殺虫剤、除草剤	3,464	1.5%	293	3,080	1.8%	293	-11.1%	-0.3%
半導体	4,537	2.0%	3	3,025	1.8%	2	-33.3%	-31.2%
輸入総額	229,154	100%	165,309	171,449	100%	146,472	-25.2%	-11.4%

3. 輸入 ～主要国/地域別～

(単位:百万ドル)

国名	2014年	2015年		増減率
		金額	構成比	
中国	37,344	30,719	17.9%	-17.7%
米国	35,018	26,471	15.4%	-24.4%
ドイツ	13,837	10,379	6.1%	-24.9%
アルゼンチン	14,142	10,284	6.0%	-27.3%
韓国	8,525	5,420	3.2%	-36.4%
日本	5,901	4,877	2.8%	-17.4%
イタリア	6,311	4,675	2.7%	-25.9%
ナイジェリア	9,495	4,633	2.7%	-51.2%
フランス	5,700	4,457	2.6%	-21.8%
メキシコ	5,363	4,377	2.6%	-18.3%
その他	87,518	65,157	38.0%	-25.6%
輸入総額	229,154	171,449	100%	-25.2%

地域別構成比率



<出所> 開発商工省貿易局(SECEX)

4. 対日貿易

輸出

(単位:百万ドル)

商品名	2014年	2015年		伸び率
		金額	構成比	
鉄鉱石	2,447	1,208	24.9%	-50.6%
鶏肉	1,074	836	17.3%	-22.2%
とうもろこし	232	461	9.5%	98.1%
コーヒー豆	488	439	9.1%	-10.0%
アルミニウム	442	367	7.6%	-16.9%
合金	304	230	4.7%	-24.2%
大豆	299	185	3.8%	-38.2%
化学木材パルプ	101	103	2.1%	2.2%
冷凍オレンジ	102	90	1.9%	-11.6%
航空機	57	87	1.8%	52.9%
その他	1,168	834	17.2%	-28.6%
合計	6,718	4,844	100%	-27.9%

輸入

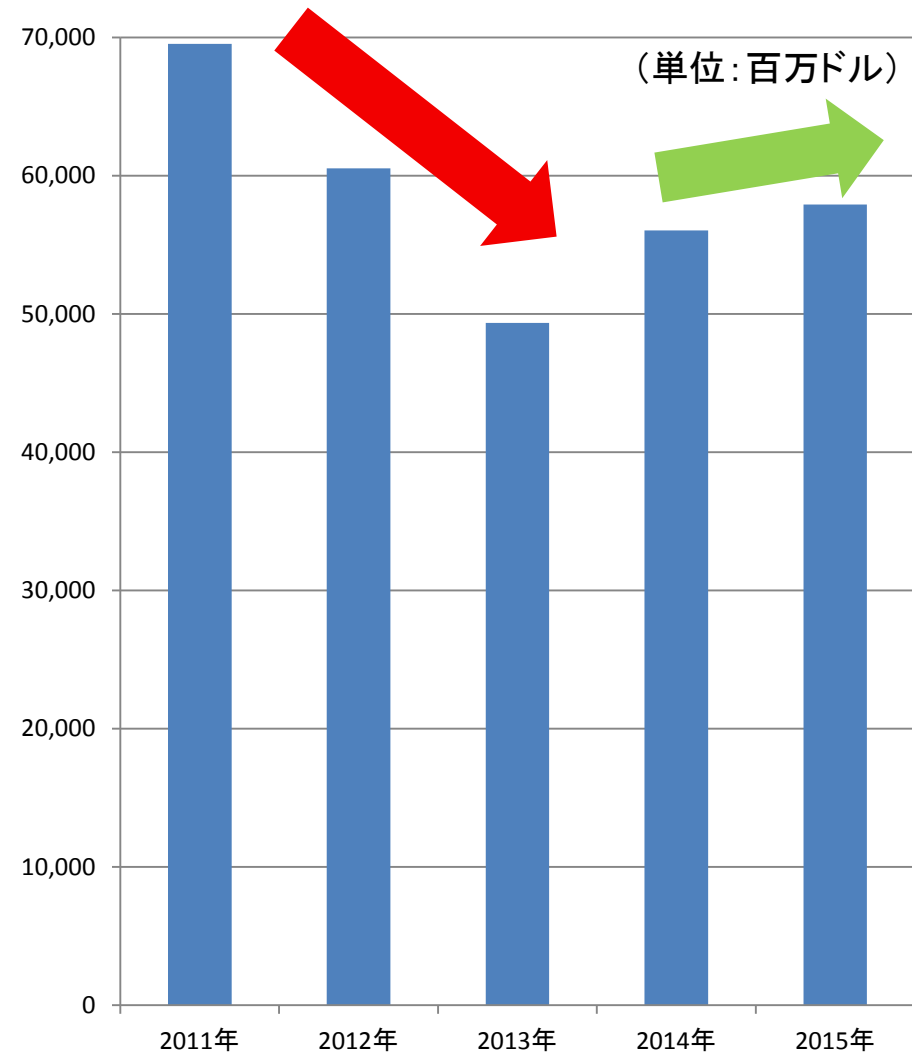
(単位:百万ドル)

商品名	2014年	2015年		伸び率
		金額	構成比	
自動車・トラクター部品	584	505	10.4%	-13.5%
乗用車	417	325	6.7%	-22.0%
測定機器等	270	223	4.6%	-17.4%
ベアリング・歯車 及びそれら部品	228	185	3.8%	-18.9%
自動車エンジン部品	202	172	3.5%	-14.8%
鋼管製品	89	163	3.3%	82.4%
複素環式化合物	153	137	2.8%	-10.5%
自動車用エンジン 及びそれらの部品	135	119	2.4%	-12.0%
自動車二輪車部品	113	113	2.3%	0.6%
鉄道鉄鋼関連	42	101	2.1%	142.5%
その他	3,663	2,828	58.0%	-22.8%
合計	5,901	4,877	100.0%	-17.4%

<出所> 開発商工省貿易局(SECEX)

5. 対内直接投資 ～推移・国別～

対内直接投資推移



国別対内直接投資

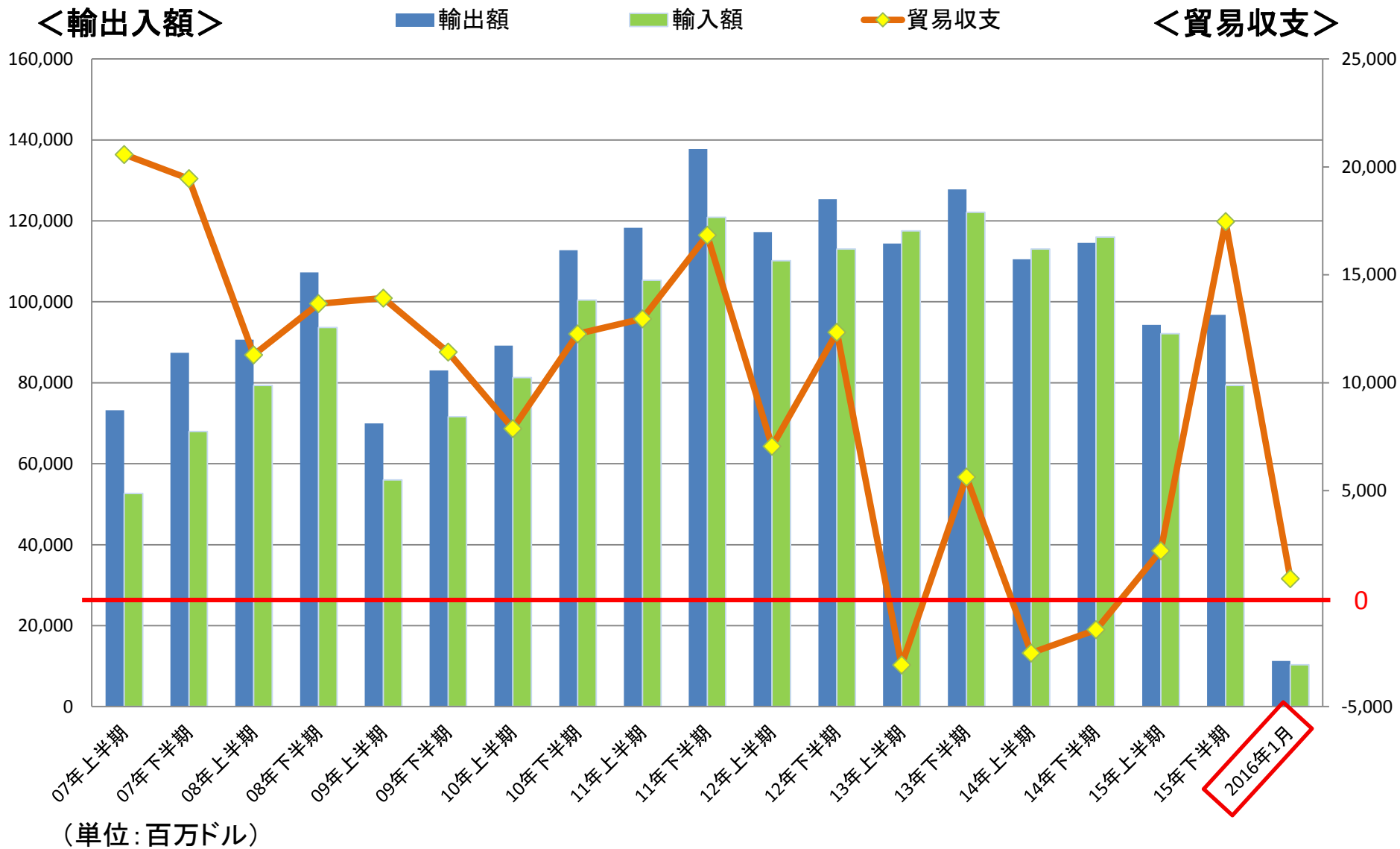
国	2014年	2015年		伸び率
		金額	構成比	
オランダ	8,791	11,573	20.0%	31.6%
米国	8,580	6,647	11.5%	-22.5%
ルクセンブルク	6,659	6,599	11.4%	-0.9%
スペイン	5,962	6,570	11.3%	10.2%
ドイツ	1,574	3,453	6.0%	119.3%
日本	3,780	2,878	5.0%	-23.9%
フランス	2,945	2,841	4.9%	-3.5%
ノルウェー	554	2,445	4.2%	340.9%
イタリア	868	1,720	3.0%	98.0%
英国	1,726	1,649	2.8%	-4.5%
その他	14,659	11,534	20%	-21.3%
合計	56,099	57,907	100%	3.2%

5. 対内直接投資～主要業種別～

(単位:百万ドル)

	2014年		2015年		伸び率
	金額	構成比	金額	構成比	
一次産品 (農業・畜産・鉱業・その他)	5,620	10.0%	8,309	14.4%	47.8%
石油・天然ガス採掘	2,158	3.8%	4,594	7.9%	112.9%
金属鉱物採掘業	2,148	3.8%	1,516	2.6%	-29.4%
工業 (その他も含む)	16,922	30.2%	20,966	36.2%	23.9%
自動車・トレーラー・車体	2,913	5.2%	4,517	7.8%	55.1%
化学製品	2,176	3.9%	2,416	4.2%	11.0%
食品	1,547	2.8%	2,320	4.0%	50.0%
タバコ製品	40	0.1%	2,184	3.8%	5360.0%
コンピューター機器、電子製品	1,528	2.7%	1,122	1.9%	-26.6%
機械装置	814	1.5%	1,086	1.9%	33.4%
サービス業 (その他も含む)	33,357	59.5%	28,409	49.1%	-14.8%
商業 (自動車除く)	5,656	10.1%	5,470	9.4%	-3.3%
通信	4,918	8.8%	4,551	7.9%	-7.5%
電気・ガス	2,551	4.5%	3,929	6.8%	54.0%
不動産	1,640	2.9%	2,150	3.7%	31.1%
金融・同補助サービス	4,763	8.5%	1,381	2.4%	-71.0%
不動産売買	199	0.4%	221	0.4%	11.0%
合計	56,099	100.0%	57,907	100.0%	3.2%

6. まとめ ～2016年見通し～



機械金属 部会

渡辺 健司 部会長

Departamento de Metalmeccânica

Presidente: Kenji Watanabe

業種別部会長シンポジウム

「2015年の回顧と2016年の展望」

景気低迷期だから見えてくるビジネス機会～景気回復期はいつか？

機械金属部会

(目次)

1 セグメント別レポート..... Page 3

2 まとめ..... Page 1 1

顧客事業状況

市場環境

企業対応

2016年2月25日

川崎重エブラジル 渡辺

“副題”の回顧と展望

- 2013年 下期 どうなるブラジル経済 —持続成長に向けて—
- 2014年 上期 どうしたブラジル経済 —W杯と総選挙のインパクト—
- 2014年 下期 どうする日伯関係 —ビジネス環境改善に向け、いま為すべきこと—
- 2015年 上期 再生目指すブラジル経済！ どう頑張る日系ビジネス
- 2015年 下期 必ず復活！ ブラジル経済 ～日系企業はどう立ち向かうか～
- 2016年 上期 景気低迷期だから見えてくるビジネス機会
～経済回復期はいつか？ 日系企業はどう備えるか？
- 2016年 下期 ○○○○○○○○ ！？

業種別部会長シンポジウム

機械金属部会

「2015年の回顧と2016年の展望」

景気低迷期だから見えてくるビジネス機会～景気回復期はいつか？

業種・分野別分類

- | | |
|---------------|---------------|
| (1) 鉄鋼 | (5) 農業機械 |
| (2) 社会インフラ・発電 | (6) 切削工具・計測機器 |
| (3) プラント機械・造船 | (7) 産業機械 |
| (4) 建設機械 | (8) 潤滑油・軸受 |

1. 鉄鋼（鋼板）

2015年の回顧

2015年伯鉄鋼生産関連情報（伯鉄鋼協会 年末発表）

- ・粗鋼生産：3,320万ト（14年比▼2%）4年連続減
- ・圧延品生産：2,260万ト（14年比▼9.2%）
内訳、
鋼板 1,340万ト（同▼5.6%）、
条鋼類 920万ト（同▼14%）
- ・国内販売：1820万ト（同▼16.3%） 2006年並
鋼材の見掛消費 2140万ト（同▼16.5%）
インフラ投資減、自動車産業の落ち込みの影響大
- ・鋼材輸入320万ト（同▼19.4%）
レアル安、国内需要低迷
- 輸出：1,370万ト（同40%増） 北米・アジアに伸び
製品価格の下落で価格ベースでは2.3%増

2016年の展望

2016年の展望

伯鉄鋼業界にとっては、非常に厳しい一年となる。
各種業界の需要見通しは軒並み前年比10%ダウン、
自動車メーカー連盟の販売見通しは7.5%ダウン

粗鋼生産 3,150万トン前後（2105年比▼5%）

国内販売 1,740万トン（同▼4%）
輸入 300万トン（同▼5%） さらに減る見通し
1月実績は前年同月比▼72%

輸出 1,300万トン（▼5%）
アメリカ向けの熱延、冷延鋼板が訴訟対象
となっており、不透明

2. 発電・社会インフラ(地下鉄・都市交通)

2015年の回顧

発電：

- ・水不足・電力代金の高騰は電源の多様化ニーズを拡大し 大火力発電所の増設が期待されたが、実現せず。
- ・小型ディーゼル・ガスエンジン発電設備の販売は南米諸国を含めて堅調
- ・北東部の水不足・電力不足解消の目的で **風力発電所建設** 多数。

都市交通案件：

州政府の税収減等に起因して 新規商談入札先送り、既発注工事の中断もあり、全体として**低調**。

2016年の展望

- ・3月の**電力入札**で 大型発電所案件が落札するか注目。
- ・水不足は一部の地域で解消されつつあるが、**電源多様化**が加速される見通し。
- ・風力・バイオマス発電案件など**再生エネルギー**活用の案件増加が見込まれる。
- ・小型DG発電セットも需要増が見込まれる。

大都市を中心に都市交通インフラ改善のニーズは依然高く、複数の都市で地下鉄等建設計画は有すものの、施主となる州・市政府も新政権発足直後であり、**商談プロセスは遅れる**見込み。

3. プラント機械・造船

2015年の回顧

製鉄：高炉の停止・従業員解雇などもあり、新規投資案件見合わせ、非常に厳しい年であった。

石油ガス：ペトロブラスの業績不振は改善されず、新規投資案件は実質凍結の状態。油井管の引合いも停止状態。2016年1月の設備投資計画は2014年比6割減の980億ドル

石油化学：上流に引きずられ 新規投資活動は鈍化した状況であったが、樹脂関係ではリアル安を背景に売上げアップ

製紙パルプ：世界的パルプ需要は依然堅調で、各社設備投資を検討していたが、陰りが見える。

造船：Lava Jatoの影響でペトロブラス案件（石油掘削船・FPSO）は実質的に停止を余儀なくされ、既発注案件も中断状態。

産業機械：景気減速により、ブラジルのセメント各社は設備新增設計画を延期。設備既納の客先からのスペアパーツの販売程度

2016年の展望

資源価格の下落で明るい材料乏しく、改造・補修需要程度か？

内需が堅調なガソリン・軽油などへの設備投資を期待

大型PJの計画は遅延。好調な個別分野に注目

中国のパルプ需要も衰え、パルプの価格下落を予想。各社の設備投資にも飽和感が出始める。

造船会社の資金難を回避できる、融資・出資スキームの構築を早期に行えるかが鍵。ペトロブラスの投資計画見直しで、全体スキームの修正が必須。

南米全体のセメント消費は拡大するが、ブラジルでの設備投資は低迷する。スペ

4. 建設機械

2015年の回顧

建設機械：

2014年 総需要台数 15,832 (農業開発省
3,258台)

2015年 総需要台数 6,500 (前年比▼48%)

政府の緊縮予算、L a b a J a t oに起因する
インフラプロジェクトの中断、融資打切り・与信
厳格化、建設会社の投資見送りの影響

油圧ショベル

2015年総需要 3000台 (前年比▼37%)

小型建機ビジネス：

小型バックホー(11トン以下) 販売は前年比▼58%
と
大幅減。

2016年の展望

2015年同様 建設機械の需要を取り巻くビジネス
環境に大きな変化は無く、政治の混乱も続くと考え
える。

2016年の総需要は昨年比30%を下回る4500台程度。
対応：小型機種を 好調な農業・林業市場への参
入を図る。レアル安を活用して欧米向けに輸出を
増やす。

2016年は前年比▼10~15%市場規模縮小

労働賃金の上昇により、小型建機の増加トレンド
は変わらないと推測するが、2015年同様厳しい状
況が継続。

5. 農業機械（小型ディーゼルエンジン含む）

2015年の回顧	2016年の展望
<p>小型ディーゼルエンジンビジネス 発電機セット・農耕車両向けのエンジンの販売が比較的好調で2014年比 台数ベース99%、金額ベース108%となった。</p> <p>トラクタービジネス 2014年も業界全体で前年比85%と不調であったが、2015年は、さらに67%と大きく落ち込んだ。農作物の収穫は良好であった反面、市場価格が下落、また政府の農業向け低利融資も滞りも原因となった。</p>	<p>横這い 発電機セットの販売増を予測するが、建設作業向けの需要は回復に時間を要す。</p> <p>20馬力以下のエンジン市場は、地方への電化による市場が縮小している。</p> <p>2015年並を予想 日本機種投入でブランド力で販売増を狙う</p>

6. 切削工具 計測機器

2015年の回顧

切削機械：

主力顧客である自動車産業販売不振（▼26%）に伴ない、自動車生産台数も▼23%（トラックは▼48%）となり、2015年の切削機械の販売実績は**マイナス10%台**となった。

年初から急激なリアル安・金利高・インフレに遭遇して、経営的に厳しい状況であった。

計測機器

主力顧客はエネルギー・自動車業界で 現状投資抑制の状況が継続しており、営業環境は厳しい

2016年の展望

比較的堅調に推移している市場 **金型、航空機、農業、医療分野**の需要取り込を図る。新規分野開拓

先進技術の紹介、A Sの充実を図り、需要回復時のリピート顧客作りを準備する。

ブラジル経済の回復基調は政権交代後で、それまでの対応は 比較的好調な**医療分野への営業シフト**、ブラジル社会に根ざした経営の確立、リアル安を生かした投資など

7. 産業機械

2015年の回顧

ホイスト・クレーン：

主要顧客は自動車（日系メーカ、韓国現代は堅調）、鉄鉱業（V a l e）（購買量2014年比40%減少）、石油業界（プラットホーム用需要は激減）であり、**市場規模は約半分**となった。

競合：欧米の既存メーカは市場縮小（特に天井クレーン）でブラジル市場から**ドイツメーカ撤退**の動き。

鑄造設備機械

顧客はブラジルの鑄物業界、自動車関連、造船業、V a l e であり、投資・購買量が急落しており、2015年の業況は**減収減益**

2016年の展望

有望市場として農業機械分野、自然・再生エネルギーに注目 **風力・太陽光発電分野**に参入。

ローカルコンテンツ規準に沿って**一部現地化**を検討。

競合撤退による顧客需要を確実にフォローする体制作り。 **我慢のあとのリターンが期待できる市場**

顧客の購買意欲は2016年も継続して低迷が予想され、レアル安を活かした**輸出販売の拡大**を図る。**メキシコ・米国**案件を中心に。

8. 潤滑油・ベアリング

2015年の回顧

金属加工油剤

主要顧客は自動車産業であり、自動車生産台数の推移とほぼ連動しており、2015年の出荷数量は2014年比▼15%であった。

ベアリング

レアル安、金利上昇、市場規模縮小が経営を逼迫。自動車用は操短・生産調整の影響で25%の落込み。産業機械用はコモディティ価格の下落にともなう設備投資控えで不調となった。

2016年の展望

販売は横這い。レアルを武器にブラジル企業が輸出拡大することを期待。間接的な輸出を目指す。

販売横這い。客先の在庫調整後の反動需要を期待。与信管理を徹底

顧客の事業状況

分野	2015年
石油	PB設備投資 2014年比 6割減
石油化学	上流に引きずられて大幅減
鉄鋼	国内販売量 1.5割減
自動車・二輪	生産台数 2~3割減
発電 大型火力	電力不足なるも案件成立せず
発電 小型・再生エネルギー（風力）	好調
パルプ	順調
セメント	不調
インフラ公共事業（交通）	新規案件低調
農業アグリビジネス	好調
医療	好調
航空機	順調

ブラジルの市場環境

	状況
為替・金融	2015年頭 R\$2.6がR\$4まで通貨下落 輸入材料費高騰 政策金利 上昇基調で14.25%で高止まり 金利負担大+インフレで金融コスト増 融資枠の厳格化で倒産・再生申請企業増 通貨安は輸出産業の後押しとなった。
景気低迷で市場縮小	産業全般で生産・販売量が落込 失業率の上昇、税収不足で予算化難 好調産業分野は少数セグメントに限定 農業・医療・航空機・再生エネ
政局不安定・政策実行の遅延 中国経済・コモディティ価格の低迷	世界全体の輸入力の減退で経済環境の改善 には時間が掛かる 2~3年間は我慢

企業の備え

事象	対応
リアル安 ドル高/円高/ユーロ高	本社のネットワーク活用して 輸出攻勢 増資などで当地の高金利活用 現地経費低減 ブラジル産業資本の取得
ブラジル市場縮小	農・医・航・再生エネ分野への 営業シフト 好調な 太平洋同盟地区・北米地区 への展開
倒産件数の増加	我慢のあとに価値が出る市場 競合他社の撤退で特需もある。在庫調整後の反動需要を期待 与信管理の徹底
自国・輸出産業補助	BNDESの資金活用 LCの達成 輸入販売から現地組立への形態変更 ブラジル輸出産業をターゲットに販売促進
V字回復は困難	顧客との関係構築・技術者育成・ 長いスパンでの経営を考える時期 日本企業の 資金力・技術力・ネットワークの活用して 2~3年は我慢して乗り切る

自動車 部会

溝口 イサオ 部会長

Departamento Automotivo

Presidente: Issao Mizoguchi

ブラジル日本商工会議所 業種別部会長シンポジウム 「自動車部会」レポート

2016年2月25日

<2015年の回顧と2016年の展望>

景気低迷期だから見えてくるビジネス機会
～経済回復期はいつか？ 日系企業はどう備えるか？～

- 四輪業界動向
 1. 2015年 振り返り
 2. 2016年 展望
 3. 自動車市場低迷による影響
 4. 中長期展望
 5. 日系ブランドの課題
 6. 総括（政府への提言）
- 二輪業界動向

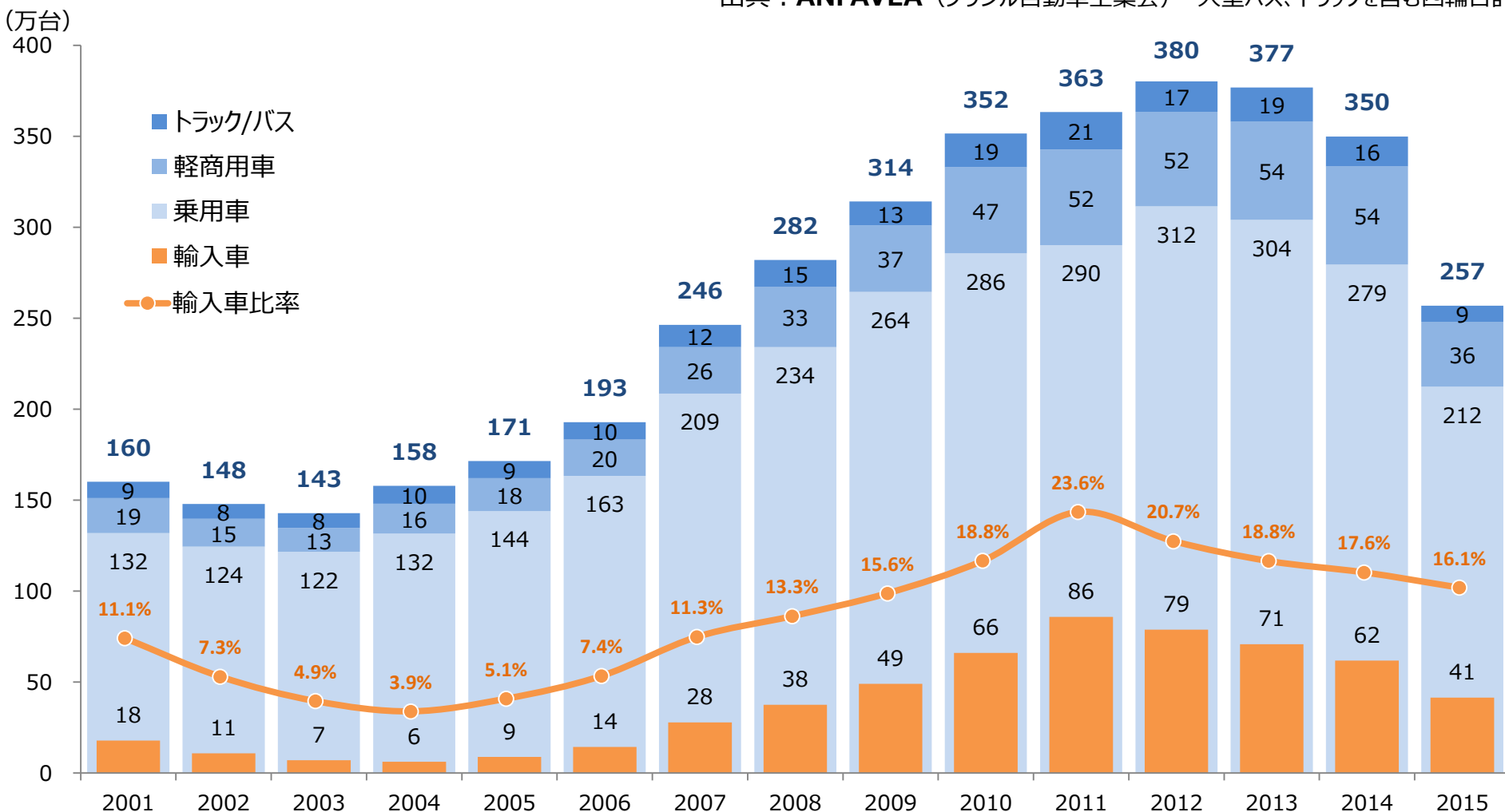
四輪業界動向

2016年2月25日

1. 2015年振り返り
2. 2016年展望
3. 自動車市場低迷による影響
4. 中長期展望
5. 日系ブランドの課題
6. 総括（政府への提言）

1. 2015年振り返り – 販売台数 推移

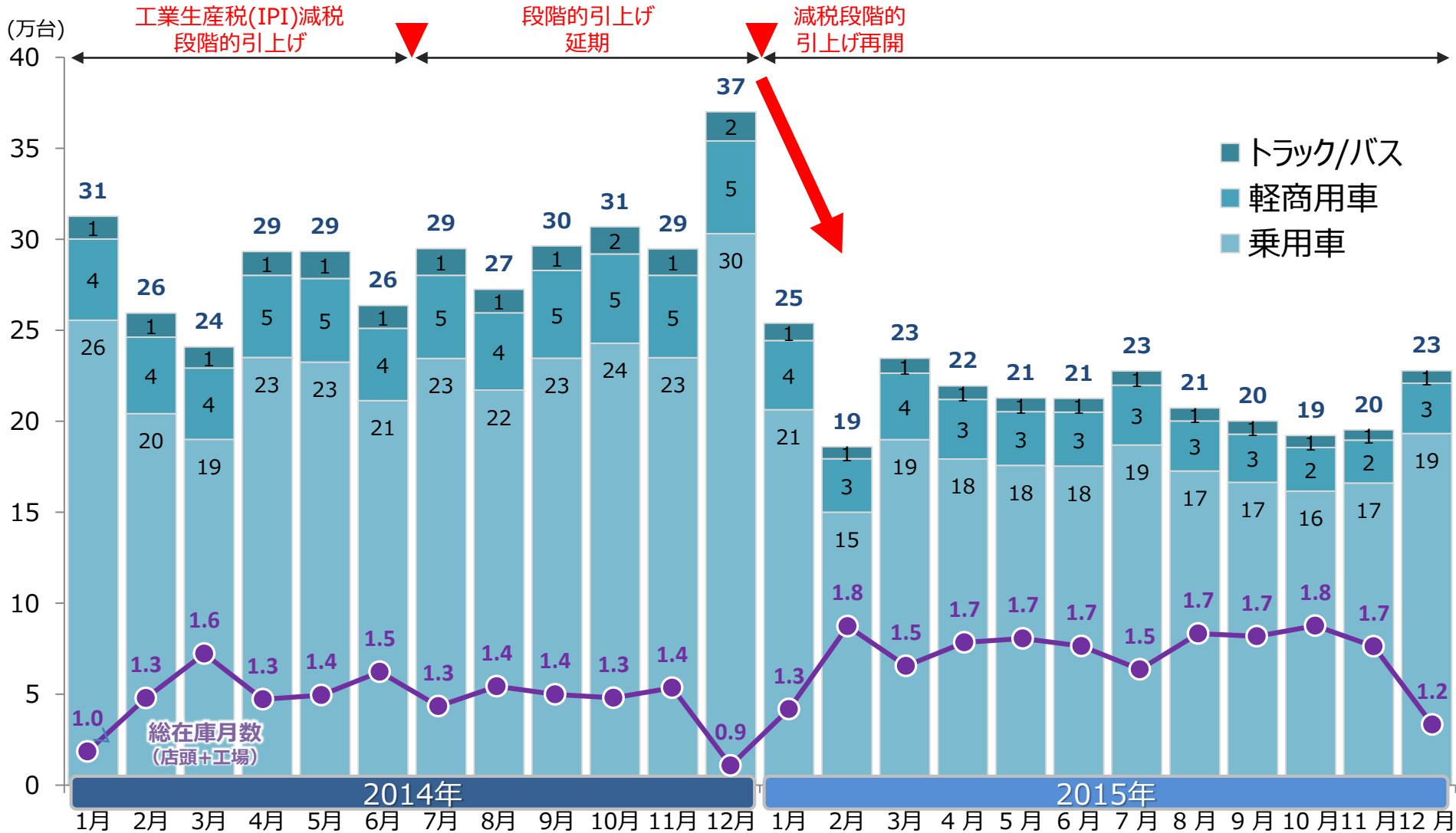
出典：ANFAVEA（ブラジル自動車工業会） 大型バス、トラックを含む四輪合計



- 2015年の販売実績は約257万台（前年比：73.4%）と3年連続で前年を下回る結果となった
- インフレ抑制政策による金利引き上げや失業率の上昇で景況感悪化
- 輸入車比率は16.1%と4年連続で低下

1. 2015年振り返り 一月別販売台数 推移

出典：ANFAVEA 大型バス、トラックを含む四輪合計

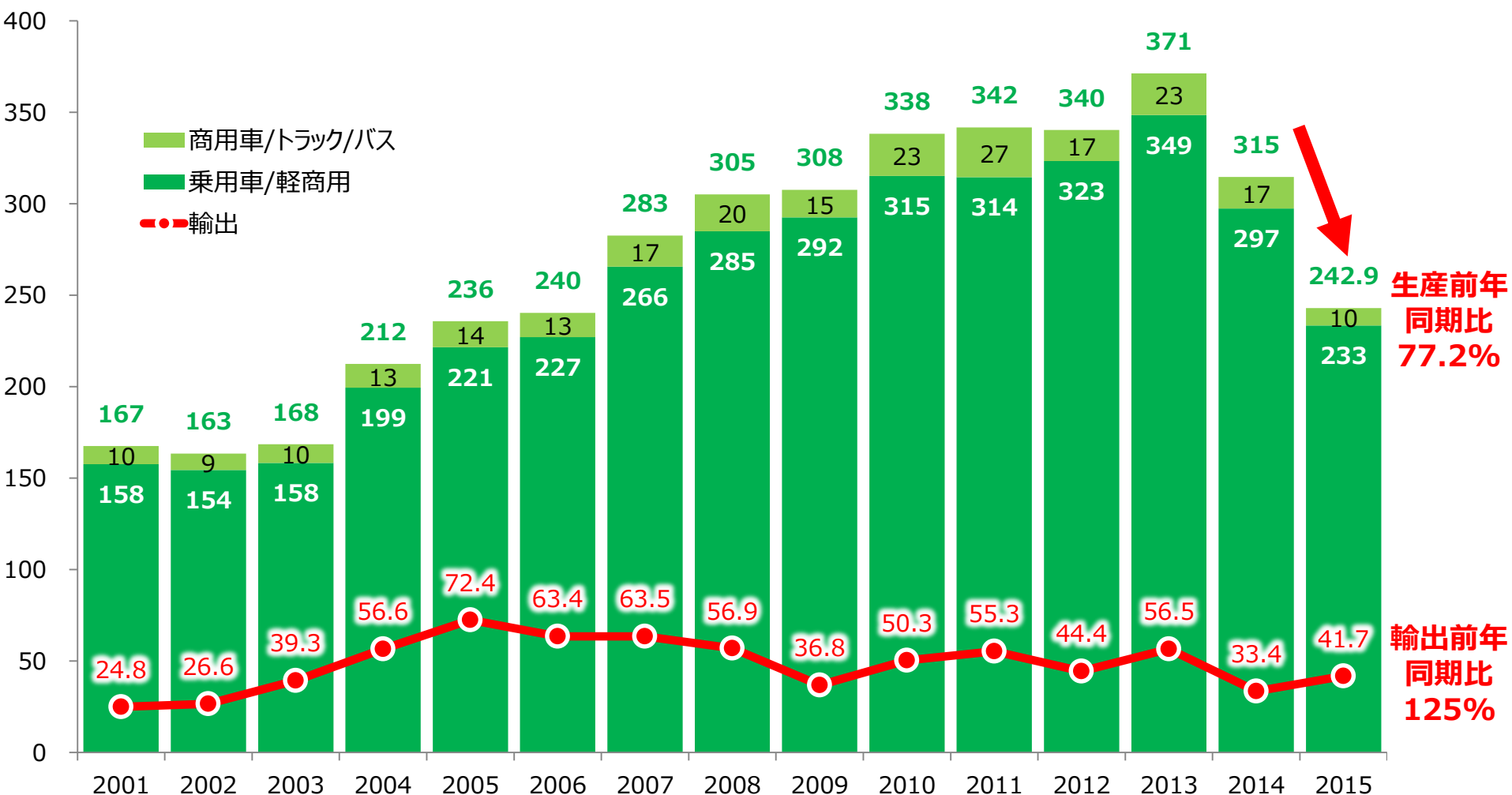


- 2015年1月以降はIPI税率引上げ、及び景況感の悪化により販売の落ち込みが続く
- 販売不調により在庫月数が高レベルで推移

1. 2015年振り返り – 生産・輸出台数 推移

(万台)

出典：ANFAVEA 生産実績にCKD含まず



- 2015年の総生産台数は約243万台（前年同期比：77.2%）
- 在庫調整の為、一部メーカーは集団休暇、レイオフ、希望退職、解雇などで生産調整を実施
- レアル安の影響で輸出は増加（前年同期比：125%）

1. 2015年振り返り – 輸出台数 カテゴリ別

出典：ANFAVEA/MDIC

◆ カテゴリ別 輸出概要 (単位：台)

カテゴリ	'14年	'15年	前年同期比
乗用車	263,604	316,531	120.1%
ライトトラック	46,270	72,230	156.1%
トラック	17,737	20,869	117.7%
バス	6,608	7,325	110.9%
合計	334,219	416,955	124.8%

◆ 輸出相手国別 輸出金額 (CKD含む)

輸出相手国	FOB百万ドル	前年同期比
アルゼンチン	2,541.11	-3.15%
メキシコ	280.74	+23.01%
インドネシア	219.06	+1106.75%
ウルグアイ	106.07	+18.86%
コロンビア	63.64	-39.33%

➤ レアル安を受け、前年同期比でプラスとなるも、国内販売の落ち込みをカバーするには不十分

四輪業界動向

2016年2月25日

1. 2015年振り返り
2. 2016年展望
3. 自動車市場低迷による影響
4. 中長期展望
5. 日系ブランドの課題
6. 総括（政府への提言）

2. 2016年展望 – 経済

出典：BR中央銀行
(1月22日付)

◆ブラジル経済指数推移

	2011	2012	2013	2014	2015	2016 予測
実質経済成長率 GDP (%)	2.7	1.0	2.5	0.1	-3.8	-3.0
為替 年末予想 (BRL/USD)	1.87	2.05	2.36	2.66	3.90	4.30
インフレ (IPCA - %)	6.5	5.8	5.9	6.4	10.67	7.03
金利 (SELIC) 年末予想 (%)	11.00	7.25	10.00	11.75	14.25	14.50

- GDPの成長見通し悪化、公共料金の値上げによるインフレの進行、金利の上昇
- レアル安の進行による輸入部品の価格上昇、コスト圧迫の懸念

2. 2016年展望 – 自動車業界

出典：ANFAVEA 生産実績にCKD含まず

◆ ブラジル市場・輸出・生産の15年予測&実績 16年予測

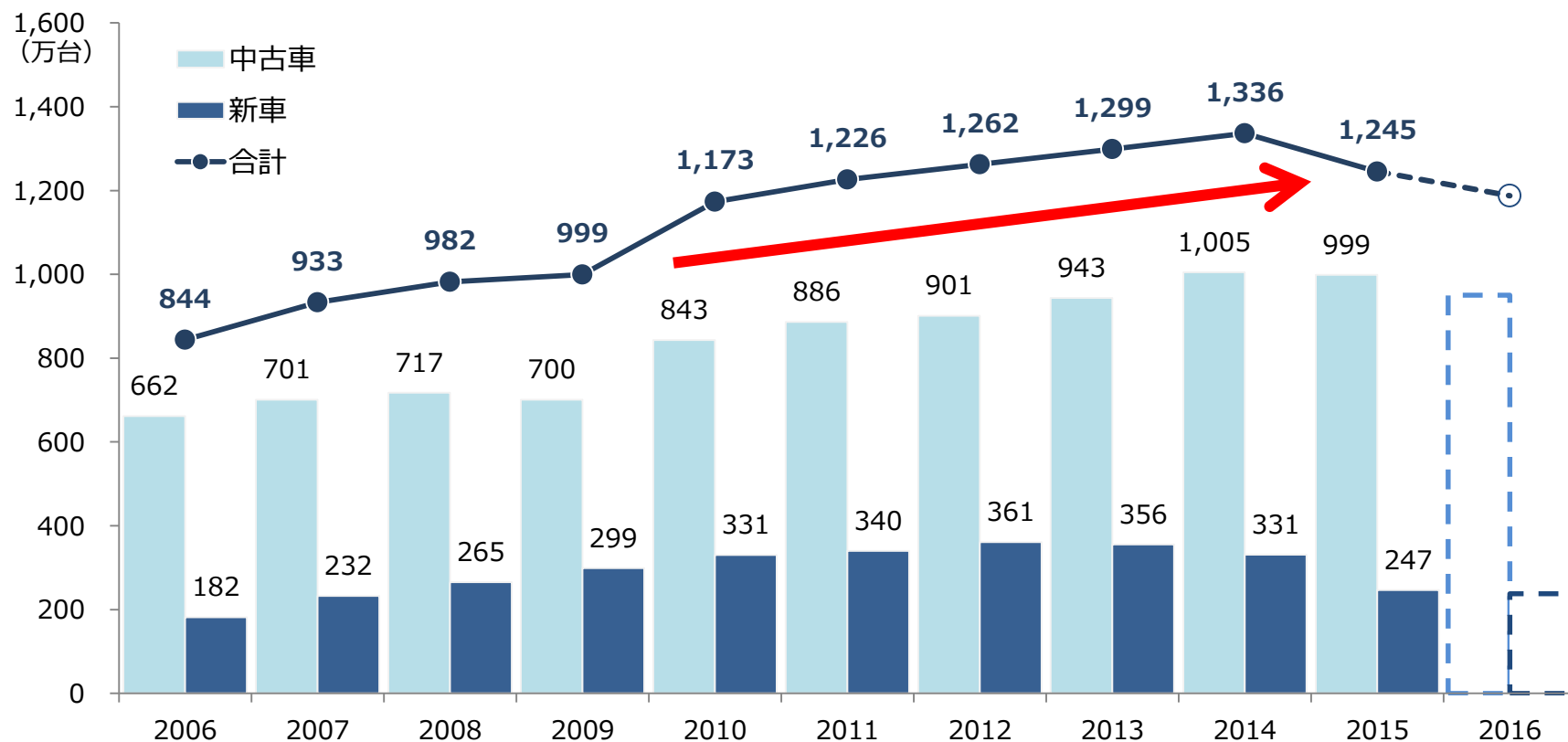
単位：万台

	2015年 中間修正予測		2015年 最終結果	2016年予測	
	ANFAVEA (6月8日発表)	自動車部会		ANFAVEA (1月7日発表)	自動車部会
国内市場	277.9 前年比：-22%	260 前年比：-26%	256.9 前年比：-26.6%	237.6 前年比：-7.5%	200~210 前年比：-22~-18%
輸出台数	33.8 前年比：+1%	-	41.7 前年比：+24.8%	45.1 前年比：+8.1%	-
生産台数	258.5 前年比：-21%	258.5 前年比：-21%	242.9 前年比：-22.8%	244 前年比：+0.5%	244 前年比：+0.5%

- ANFAVEAは16年販売台数を約238万台（前年比：-7.5%）と予測
※ 一部 FENABRAVE等の予測は190万台レベルまで落ち込むという見方も。
- 政治経済の混乱から起因する、景況感の悪化により更に購買意欲減少
- 在庫・要員調整も一服し、生産台数は輸出増の影響もあり横這い・微増の見込み

2. 2016年展望 – 自動車業界(中古・新車)

出典：FENABRAVE/ ANFAVEA/FENAUTO
 ※乗用車/軽商用車のみ



- 中古車市場は年々拡大傾向にあり、14年には過去最高の1,000万台超えを記録
- 15年はここ数年の新車販売減速の影響も受け始め、微減。
- 16年は新車は更なる落込みが予想されるも、中古車市場は引き続き約1,000万台前後を予想。

四輪業界動向

2016年2月25日

1. 2015年振り返り
2. 2016年展望
3. 自動車市場低迷による影響
4. 中長期展望
5. 日系ブランドの課題
6. 総括（政府への提言）

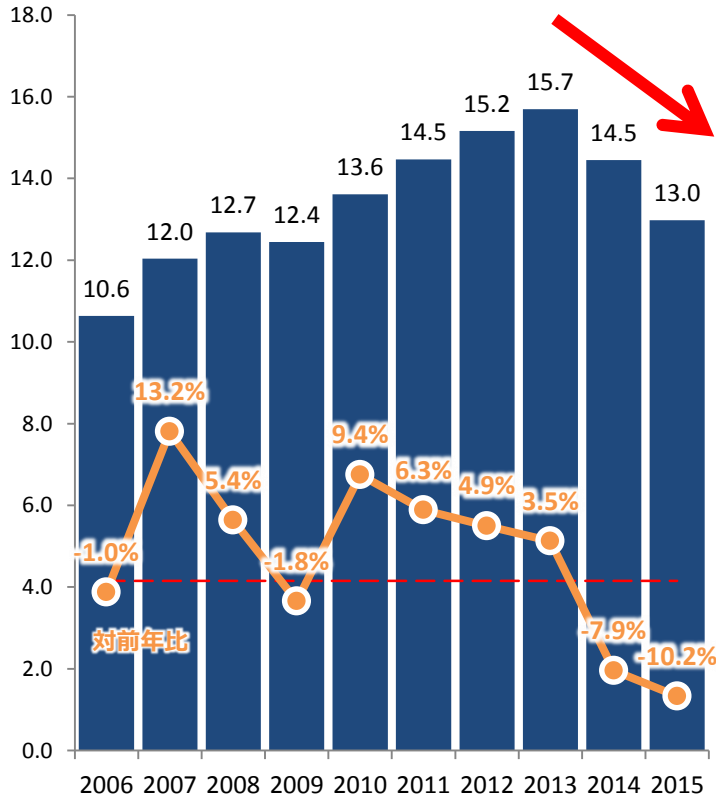
3.自動車市場の低迷 –メーカー・販売店への影響

出典：ANFAVEA

出典：Fenabrave

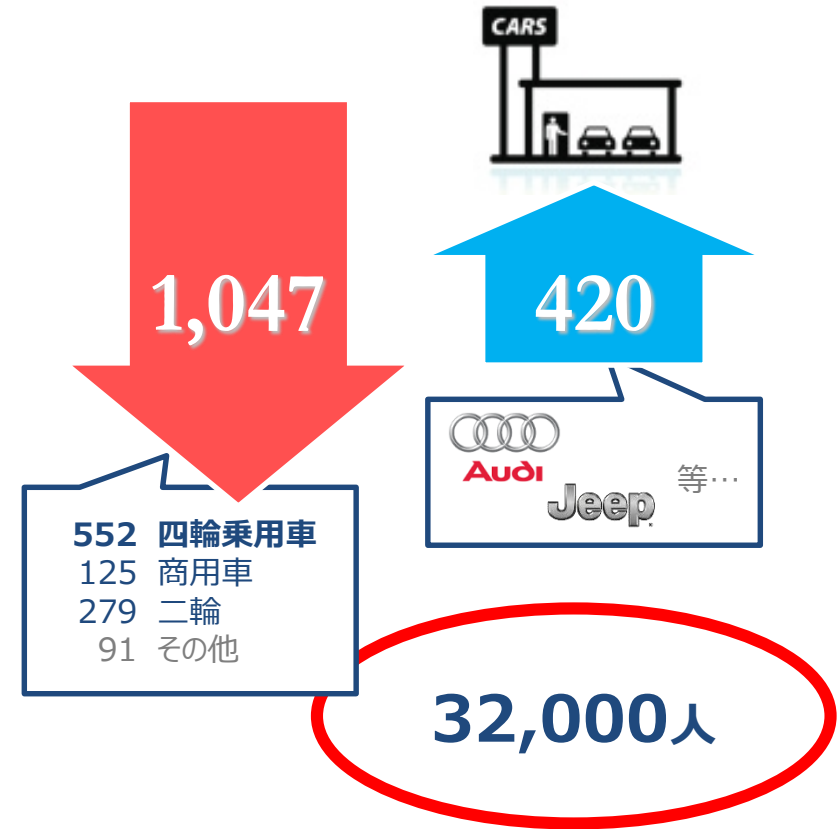
◆メーカーへの影響

▽雇用者数推移（万人）



- 政府はPPE (Employment Protection Program) を公表 → 労働時間の短縮に伴う賃金カット(max 30%)が16年一杯まで可能
- レイオフ・休暇・集団休暇は続く。(35千人に影響)

◆販売店への影響






























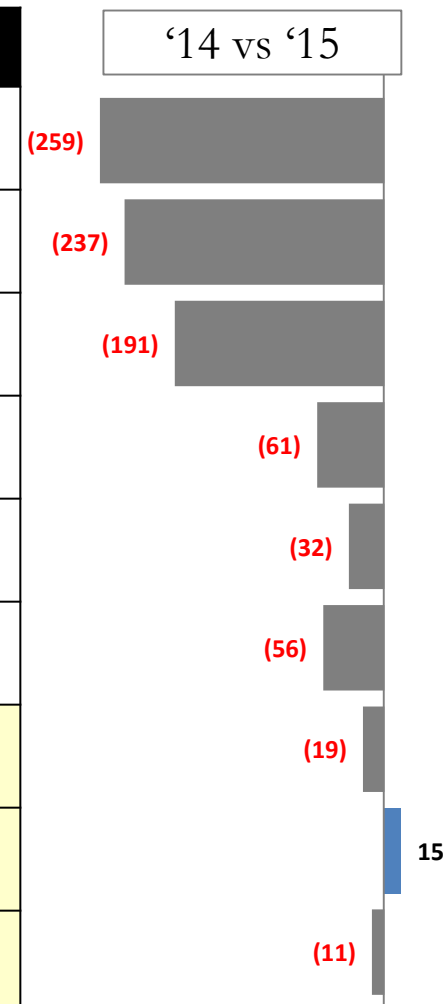
- 国内で四輪販売店が552店舗閉鎖(420店が新規開業)
- 商用車販売等含めると、1,000店を超えその雇用影響は32千人にも及ぶと推定

3.自動車市場の低迷 -日系ブランドの健闘

単位：千台

出典：ANFAVEA

2013	台数	シェア	2014	台数	シェア	2015	台数	シェア
1st 	763	20%	1st 	698	20%	1st 	439	17.1%
2nd 	715	19%	2nd 	619	17.7%	2nd 	383	14.9%
3rd 	650	17%	3rd 	579	16.5%	3rd 	388	15.1%
4th 	355	9%	4th 	328	9.4%	4th 	267	10.4%
5th 	236	6.3%	5th 	238	6.8%	5th 	206	8%
6th 	213	5.7%	6th 	237	6.7%	6th 	181	7.1%
7th 	176	4.7%	7th 	196	5.6%	7th 	176	6.9%
8th 	139	3.7%	8th 	138	3.9%	8th 	153	6.0%
9th 	78	2.1%	9th 	72	2.1%	9th 	61	2.4%



- 上位3ブランドが大幅に台数、シェア共に落とす中、日系メーカーは健闘
 ※ 全体の落込みの約75%が上位3ブランドによるもの




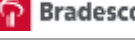
四輪業界動向

2016年2月25日




1. 2015年振り返り
2. 2016年展望
3. 自動車市場低迷による影響
4. 中長期展望
5. 日系ブランドの課題
6. 総括（政府への提言）

4. 中長期展望 – 経済指標





◆ GDP

Bank	2015*	2016	2017	2018	2019	2020
 BANCO CENTRAL DO BRASIL	-3.9	-3.0	0.7			
 Santander	-3.8	-3.7	1.2	2.0	2.0	2.0
 Itaú	-3.9	-2.8	0.0	1.5	1.6	1.8
 Bradesco	-3.9	-3.5	1.5	3.0	3.5	3.5
平均	-3.9	-3.3	0.9	2.2	2.4	2.4


◆ Inflation

Bank	2015*	2016	2017	2018	2019	2020
 BANCO CENTRAL DO BRASIL	10.70	7.30	5.80			
 Santander	10.67	7.00	6.00	5.00	5.00	5.00
 Itaú	10.67	7.03	5.00	4.75	4.50	4.25
 Bradesco	10.67	6.90	5.40	5.00	4.50	4.50
平均	10.67	7.06	5.55	4.92	4.67	4.58

◆ 為替 (BRL/USD)

Bank	2015*	2016	2017	2018	2019	2020
 BANCO CENTRAL DO BRASIL	3.9	4.4	4.4			
 Santander	3.9	4.1	4.2	4.3	4.5	4.6
 Itaú	3.9	4.5	4.8	4.9	5.2	5.2
 Bradesco	3.9	4.0	4.2	4.3	4.4	4.5
平均	3.9	4.3	4.4	4.5	4.7	4.8

◆ 金利 (SELIC)

Bank	2015*	2016	2017	2018	2019	2020
 BANCO CENTRAL DO BRASIL	14.25	14.25	13.00			
 Santander	14.25	13.00	11.50	9.00	9.00	9.00
 Itaú	14.25	14.25	12.00	12.00	12.00	10.50
 Bradesco	14.25	13.25	12.25	11.25	10.00	9.50
平均	14.25	13.69	12.19	10.75	10.33	9.67

➤ 各行、2016年～2017年を底に緩やかな回復傾向を予測

4. 中長期展望 – ブラジル自動車市場

長期経済指標や大統領選時期などを総合的に見た場合

ブラジル自動車市場の回復時期は2018年以降と予想

四輪業界動向

2016年2月25日

1. 2015年振り返り
2. 2016年展望
3. 自動車市場低迷による影響
4. 中長期展望
5. 日系ブランドの課題
6. 総括（政府への提言）

5. 日系ブランド-課題への対応

中長期展望を踏まえた日系ブランドの課題

- **＜中期課題＞ 厳しい状況に対する事業体質の強化**
 - 為替対応を踏まえた部品現調化と輸出の促進
 - 生産弾力性向上 と人材育成
- **＜長期課題＞ 市場回復時の飛躍につながるブランド強化**
 - 環境安全規制強化とその対応

5. 日系ブランド-課題への対応

中長期展望を踏まえた日系ブランドの課題

- **＜中期課題＞ 厳しい状況に対する事業体質の強化**
 - 為替対応を踏まえた部品現調化と輸出の促進
 - 生産弾力性向上 と人材育成
- **＜長期課題＞ 市場回復時の飛躍につながるブランド強化**
 - 環境安全規制強化とその対応

5. 日系ブランド-課題への対応

<中期課題> 事業体質の強化： 部品現調化と輸出の促進（トヨタ）

(1) エンジンベンチ&エンジン工場の新設

- ①エンジンベンチの新設(São Bernardo do Campo 工場)
- ②エンジン工場の建設(Porto Feliz市)



背景：

- 部品の現調率を向上するためにサプライヤーの技術力の育成が課題
- エンジンの現地生産は現調率向上への重要案件

期待される効果：

- エンジンベンチ新設による現調化のスピードアップ
- エンジンベンチを利用したローカル・サプライヤーの育成と技術力向上
- エンジン部品の現調率向上による為替の影響とコストの低減

(2) エティオスのウルグアイ・パラグアイへの輸出(2014年11月～)

- ブラジル・ソロカバ工場生産するエティオスをこれまでのアルゼンチン向けに加え、新たにウルグアイとパラグアイへ輸出

5. 日系ブランド-課題への対応

＜中期課題＞ 事業体質の強化： 部品現調化の促進（ホンダ）



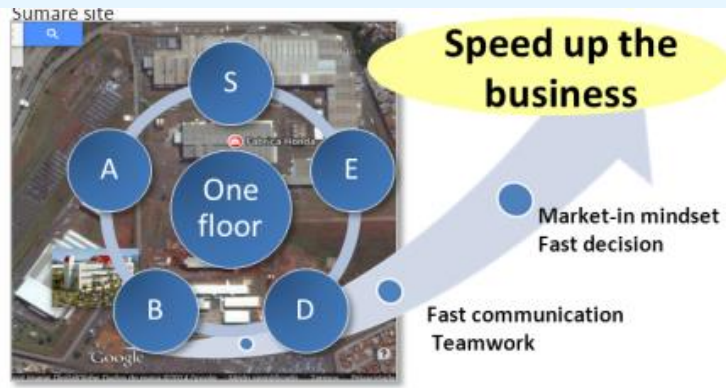
HRB-S 新建屋 [スマレ]

2013年10月、四輪研究所を
サンパウロ市内からスマレ工場敷地内へ移転



HSA 新建屋 [スマレ]

2014年10月、本社機能(営業/管理部門)を
サンパウロ市内からスマレ工場敷地内へ移転



S: Sales/E: Engineering/D: Development
B: Buying/ A: Administration

- スマレ工場内にSEDBAの機能を集約
- お客様が求める商品をよりスピーディに開発・生産
- 現調化含めた事業体質の強化を促進

5. 日系ブランド-課題への対応

<中期課題> 事業体質の強化： **部品現調化と輸出の促進（日産）**

■ 日産 Kicks



日産はKicksを年内を目処に投入し、国内市場以外に他車種と共に近隣諸国向け輸出する。

レゼンデ工場は2015年生産は35千台に留まっている為（年間200千台の生産能力）、遊休率軽減と更に生産能力が限界にあるメキシコ工場を補完する狙いもある。

伯NissanのFrançois Dossa社長は、輸出によって雇用拡大を見込んでおり、年内の人員削減計画はないと語った。国際競争力強化を目的として、部品国産化率を工場スタート時点の60%から2016年末を目処に80%に引き上げることで為替変動リスクの回避を試みる。（VE/OESP紙より）

5. 日系ブランド-課題への対応

<中期課題> 事業体質の強化： 生産弾力性向上 と人材育成（トヨタ）

(1) 労使一丸となった生産弾力性向上による競争力の強化

- ① 労使間における相互信頼、相互責任の確認
例：サンベルナルド工場における労使宣言の締結
今後他の工場労使にも横展を推進予定
- ② 柔軟な需要変動への対応
例：テンポラリー雇用契約の活用



(2) 製造現場の生産性向上を牽引する人材育成

- ① 製造現場の将来のリーダー候補の日本本社への4ヶ月間の研修派遣
トヨタの製造現場における強み(生産性向上活動、メンバーの面倒見など)を習得
- ② 製造現場メンバーに対するトヨタウェイ教育

5. 日系ブランド-課題への対応

＜中期課題＞ 事業体質の強化

まとめ

- ▶ 市場の低迷やレアル安を背景に、現調化や輸出の重要性がさらに増している
- ▶ 現調化や輸出のさらなる加速には、ブラジルの国際的コスト競争力向上が鍵となる
- ▶ 税制改革や裾野産業の育成など、低いコスト競争力を打開する恒久的な取組みが官民連携の下で必要
- ▶ 生産弾力性向上や人材育成を通じた競争力強化

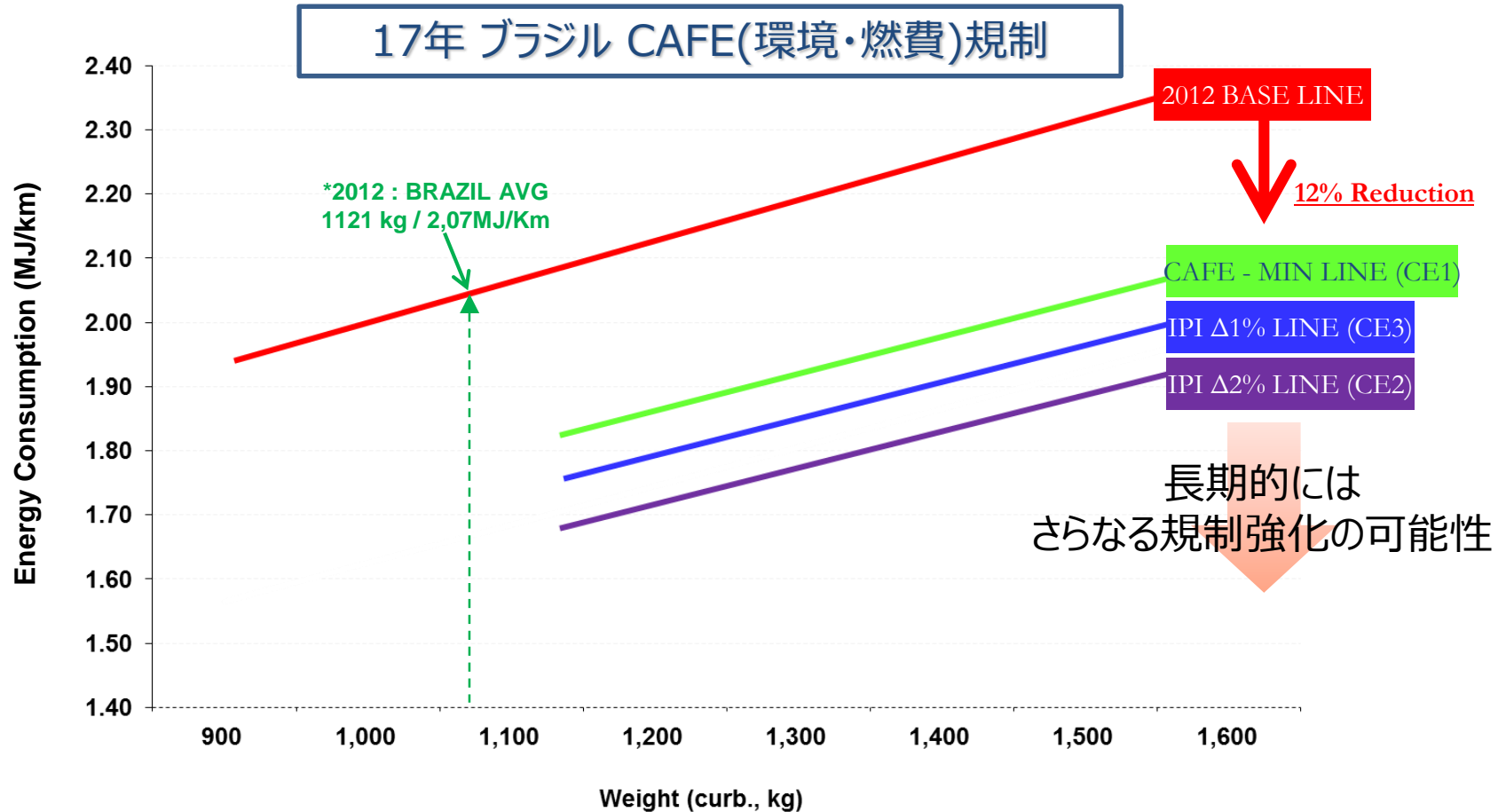
5. 日系ブランド-課題への対応

中長期展望を踏まえた日系ブランドの課題

- **＜中期課題＞ 厳しい状況に対する事業体質の強化**
 - 為替対応を踏まえた部品現調化と輸出の促進
 - 生産弾力性向上 と人材育成
- **＜長期課題＞ 市場回復時の飛躍につながるブランド強化**
 - 環境安全規制強化とその対応

5. 日系ブランド-課題への対応

<長期課題> 環境安全への対応と規制の強化： ①環境



- 先進国の流れを汲み、今後ブラジルでも燃費・排ガスなど環境規制強化が継続
- 減税ライン設定により優遇もあり

5. 日系ブランド-課題への対応

<長期課題> 環境安全への対応と規制の強化： ②安全

• 安全規制

2022年、ESC(Electronic Stability Control)の全車適用義務化の見通し
(その他、側面衝突やバンパーに関する規制強化の可能性)

• 安全評価

◆ 2010年Latin NCAP発足以来
南米での衝突安全向上に向け
各モデルのCrash TestとRatingを
積極的に推進。

◆ 今後さらにEU NCAPと調和してい
く予想



Toyota HILUX



Honda HR-V

- WP29など国際的基準との調和に基づき、ブラジルでも安全規制強化が継続
- Latin NCAPなどグローバルレベルの安全評価が南米でも認知を広げつつある

5. 日系ブランド-課題への対応

＜長期課題＞ 環境安全への対応と規制の強化

まとめ

- 環境安全技術導入と規制強化が今後さらに進行する見通し
- 先進技術導入により調達やコスト増など課題がある
- 優遇税制や促進策など、今後も官民連携した環境安全の普及が求められる
- 安全環境技術で優位に立つ日系メーカーにとっては、
将来の市場回復に向けたブランド強化の切り札の一つになる可能性

四輪業界動向

2016年2月25日

1. 2015年振り返り
2. 2016年展望
3. 自動車市場低迷による影響
4. 中長期展望
5. 日系ブランドの課題
6. 総括（政府への提言）

5. 総括（政府への提言）

政府および自動車業界の取り組みと課題

- 1) 新技術導入を促進する適切な自動車政策
 - 新技術を搭載した商品のブラジルのお客様への提供、ブラジルへの新技術集積

- 2) 自由貿易政策／輸出促進政策
 - ブラジル製車両の輸出拡大に向け、短期の経済情勢や貿易収支動向に影響を受けない一貫した政策の継続

- 3) 人材育成
 - エンジニアや熟練労働者等、技術開発やモノづくりの分野でリーダーシップを発揮できる人材育成

- 4) 協調的な労使関係
 - 生産性向上、および持続的成長に向けた労使協力（労働環境の改善、柔軟な生産弾力性の確保）

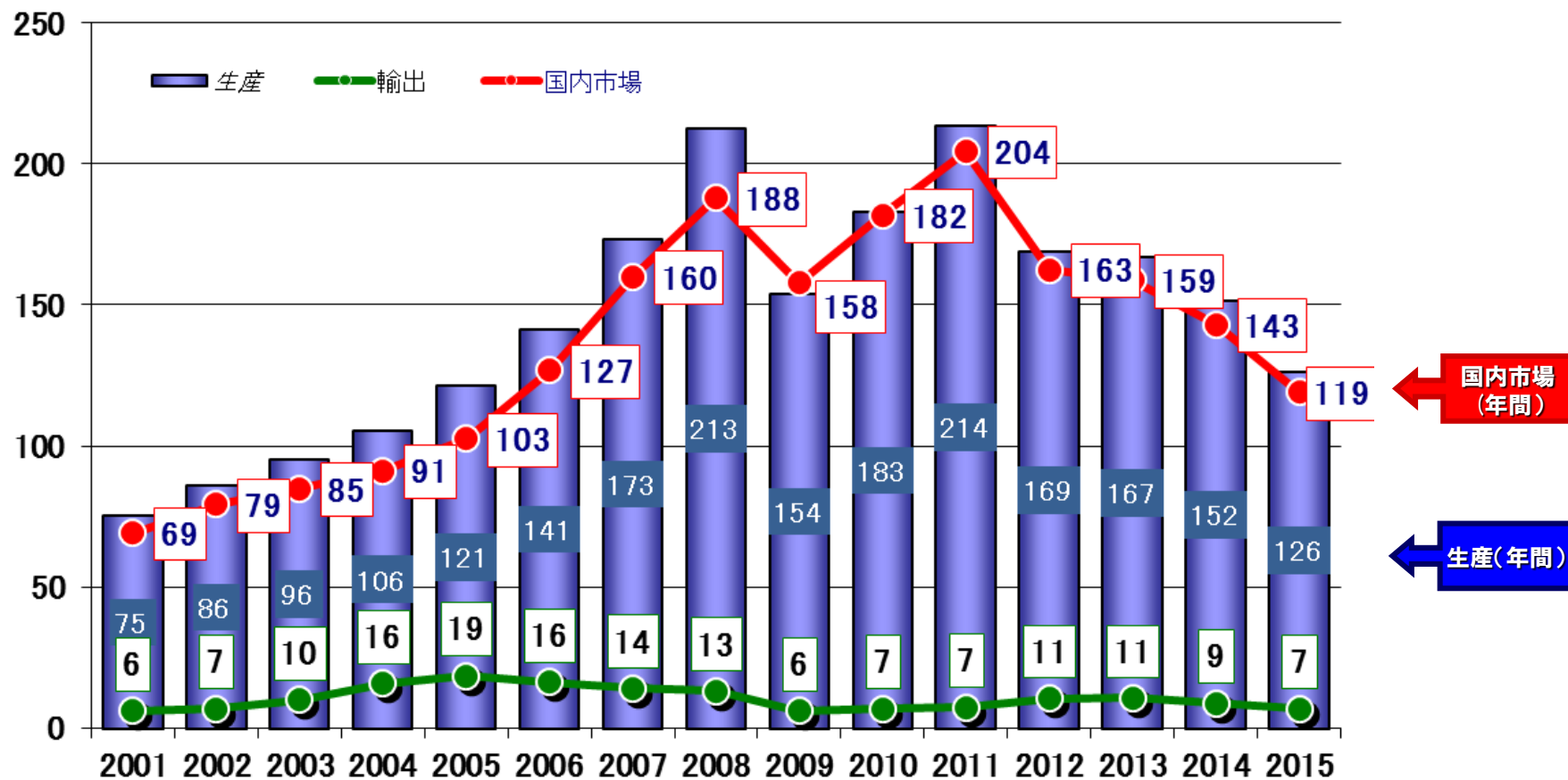
- 5) 人的交流
 - 日伯関係のベースは人的交流

二輪業界動向

二輪車 生産・販売 推移

(万台)

出典:Abraciclo



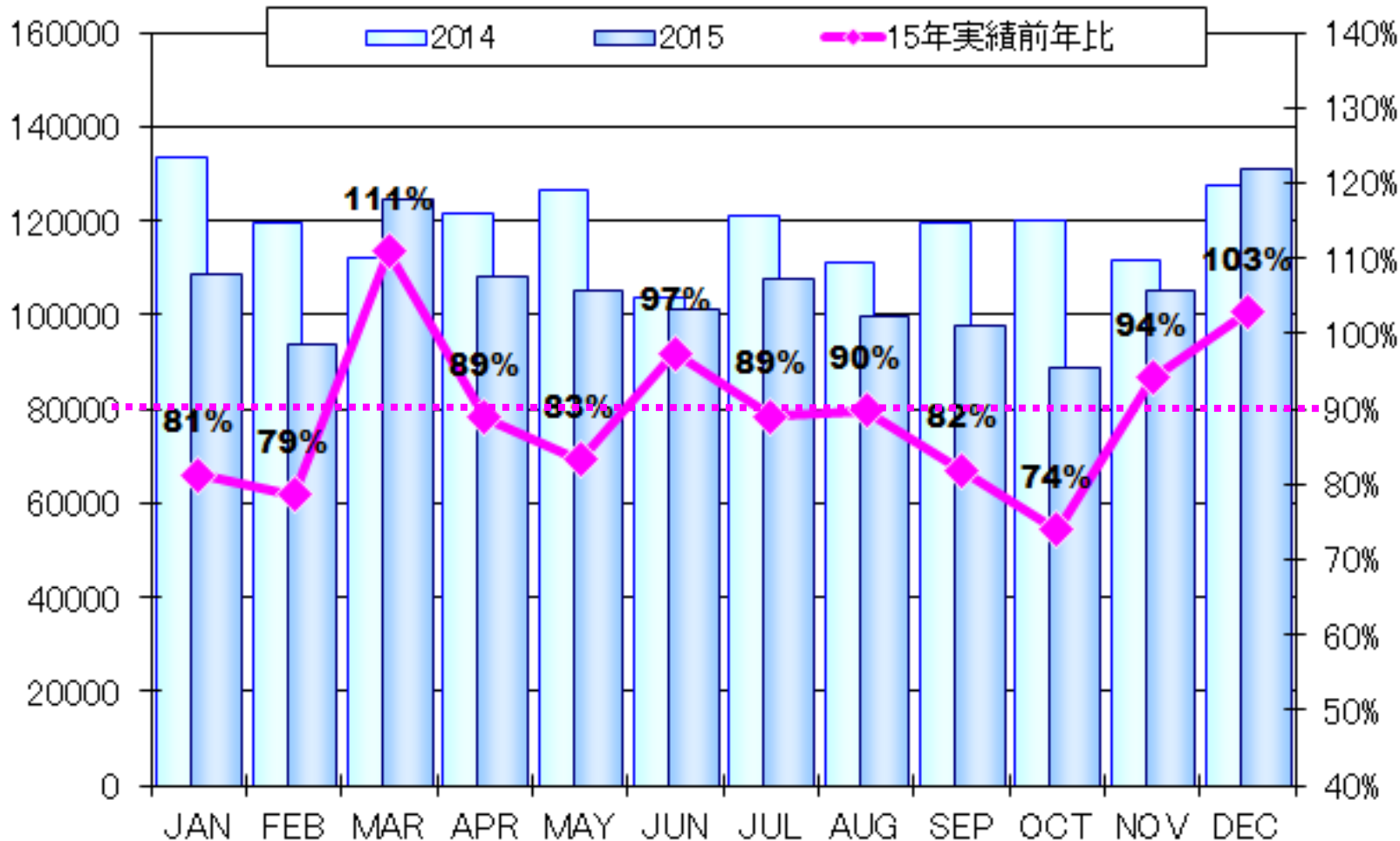
2015年実績

卸 119万台 (前年比83%)
生産 126万台 (前年比83%)
輸出 7万台 (前年比79%)

インフレ・リアル安・解雇増等の経済環境悪化により
厳しい市場環境が続き、卸及び生産は前年比83%となる

二輪車 月別販売推移 (2014年vs2015年)

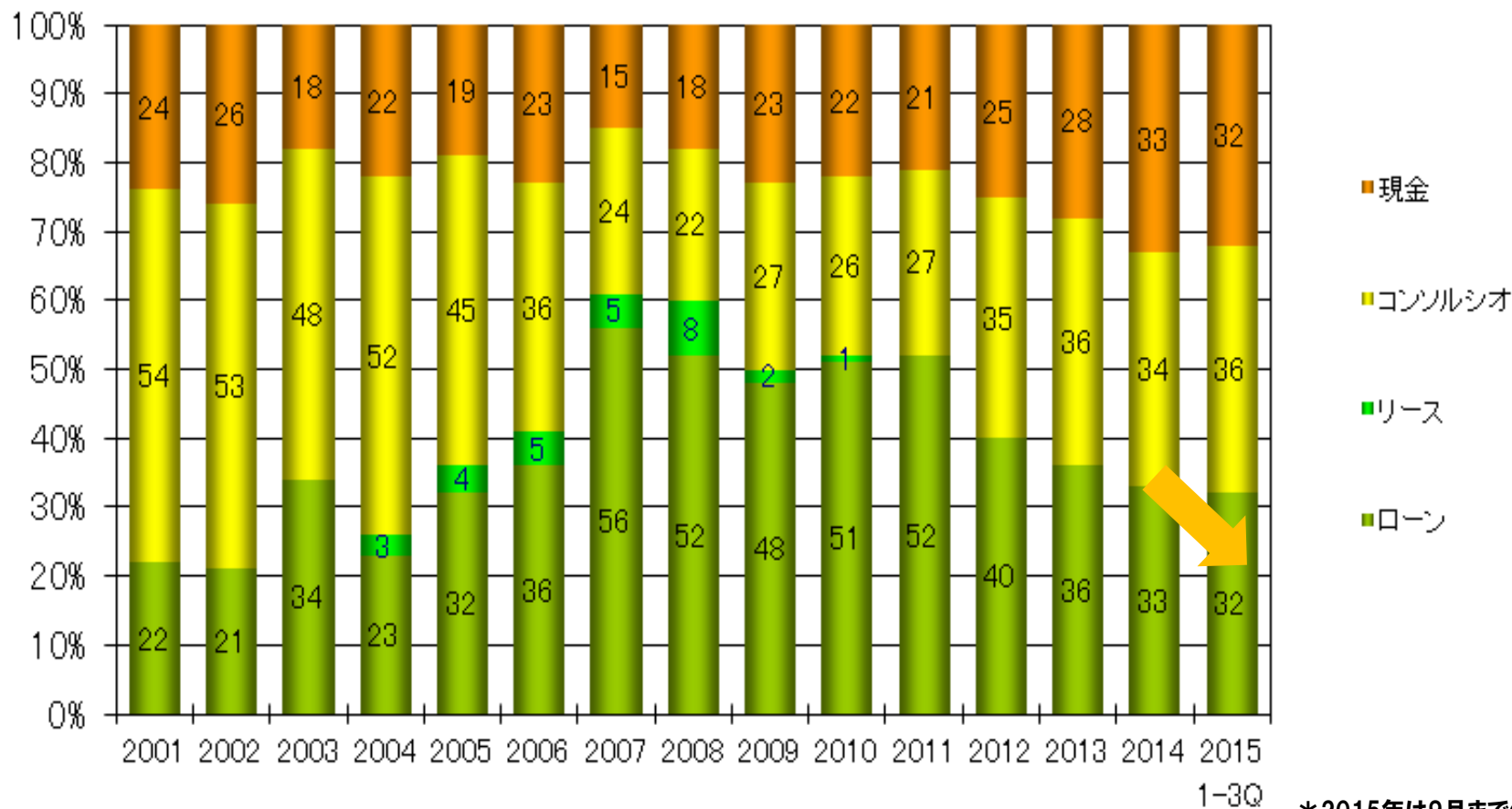
登録データ(DETRAN)



コンソルシオ需要の高まる3月と年末商戦の12月を除いて前年割れが続き、各社によるPromot4対応の新モデルが上市されるも、新車効果で落ち込みを補えず。

二輪車 支払形態別 販売比率

※出典: ANEF(自動車メーカー系金融会社協会)



各種銀行の二輪撤退、ファイナンス与信審査の厳格化によってローン販売比率は更に低下。
また、可処分所得の低下によってコンソルシオ加入も減少。

Obrigado!

コンサルタント 部会

西口 阿弥 部会長

Departamento de Consultoria e Assessoria

Presidente: Aya Nishiguchi

2015年の回顧と2016年の展望

景気低迷期だから見えてくるビジネス機会
～経済回復期はいつか？日系企業はどう備えるか？～

コンサルタント部会

西口阿弥

2016年2月25日

コンサルタント部会

▶ 人材派遣会社

▶ 日本企業の日本語を話せる従業員の雇用希望の数は減っていないが給与削減などの理由から入れ替えをしている企業が増加

▶ 新規雇用案件の給与オファー額は減少

▶ トップクラスの従業員の給与オファー額も減少

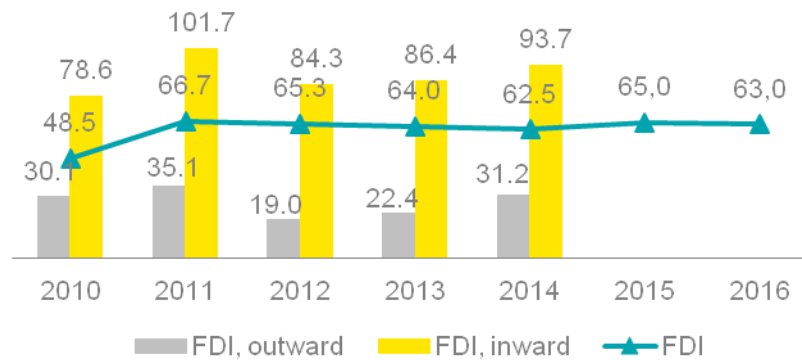
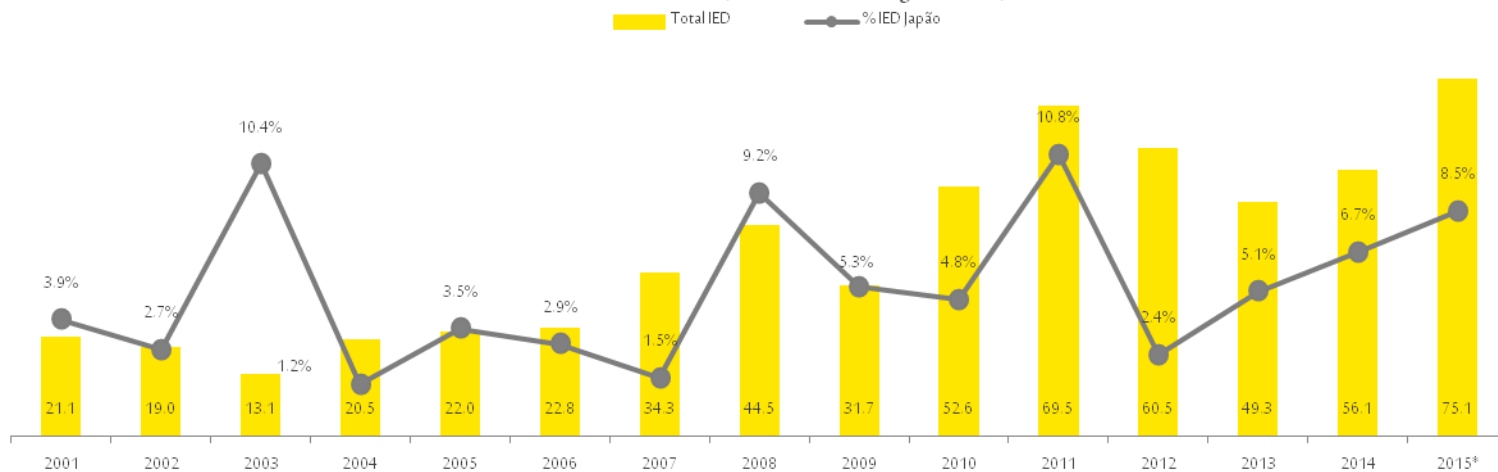
▶ コンサルティング会社

▶ M&Aの件数は減少

▶ 労務やリストラに関する問い合わせが増加

ブラジルへの海外直接投資

ブラジルへの直接投資 (Investimento Estrangeiro Direto)



情報源: “Séries Temporais”, BACEN, Fevereiro 2015, <http://www.bcb.gov.br/>, obtido 5 Fevereiro 2016; “Economia do Brasil atraiu US\$ 75 bilhões em investimento estrangeiro em 2015”, Portal Brasil, 26 Janeiro 2016, <http://www.brasil.gov.br/>, obtido 5 Fevereiro 2016.

2015年からの日本からの直接投資

- ▶ 2015年に発表されその後予定されている日本からブラジルへの直接投資は主に製造業や石油ガス産業
- ▶ 直接投資の内容は主にビジネス拡大、商品の新しいモデル開発、予定していたビジネスのインプレメンテーション
- ▶ 継続中のM&Aはあるが新規投資は減少傾向

ビジネスチャンス

ビジネスチャンス

関連性

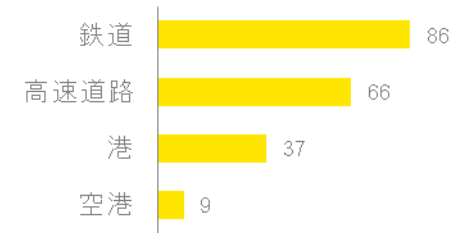
説明

官民パートナーシップでインフラへの投資機会



- ▶ ルセフ大統領は推定額 1984億BRL相当 (566.3億€、629.4億米ドル) の第二次物流インフラ投資計画 (PIL) を2015年6月9日に発表その内690億BRLは2018年までに投資が必要。
- ▶ 政府は第一次PILの最低価格プロジェクト採択方法ではなくコンセッション・モデルを採択。

PIL 投資内容, 10億BRL



出所: EMIS, 2015.

有利な人口動態、 大きな消費者基盤、 豊富な天然資源



- ▶ ラ米における最大の消費者基盤があるためブラジルは投資家を長期間同国に根付かせられる。
- ▶ 主要セクターにおける開発の機会外国投資家に取り魅力となる。
- ▶ ブラジルの長期見通しは有利な人口動態、成長する中産階級及び豊富な天然資源により高められる。

ブラジルの市場規模

市場での売上	世界ランキング
自動車	4位
コーヒー	2位
チョコレート	5位

出所: BMI, 2015.

情報源: [1] "Brazil: Government announces BRL 198.4bn logistics infrastructure programme", M-Brain, 10 Jun 2015, © EMIS 2015. [2] "Brazil", Country Risk Report, BMI Research, Q4 2015,

© BMI Research 2015. [3] "Brazil Food & Drink Report", Sector Report, BMI Research, Q1 2015, © BMI Research 2015. [4] "Brazil Autos Report", Sector Report, BMI Research, Q2 2015, © BMI Research, 2014. [5] "Brazil", Country Insight Report, dun&bradstreet, October 2015, © EMIS, 2015.



ビジネスチャンス

ビジネスチャンス

関連性

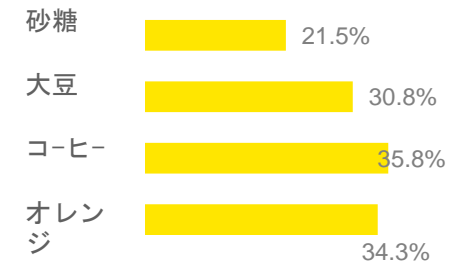
説明

輸出の刺激になりうる通貨切下げと新しい貿易協定



- ▶ 輸出主導による経済成長は好ましい対米ドルレートを基軸として短期から中期にかけて企業収益を高める良いオプションである。
- ▶ 輸出業者に取り安いブラジルの通貨により砂糖、コービー、自動車部品等の商品のグローバル市場での競争力の向上を意味する。
- ▶ メルコスルはEUと歴史的な貿易取り決めを締結しつつあるがこれにより輸出志向の事業機会を大きく高まる。

ブラジルの生産、世界市場に占める%



出所: BMI Research, 2015.

定着した確固とした民主的な組織制度と保証されている政治的安定



- ▶ ブラジルはしっかりとした政府行政制度があり政治的調和の保証と憲法遵守のため立法、行政、司法の三権力に分離されている。
- ▶ BMIは、“ブラジルの政治的リスクプロフィールは引き続き相対的に安定していることに加え、ラ米最大の経済は域内で社会的安定と多岐にわたる政策の継続性では高い位置付けにある。”としている。

情報源: [1] “Brazil: Government announces BRL 198.4bn logistics infrastructure programme”, M-Brain, 10 Jun 2015, © EMIS 2015.[2] “Brazil”, Country Risk Report, BMI Research, Q4 2015,

© BMI Research 2015.[3] “Brazil Food & Drink Report”, Sector Report, BMI Research, Q1 2015, © BMI Research 2015.[4] “Brazil Autos Report”, Sector Report, BMI Research, Q2 2015,

@ BMI Research, 2014. [5] “Brazil”, Country Insight Report, dun&bradstreet, October 2015, © EMIS, 2015.



関連性大



関連性有




関連性小

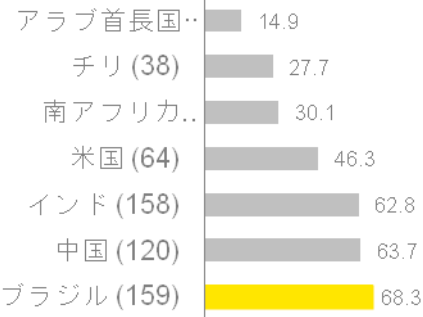


最小の関連性

ビジネス上の課題

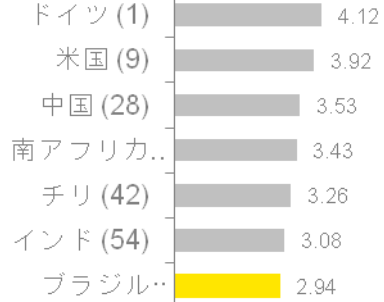
課題	関連性	説明
ブラジルコスト		<p>いわゆる「ブラジルコスト」は複雑で陳腐化した法規制、高い税金と複雑な税制、インフラの低水準、治安の悪さ、および過剰な官僚主義を含む。</p>

利益に対する総税率, %




国	総税率 (%)
アラブ首長国	14.9
チリ (38)	27.7
南アフリカ	30.1
米国 (64)	46.3
インド (158)	62.8
中国 (120)	63.7
ブラジル (159)	68.3

物流評価指標LPI

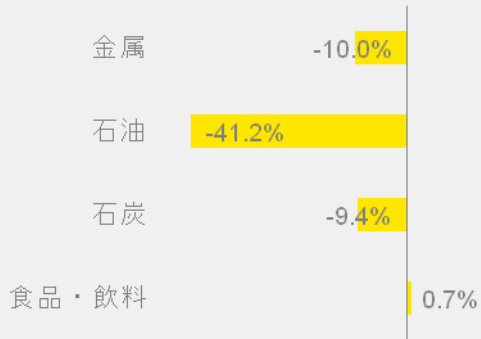


国	LPI
ドイツ (1)	4.12
米国 (9)	3.92
中国 (28)	3.53
南アフリカ	3.43
チリ (42)	3.26
インド (54)	3.08
ブラジル	2.94

注:*総合的税率のランキング 出所: WB, 2014. 出所: WB, 2014.

商品価格の低下		<p>鉄鉱価格は中国の製鉄生産及びより高い金属の在庫を背景に2015年に低下するであろう。</p> <p>商品価格は中期的に安定すると予測されるものの2015年中は特に石油と鉄鋼部門においては価格の不安定が続くとみられる。</p>
---------	---	---

2015年の商品価格指数の予測, 前年比%



商品	前年比 (%)
金属	-10.0%
石油	-41.2%
石炭	-9.4%
食品・飲料	0.7%

出所: Oxford Economics, 2015.

情報源:[1] World Bank, Doing Business 2014.

[2] "Country Economic Databank", *Oxford Economics*, 12 June 2015, © Oxford Economics 2015

[3] "Sondagens e Índices de Confiança", *FGV IBRE*, <http://portalibre.fgv.br/>, Jun 2015, accessed on Jun 2015. [4] "Brazil: S&P downgrades sovereign debt to BB-", *M-Brain*, 10 September 2015, © EMIS, 2015. [5] "S&P cuts Brazil sovereign credit rating to junk", *Nation Media Group*, 10 September 2015, © EMIS, 2015.



ビジネス上の課題

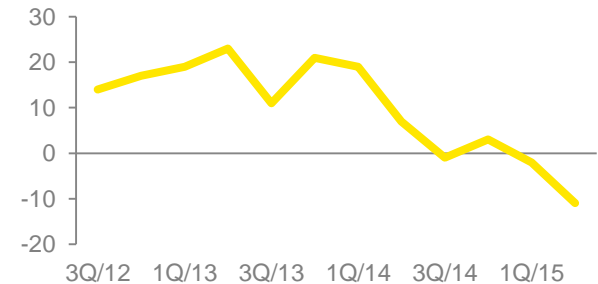
課題	関連性	説明
----	-----	----

軟弱なマクロ経済 パフォーマンス及びビジネスマインドの縮退



- ▶ 2011年から2014年の間に採択された「新経済マトリクス」の浸透効果は引き続き2015年に見られるであろう。
- ▶ 2015年第2四半期の投資調査 (The Investment Survey) は投資家間での事業環境が著しく悪化していることをとらえている。

製造業界の純投資動向 %



出所: IBRE/FGV, 2015.

フィッチまたはムーディーズによる 国債の潜在的に格下げ



- ▶ 信用格付け機関のスタンダード・アンド・プアーズ (S&P) は9月にブラジルの国債を投機的格付けに下げ同国は投資適格でなくなる。同機関はブラジル政府が財政改革実施が困難な状態にあるから格下げをしたと説明。
- ▶ 機関投資家は恐らく同国から資本を引き出すことが余儀なくされ事業用のクレジットがより高くなるとみられる。

情報源:[1] World Bank, Doing Business 2014.

[2] “Country Economic Databank”, *Oxford Economics*, 12 June 2015, © Oxford Economics 2015

[3] “Sondagens e Índices de Confiança”, *FGV IBRE*, <http://portalibre.fgv.br/>, Jun 2015, accessed on Jun 2015. [4] “Brazil: S&P downgrades sovereign debt to BB-”, *M-Brain*, 10 September 2015, © EMIS, 2015.[5] “S&P cuts Brazil sovereign credit rating to junk”, *Nation Media Group*, 10 September 2015, © EMIS, 2015.



関連性大



関連性
有り



関連性小



最小の
関連性

コンサルタント部会からのメッセージ

景気低迷期だから見えてくるビジネス機会

～経済回復期はいつか？日系企業はどう備えるか？

- ▶ 長い目で見て頑張る
- ▶ 撤退を考えている場合は休眠を！
- ▶ ユニークなビジネス環境にあるブラジルでの経営：特に営業部門などは現地化する
- ▶ 緩やかな前進
- ▶ ビジネスのイノベーションを！

コーヒーブレイク

COFFEE BREAK

後半司会

大久保 敦 企画戦略委員長

APRESENTADOR

Presidente da Comissão
de Planejamento
e Estratégia

Atsushi Okubo

化学品 部会

中村 博 部会長

Departamento de Produtos Químicos

Presidente: Hiroshi Nakamura

化学品部会

2015年の回顧と2016年の展望

副題：「景気低迷期だから見えてくるビジネス機会
～経済回復期はいつか？日系企業はどう備えるか？～」

2016年2月25日

化学品部会アンケート

「2015年の回顧と2016年の展望」

アンケート依頼：55社（者）

27社・35回答

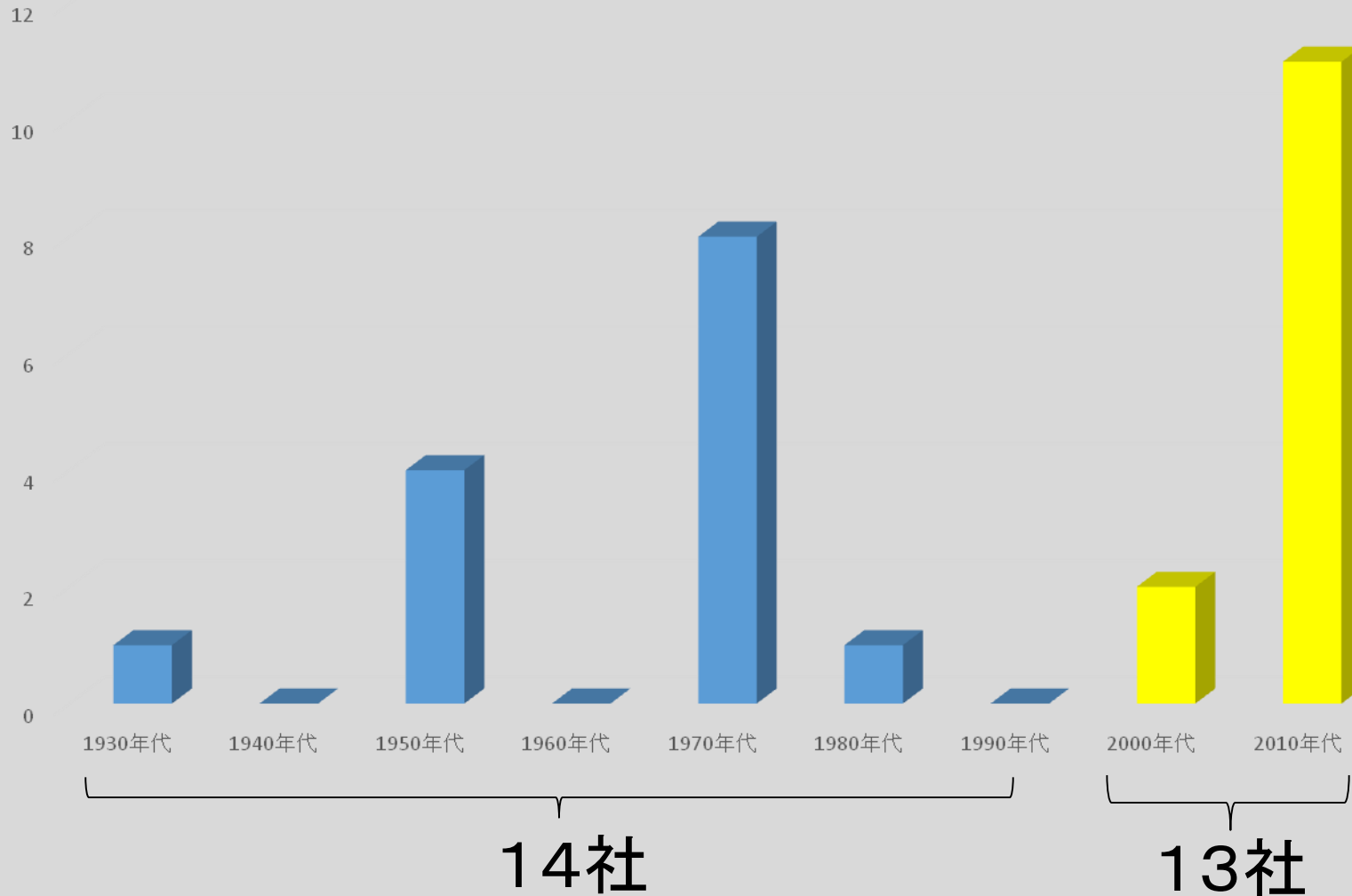
（一部複数回答あり）

化学品部会 会員企業・団体

Adeka Brasil	Mitsubishi Corporation do Brasil	
Azbil do Brasil	Mitsui & Co.(Brasil)	
Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil	Mitsui Chemicals do Brasil	
Banco Sumitomo Mitsui Brasileiro	Miura Boiler do Brasil	
Bridgestone do Brasil	Nagase do Brasil	会員55社(者)
Celulose Nipo-Brasileira(Cenibra)	Nagawa do Brasil	27社35回答
Daicolor do Brasil	Nichino do Brasil	
EPCOS do Brasil	Nisso Brasileira	
FUJIFILM do Brasil	Okaya do Brasil	
Harima do Brasil	Otsuka Ind. Prods. Químicos do Brasil	
Hisamitsu Farmacêutica do Brasil	Pigeon Produtos Infantis	
Honda Lock São Paulo	Pilot Pen do Brasil	
Idemitsu Lube South America	Rohto do Brasil	
Inabata Brasil	Shin-Etsu do Brasil	
Itochu Brasil S.A.	Shiseido do Brasil	
JETRO, São Paulo	Sociedade Coml. Toyota Tsusho do Brasil	
JICA (São Paulo)	Sojitz do Brasil	
JX Nippon Oil & Energy Brasil	Sumitomo Chemical do Brasil	
Kaneka South America	Sumitomo Corporation do Brasil	
K-I Chemical do Brasil	Takasago Fragrâncias e Aromas	
Kisco do Brasil	Three Bond do Brasil	
Kito do Brasil	Toray do Brasil	
Kuraray South America	Toyo Ink Brasil	
Kurashiki Chemical Products do Brasil	Toyobo do Brasil	
Kurita do Brasil	UBE Latin America	
Kyocera do Brasil	Ueno Profit Assessoria	
Marubeni Brasil	Unicharm do Brasil	
Midori Atlântica Brasil		

会員(企業・団体)の創業年

回答を得た27社では、2000年より前と後でほぼ50:50



新旧が混在

創業年代による景況比較:27社

2015売上	1930年代	1940年代	1950年代	1960年代	1970年代	1980年代	1990年代	2000年代	2010年代
増加	1	0	1	0	2	0	0	0	7
不変	0	0	0	0	0	0	0	1	0
減少	0	0	3	0	6	1	0	1	4
合計	1	0	4	0	8	1	0	2	11

2015利益	1930年代	1940年代	1950年代	1960年代	1970年代	1980年代	1990年代	2000年代	2010年代
増加	1	0	0	0	2	0	0	1	6
不変	0	0	1	0	1	0	0	0	2
減少	0	0	3	0	5	1	0	1	3
合計	1	0	4	0	8	1	0	2	11

2016売上	1930年代	1940年代	1950年代	1960年代	1970年代	1980年代	1990年代	2000年代	2010年代
増加	1	0	3	0	2	1	0	0	6
不変	0	0	1	0	3	0	0	1	1
減少	0	0	0	0	3	0	0	1	4
合計	1	0	4	0	8	1	0	2	11

2016利益	1930年代	1940年代	1950年代	1960年代	1970年代	1980年代	1990年代	2000年代	2010年代
増加	1	0	2	0	2	1	0	0	5
不変	0	0	2	0	3	0	0	1	3
減少	0	0	0	0	3	0	0	1	3
合計	1	0	4	0	8	1	0	2	11

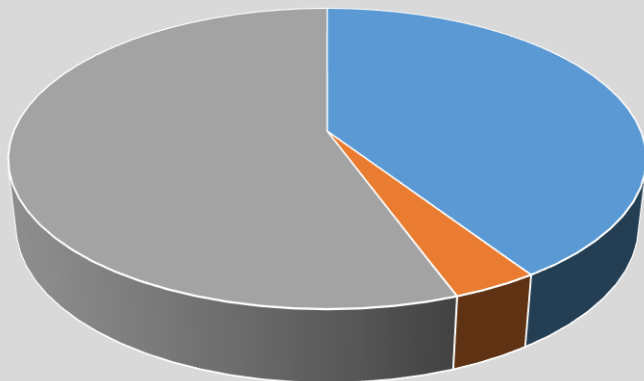
バラツキはあるが、若い企業健闘

化学品部会27社合計

2015年の回顧

売上

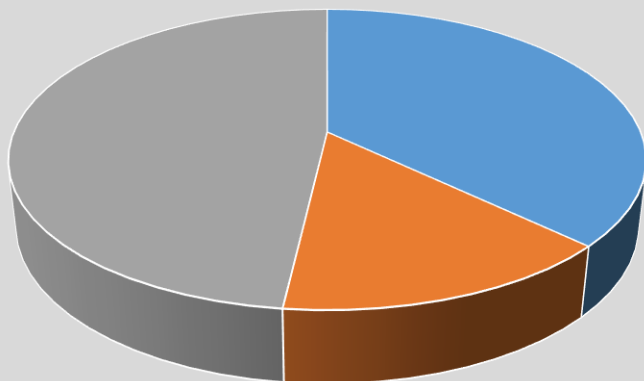
2015売上



■ 増加 ■ 不変 ■ 減少

利益

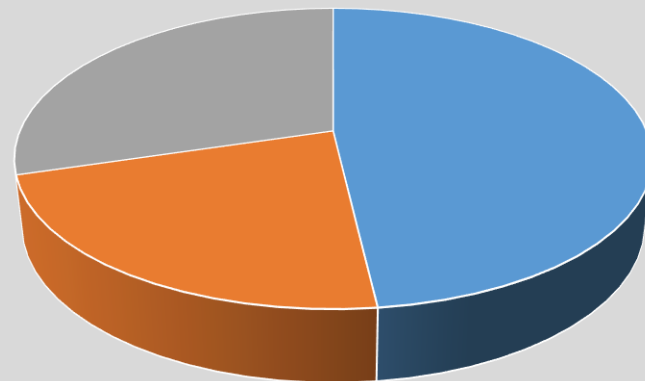
2015利益



■ 増加 ■ 不変 ■ 減少

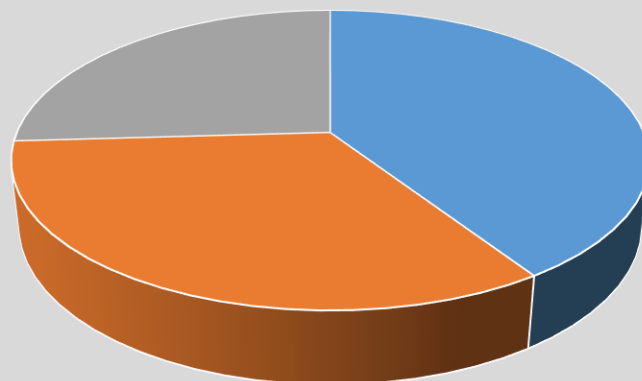
2016年の展望

2016売上



■ 増加 ■ 不変 ■ 減少

2016利益



■ 増加 ■ 不変 ■ 減少

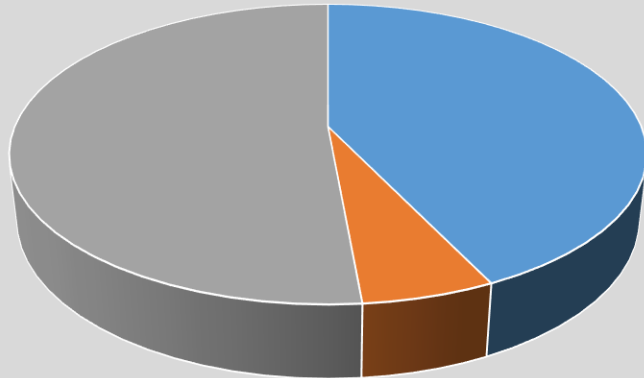
2016年は、前年よりもやや前向き？（底打ち？）

化学品部会35回答合計

2015年の回顧

売上

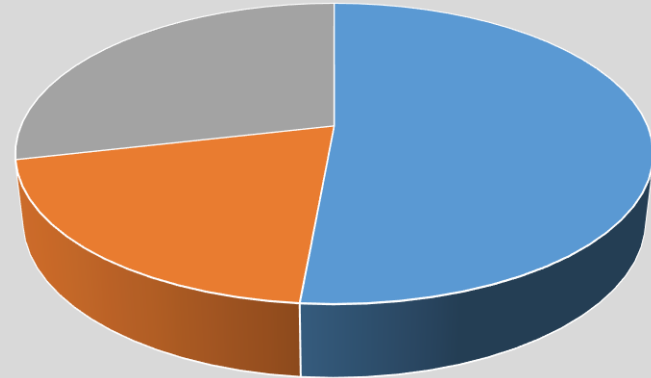
2015売上



■ 増加 ■ 不変 ■ 減少

2016年の展望

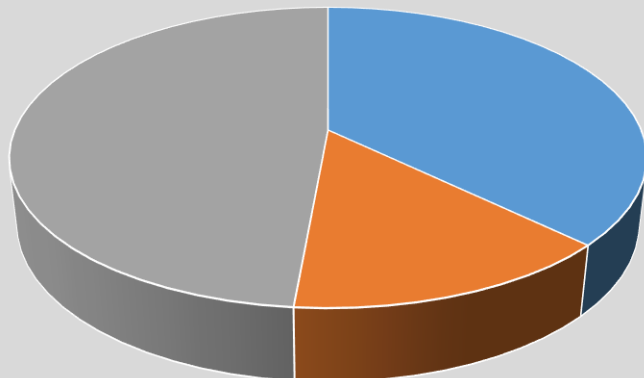
2016売上



■ 増加 ■ 不変 ■ 減少

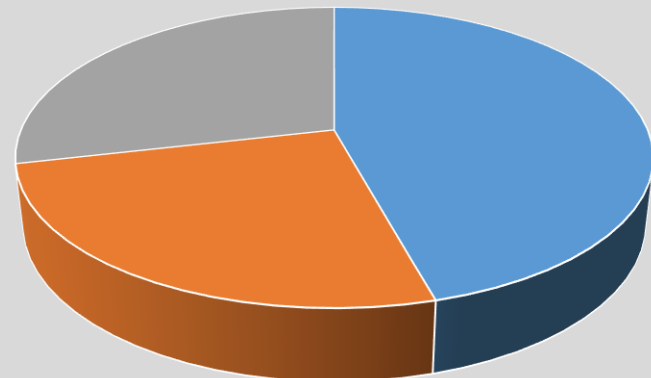
利益

2015利益



■ 増加 ■ 不変 ■ 減少

2016利益



■ 増加 ■ 不変 ■ 減少

2016年は、前年よりもやや前向き？（底打ち？）

35回答(27社)の事業内訳

生産財／B to B : 31回答

消費財／B to C : 4回答

Daicolor do Brasil

FUJIFILM do Brasil①

FUJIFILM do Brasil②

Harima do Brasil

Idemitsu Lube South America

Inabata Brasil

Kaneka South America

K-I Chemical do Brasil

Kuraray South America

Kurashiki Chemical Products do Brasil

Kyocera do Brasil

Marubeni Brasil

Mitsubishi Corporation do Brasil

Mitsui Chemicals do Brasil①

Mitsui Chemicals do Brasil②

Mitsui Chemicals do Brasil③

Miura Boiler do Brasil

Nagase do Brasil

Nisso Brasileira

Otsuka Ind. Prods. Químicos do Brasil

Sumitomo Chemical do Brasil①

Sumitomo Chemical do Brasil②

Sumitomo Chemical do Brasil③

Takasago Fragrâncias e Aromas

Three Bond do Brasil

Toray do Brasil

Toyo Ink Brasil

Toyobo do Brasil①

Toyobo do Brasil②

UBE Latin America①

UBE Latin America②

FUJIFILM do Brasil③

Hisamitsu Farmacêutica do Brasil

Pilot Pen do Brasil

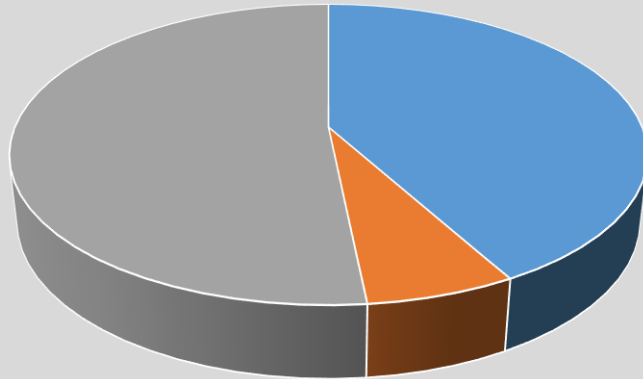
Rohto do Brasil

生産財／B to B 31回答

2015年の回顧

2015売上

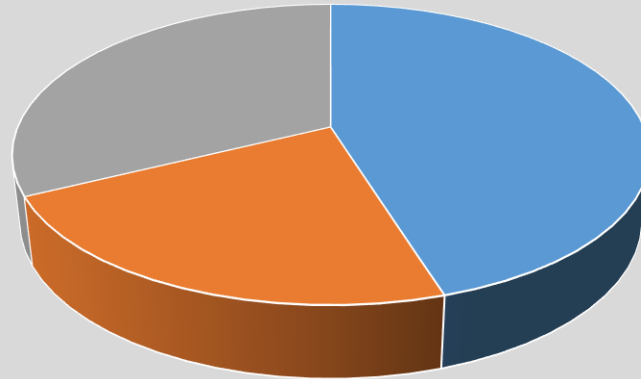
売上



■ 増加 ■ 不変 □ 減少

2016年の展望

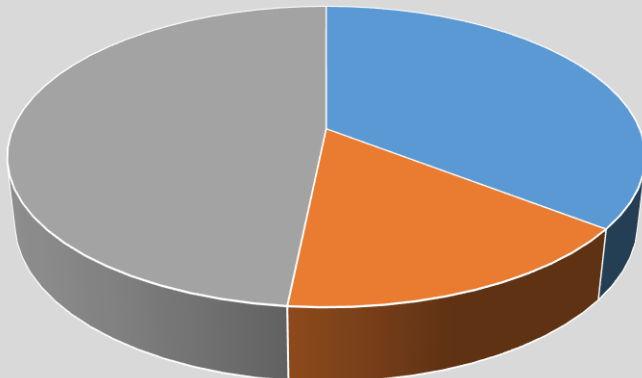
2016売上



■ 増加 ■ 不変 □ 減少

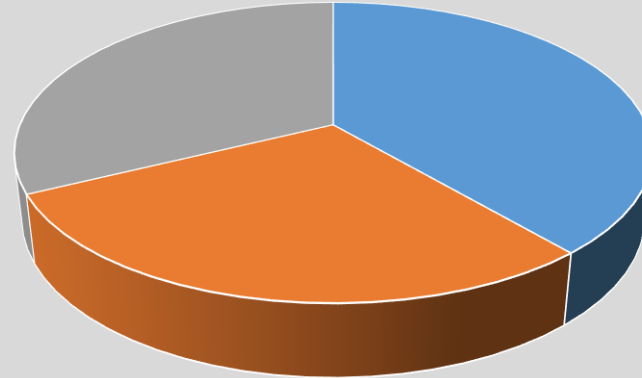
2015利益

利益



■ 増加 ■ 不変 □ 減少

2016利益



■ 増加 ■ 不変 □ 減少

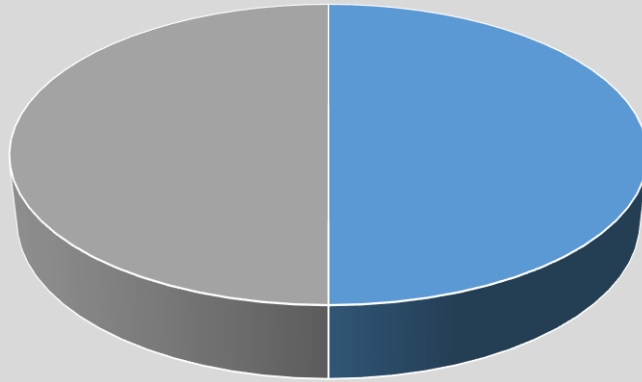
2016年は、売上・利益を前年同様とする企業が増加

消費財／B to C 4回答

2015年の回顧

2015売上

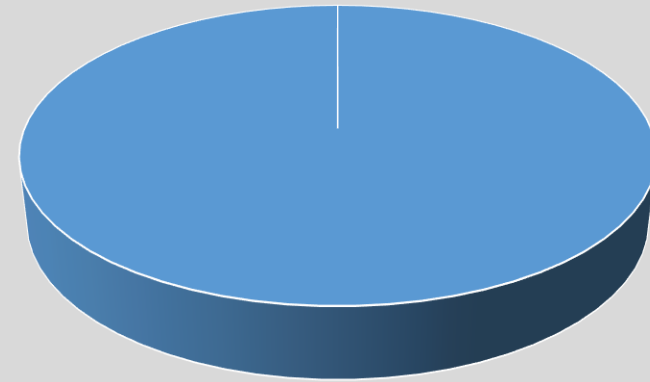
売上



■ 増加 ■ 不変 ■ 減少

2016年の展望

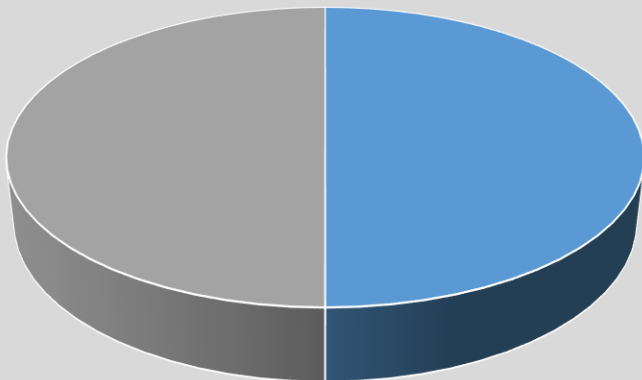
2016売上



■ 増加 ■ 不変 ■ 減少

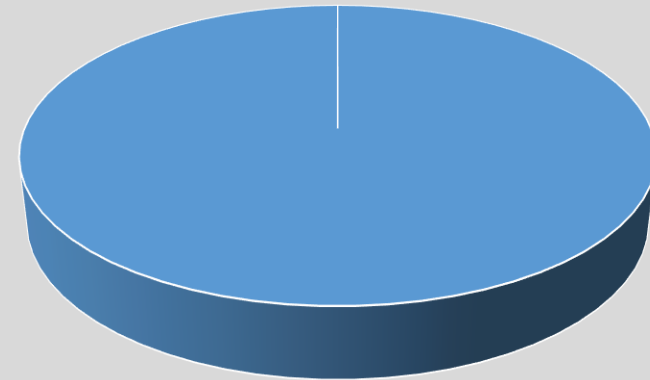
利益

2015利益



■ 増加 ■ 不変 ■ 減少

2016利益



■ 増加 ■ 不変 ■ 減少

2016年は、売上・利益ともに改善を見込む

景況の理由(2015回顧)

プラス要因

<自社に起因すること>

- ・新規顧客開拓 : 12
- ・設備投資・能力UP : 4
- ・新製品投入・差別化 : 3
- ・コストDOWN : 3
- ・その他 : 6

※その他は、買収、流通政策の変更、値上げ、
現地社員の士気向上など

<外部環境に起因すること>

- ・為替レート : 7
- ・その他 : 9

※その他は、競合衰退、天候、原料価格の低下、
感染症の流行など

マイナス要因

<自社に起因すること>

- ・(少数意見) : 2

※販売費減、生産性が低い

<外部環境に起因すること>

- ・売れない(不況、在庫過多) : 24
- ・為替レート : 18
- ・競合激化・販価下落 : 8
- ・コストUP(インフレなど) : 8
- ・高金利 : 6
- ・与信不安 : 3
- ・その他 : 6

※その他は、天候、人材不足、設備不具合など

景況の理由(2016展望)

プラス要因

<自社に起因すること>

- ・新規顧客開拓 : 13
- ・新製品投入 : 5
- ・設備投資・能力UP : 5
- ・コストDOWN : 4
- ・その他 : 2

※その他は、流通政策の変更、パートナーとの協力強化

<外部環境に起因すること>

- ・為替レート : 6
- ・原燃料価格の安定 : 3
- ・その他 : 11

※その他は、市場回復、競合衰退、感染症の流行など

マイナス要因

<自社に起因すること>

- ・(少数意見) : 2

※期ズレ、製品構成の変更

<外部環境に起因すること>

- ・売れない(不況、在庫過多) : 18
- ・為替レート : 15
- ・競合激化・販価下落 : 6
- ・コストUP(インフレなど) : 6
- ・高金利 : 5
- ・与信不安 : 3
- ・天候 : 1

景気低迷期だから見えてくるビジネス機会

～経済回復期はいつか？日系企業はどう備えるか？～

景況の理由(まとめ＝結論)

- ✓ 景気低迷、レアル安、インフレ、高金利、競合状況など **厳しい事業環境** にさらされながらも、
- ✓ 新規顧客開拓、新製品投入、設備投資、コスト削減など **各社(者)の不断の努力** によって、
- ✓ ブラジルにおける事業の継続・拡大に努力することが重要である。

各社(者)の不断の努力が確実に実を結ぶために・・・

ブラジルで改善すべき課題は何か？

(35回答、複数回答あり)

- ✓ 課税 : 30 (85.7%)
- ✓ 労働 : 27 (77.1%)
- ✓ 通関 : 13 (37.1%)
- ✓ インフラ : 13 (37.1%)
- ✓ 産業競争力
- ／ 中小企業育成 : 13 (37.1%)
- ✓ その他 : 7

(政治安定、通貨安定、司法制度、技術振興、観光振興)

景気低迷期だから見えてくるビジネス機会

～経済回復期はいつか？日系企業はどう備えるか？～

その他、各社(者)のコメント 1/2

◆複雑で高い税金は製品競争力を削いでいる。給料を下げられないルールは労働者にとっても良くない(人件費削減は首切りとなる)。ブラジル政権が変われば、景気の風は変わる。逆に労働党政権あと3年続く限りにおいては経済もこのまま停滞継続。2017～18年で底を打つ。それまではじっと耐えること。

◆厳しすぎて、もう瀬戸際です。

景気低迷期だから見えてくるビジネス機会

～経済回復期はいつか？日系企業はどう備えるか？～

その他、各社(者)のコメント 2/2

- ◆積極的な企業買収の好機と捉え、新規買収検討を進めるべき。
- ◆●●社(企業名)としての本来の事業目的である新規事業探索からすると、景気低迷期こそ事業機会があるとの信念で、探索活動に注力したい。
- ◆景気低迷で消費者の品質に対する要求は厳しくなるので、日本製品の性能・耐久性、アフターサービスの充実など、長所を生かしマーケットシェアの拡大に注力する。
- ◆この時期に市場調査や需要家への高機能品の売り込みを強化し、景気回復後の事業拡大につなげる。
- ◆社員への教育・研修の機会を増やし、知識及びスキルの向上を図ることにより、会社運営の質の向上、営業力の強化につなげる。

ご清聴ありがとうございました。

化学品部会

電気電子 部会

千野 浩毅 部会長

Departamento Eletroeletrônico

Presidente: Hiroki Chino

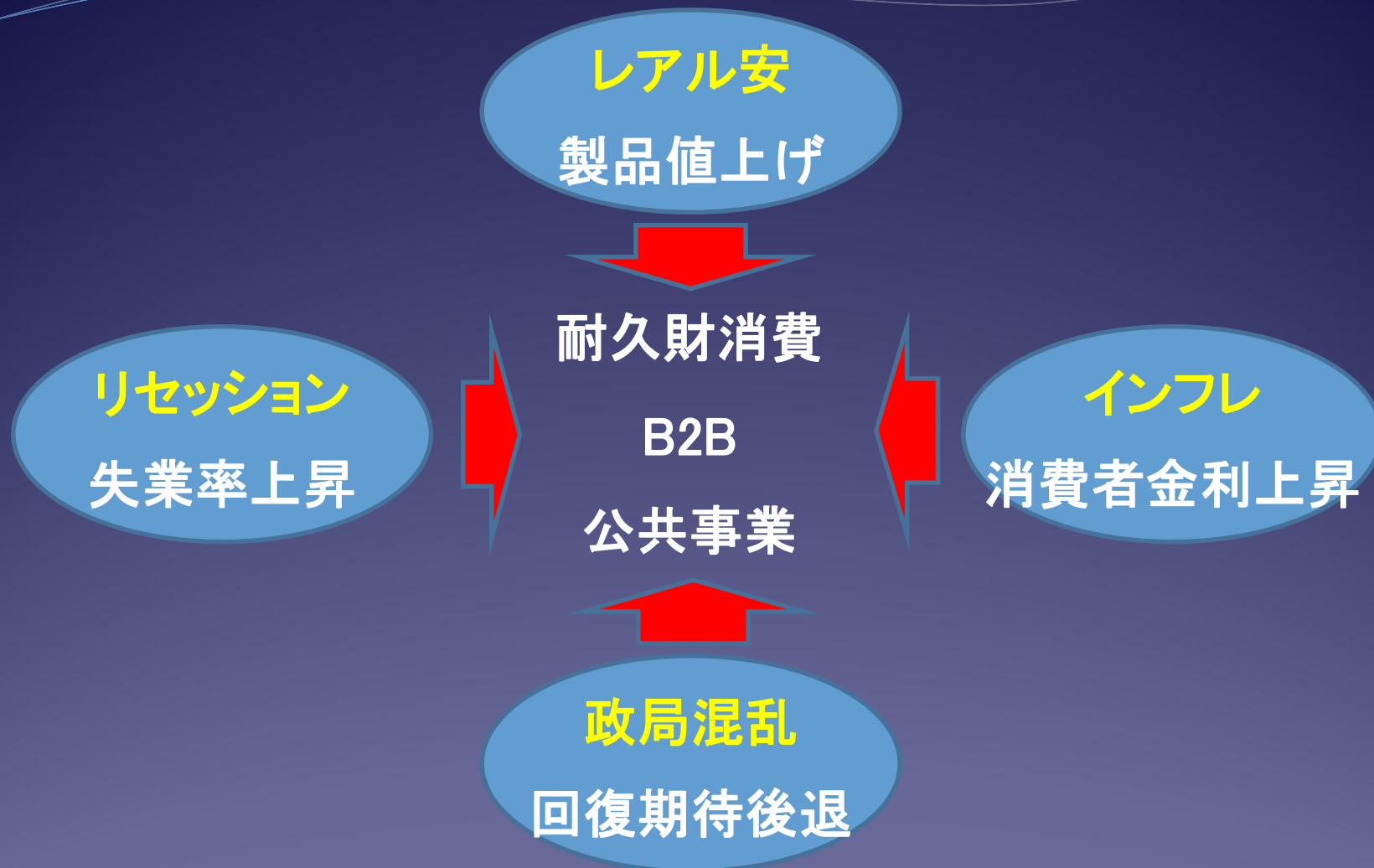
電気電子業界 2015年回顧と2016年展望

2016年2月25日

電気電子部会

Sony Brasil 千野 浩毅

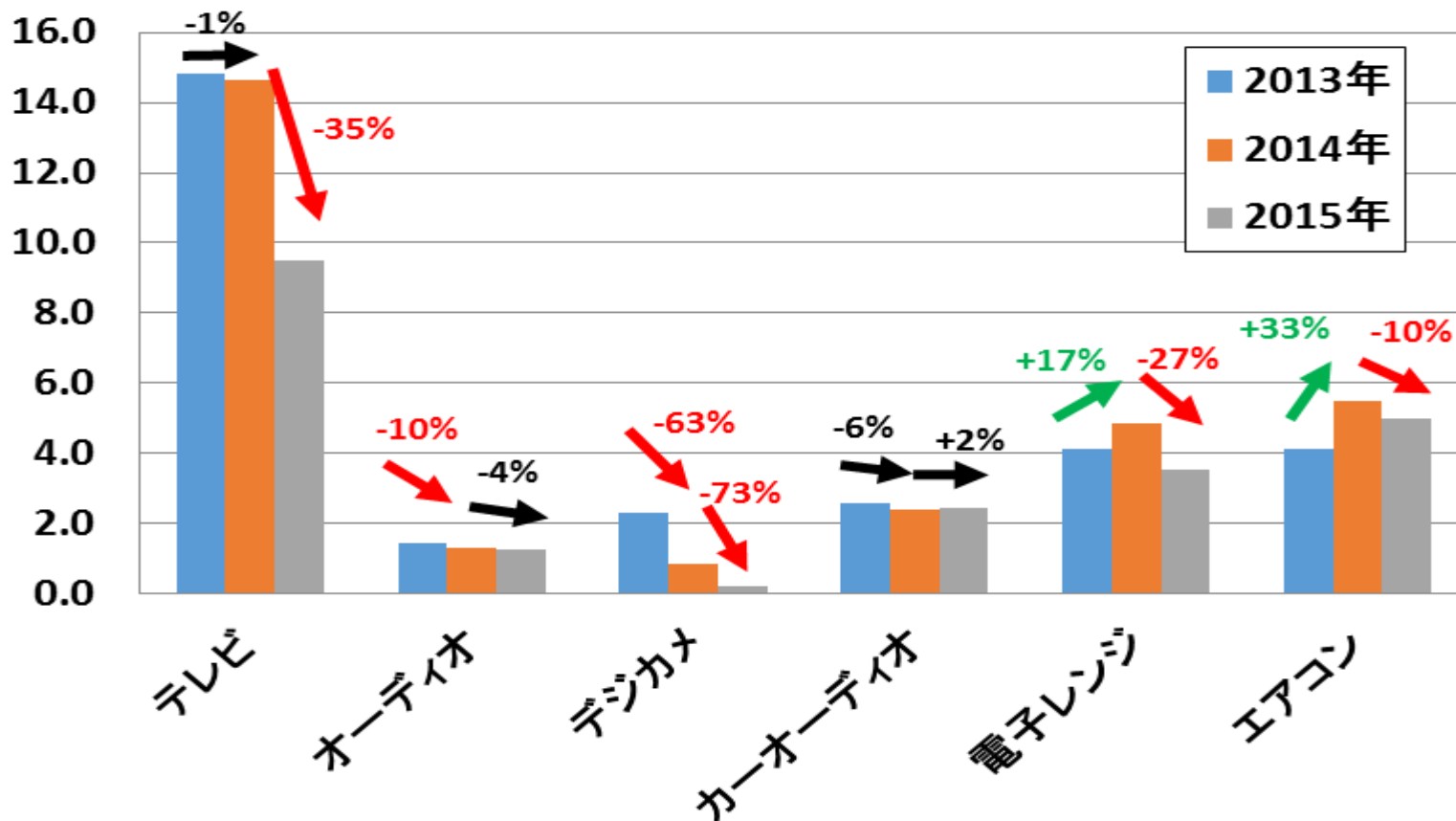
2015年回顧 ①



昨年7月に市場は一気に凍結状態となり、その状態がいまだに継続している

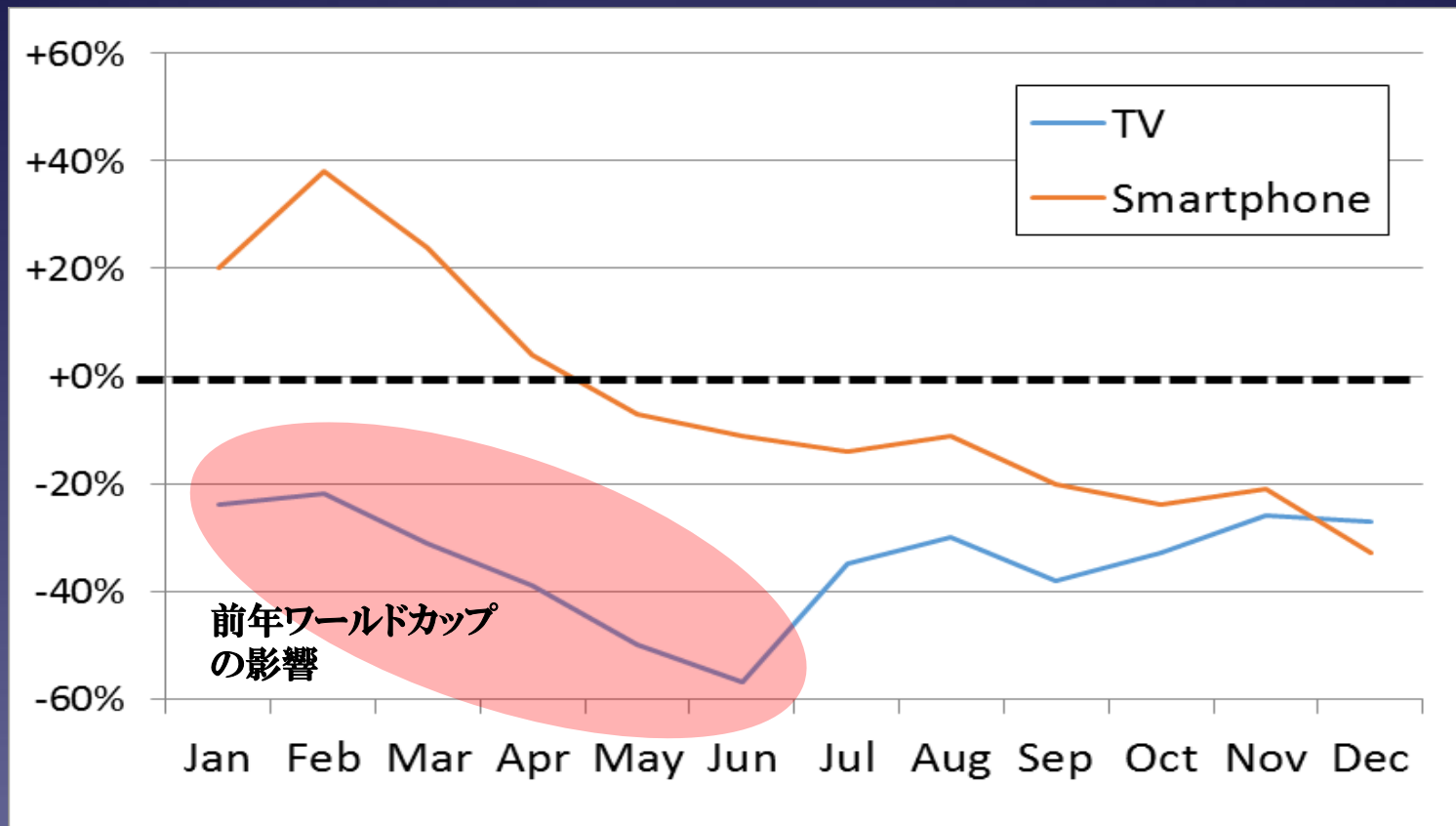
2015年回顧 ② マナウス生産数量推移

単位：100万台



スファミ統計より

2015年回顧 ③ 小売販売数量(対前年)






	2014年⇒2015年		
	台数	金額	単価
TV	-39%	-35%	+7%
Smartphone	-9%	+7%	+17%



為替悪化(2.7⇒4.0 : 約50%)に対する価格上昇は未だ不十分

2015年回顧 ④ 会員アンケート結果

昨年7月時点

	改善	維持	悪化	合計
上期回顧	6	6	2	14
(%)	43%	43%	14%	100%
	改善	維持	悪化	合計
下期展望	4	8	2	14
(%)	29% 	57% 	14% 	100%

今回

	改善	維持	悪化	合計
年間回顧	6	2	5	13
(%)	46% 	15%	38% 	100%

「維持」を対前年比100～109%として分類

2015年回顧 ⑤ 会員アンケート 主要コメント

(-)

- 一般消費、自動車等の産業需要(部品事業)、官需の低迷
- 取引先(小売店等)の資金難による販売低迷
- 値上げによる販売数量減
- 為替悪化、インフレによる収益性悪化(増収でも減益)
- 資金管理、債権管理の困難
- 税制変更(ICMS、PIS/COFINS)に関連する悪化

(+)

- 高付加価値商品へのシフト
- 競争力強化によるシェア拡大
- 新規ビジネス拡大
- 買収事業の成長
- 輸出拡大
- 直販の拡大
- オリンピック関連事業(インフラ等)の獲得

toward
future

- 投資の厳選
- 経営体質の強化(従業員削減)

2016年の展望 ① 会員アンケート結果

	改善	維持	悪化	合計
2015年回顧	6	2	5	13
(%)	46%	15%	38%	100%



	改善	維持	悪化	合計
2016年展望	8	3	2	13
(%)	62% ↑	23%	15% ↓	100%

「維持」を対前年比100～109%として分類

- リセッション突入前から事業構造改革に取り組んできた企業が多い
- 16年に環境の改善は望めないが、これ以上の悪化はない(今がボトム)

2016年の展望 ① 会員アンケート 主要コメント

(-)

- ・ 市場環境の改善は望めない
- ・ 収益確保の困難は続く
- ・ 高いボラティリティの中で無理はできない
- ・ 税金関連の悪化懸念(増税に関する懸念)

(+)

- ・ 高付加価値商品へのシフト
- ・ 競争力強化によるシェア拡大
- ・ 新規ビジネス拡大
- ・ 買収事業の成長
- ・ レアル安の活用(輸出拡大、部品現地調達への切り替え)
- ・ オンライン販売の拡大
- ・ オリンピック関連ビジネスの獲得

toward
future

- ・ 投資の厳選
- ・ 構造改革・経費削減努力の継続、強化
- ・ ポスト・リセッションに向けた種蒔きと体制構築

「景気低迷期だから見えてくるビジネス機会 ～経済回復期はいつか？日系企業はどう備えるか～」

ブラジルの中長期的なポテンシャルは高い

新規に取り組む価値のある事業領域も多々ある

過去のクライシスに比べて、今は景気循環の一局面

守りを固め、リセッションの出口に向けてやるべきことをやる

リアル安、不動産価格下落は投資の好機とも言える

液晶TV⇒スマホ⇒？？？（次のチャンスは？）

ブラジル政府への要望

「魅力ある市場」という評価の回復

(いまや誰も高度成長を期待していない中で)

為替の安定

消費の活性化・公共投資の正常化

税制改革(移転価格、ICMSクレジット残、代行納税)

税金を払わない輸入に対する厳格な取締り
(最近では国際インターネット通販の個人輸入での関税不払いが増加)

治安の改善

ご静聴、ありがとうございました。

食品 部会

藤江 太郎 部会長

Departamento de Gêneros Alimentícios

Presidente:Taro Fujie

2015年の回顧と2016年の展望

「景気低迷期だから見えてくるビジネス機会」

～経済回復期はいつか？日系企業はどう備えるか～

ブラジル日本商工会議所 食品部会

2016年2月25日(木)

目次

- ◆ 2015年業界動向
- ◆ 原材料動向
- ◆ 2016年の展望
- ◆ 第二回日伯農業・食料対話に向けて

2015年の業界動向

◆ 国内市場概況

- ・2014年末から始まった経済情勢の悪化が消費マインドに影響を与え、不況期でも相対的には底堅い食品市場ではあるものの、全体として内食、外食市場ともに低調。
- ・低価格指向が強まり、嗜好品への支出を抑制する傾向が出ている。
- ・輸入食材の販売は、レアル安による輸入価格の上昇により厳しい状況にある。
- ・輸出食材等は、レアル安の追い風を受け堅調。

2015年の業界動向

<飲料>

- ・発酵乳飲料 98%(数量ベース前年比)
- ・果汁飲料 108%(同上)
- ・粉末ジュース 105%(金額ベース前年比)

<調味料>

- ・調味料市場 106%(金額ベース前年比)

<スープ>

- ・粉末スープ市場 98%(金額ベース前年比)

2015年の業界動向

<コーヒー>

- ・国内消費は概ね前年並み。
- ・低価格指向が顕著に表れている。

<即席めん>

- ・食数ベースで前年比96%相当。
- ・昨年前半まで需要をけん引していた低所得者層の購買の需要低下の影響が大きいと予測。

2015年の業界動向

＜畜肉・畜肉加工品＞

- ・日本側の好調な需要に下支えされ、畜肉品の輸出は高水準で推移。
食品部会所属会社の日本向けブロイラーは前年比120%と伸長。
- ・飼料穀物の豊作による生産コスト軽減やリアル安によりブラジル産鶏肉の輸出競争力が向上。
- ・2015年末にはブラジルから日本向けの牛肉加工品、また日本からブラジル向けの牛生肉の解禁が発表され今後に期待。

2015年の業界動向

<チョコレート>

- ・ブラジルでは嗜好性食品ではないと言われるチョコレートも近年稀なるマイナスもしくはゼロ成長となった模様。

<加工油脂>

- ・チョコレート原料であるココアは2014年後半からの高値を維持し、ココアバター代用脂には好条件だったが、チョコレートの消費低迷に伴い、対前年で販売数量は減少。

2015年の業界動向

<清酒>

- ・ブラジルでの酒ピリーニャの市場拡大により、経済環境低迷の中でも市場は横ばい。

<香料>

- ・食品部会所属会社では、数量の多い飲料向けは低調だったが全体として成長を確保。

2015年の業界動向

<種苗>

- ・世界的にM&Aが進んだ一年となった。

ブラジル種子業界においては、需要は安定していたもののレアル安による輸入価格の高騰で収益が圧迫された。

- ・食品部会所属企業においては、販売は大きく成長、利益も成長したが、人件費や各種費用が利益を圧迫。

2015年の業界動向

<タバコ>

- ・総需要は規制や景気の影響から3-5%減を見込む。

食品部会所属会社では販売好調なるも、レアル安等が利益を圧迫。

<日本食材>

- ・日本食の広がりにより底堅い一方、レアル安により値上げを余儀なくされる傾向にあり、輸入販売は前年を下回る食材が多い。

2015年の業界動向

< 外食産業 >

- ・外食市場の伸長率は、2014年の124%に対し109%と鈍化。

< 輸出 >

- ・食肉、濃縮果汁の輸出はレアル安が貢献し好調。
- ・特に鶏肉、豚肉は日本向けが好調に推移

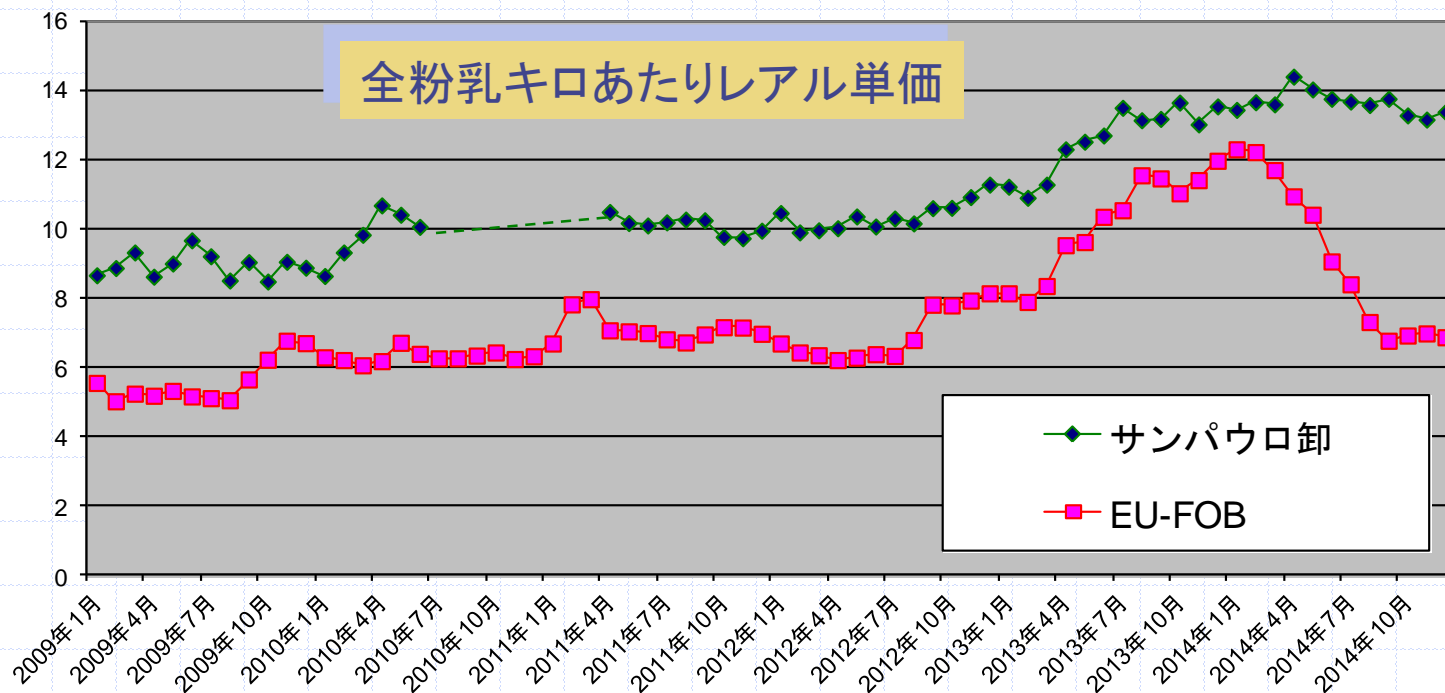
2015年の業界動向

◆ 利益面の状況

- 輸入原材料の値上がり-マイナス要因
- 原材料の国際価格低下傾向-プラス要因
- 電気代、人件費が収益へ大きく影響

原料動向

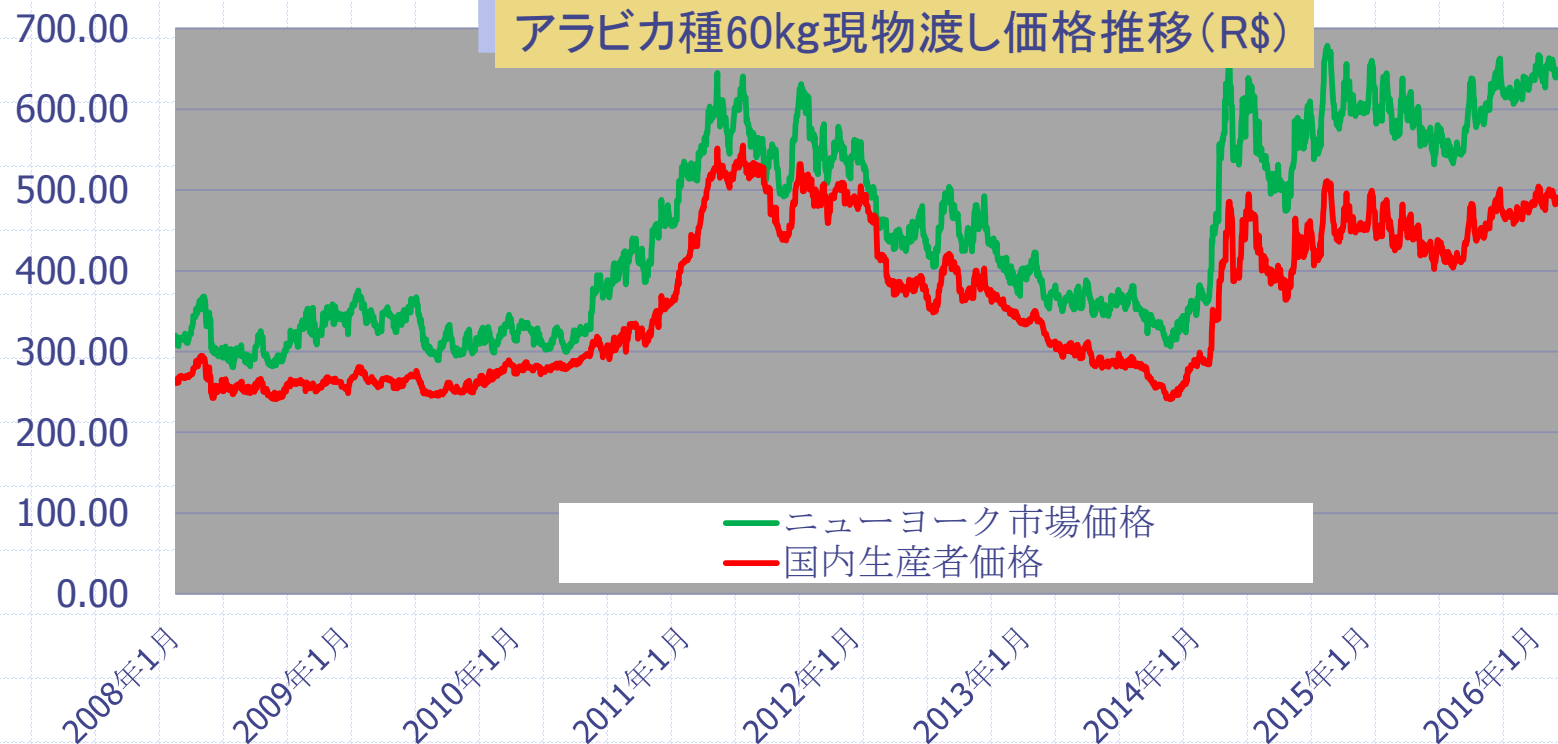
乳相場の推移(2009～)



◆ 乳製品価格は2013年には一大供給地域オセアニアで干ばつによる大不作となり高値のピークを付けた。2014年に入ってから供給増大策が功を奏し国際的には大きく下落、2012年以前の水準に戻ったものの、国内への影響は限定的。

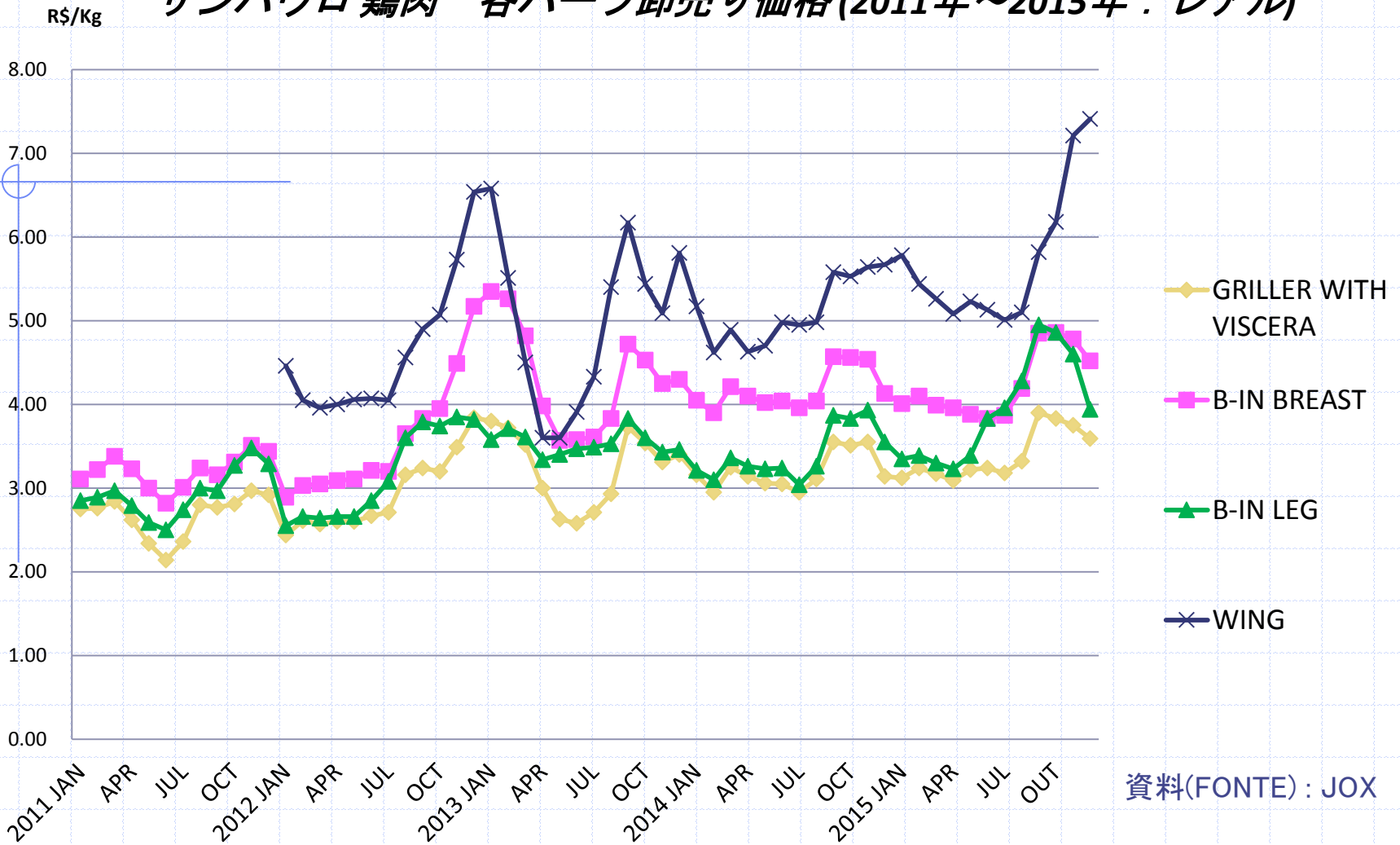
原料動向

コーヒー相場の推移



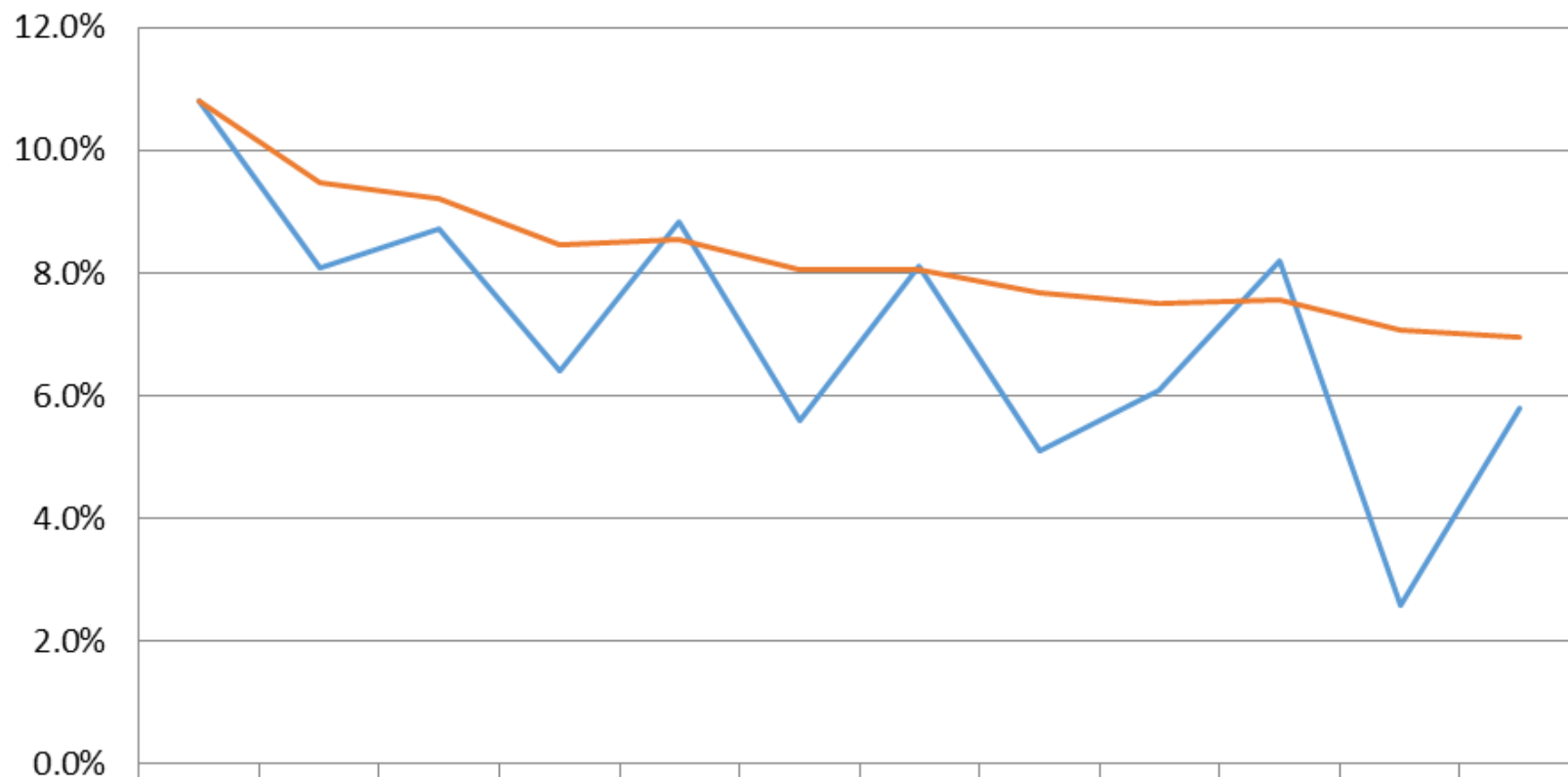
◆2015年下期、ブラジルの国内相場は500リアルと比較的高値で推移した。リアル安の影響により輸出競争力が飛躍的に増し、海外市場からの旺盛な買いが入ったもの。2016年はブラジルでは豊作が見込まれているものの引き続きリアル安の影響根強く、高値安定を予想。

サンパウロ 鶏肉 各パーツ卸売り価格(2011年~2015年：リアル)



東南アジア(特に中国)向けに輸出の好調なWING(手羽)の価格が高騰している。国内相場では、B-IN BREAST(骨付きムネ肉)・B-IN LEG(骨付きモモ肉)が過去5年間の最高値を更新したが、景気後退から高値圏への嫌気の影響を受け、価格も下落。

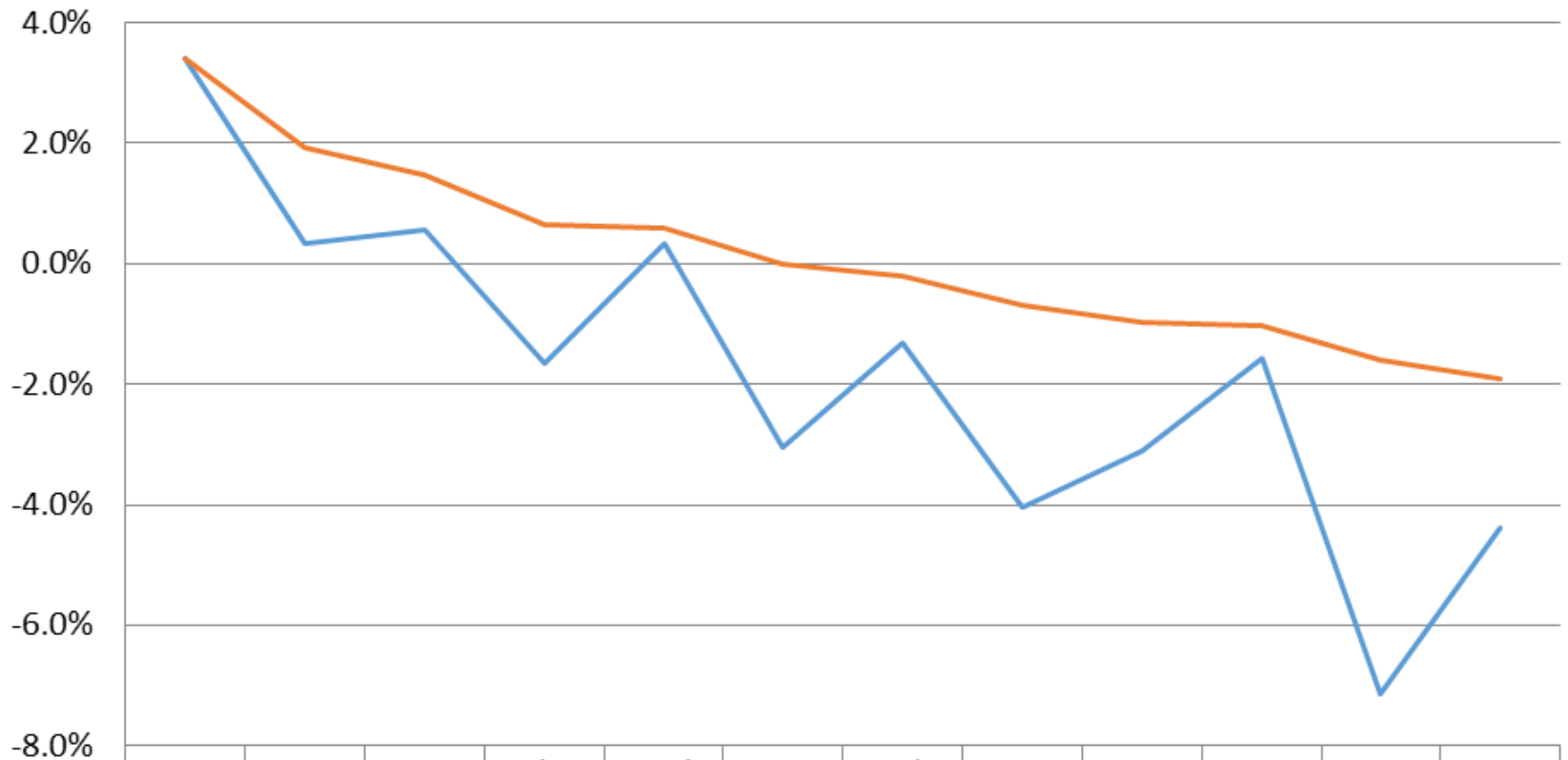
2015年度 スーパーマーケット売上前年比(名目)



	Jan	Fev	Mar	Abr	Mai	Jun	Jul	Ago	Set	Out	Nov	Dez
— 単月前年比	10.8%	8.1%	8.7%	6.4%	8.8%	5.6%	8.1%	5.1%	6.1%	8.2%	2.6%	5.8%
— 累計前年比	10.8%	9.5%	9.2%	8.5%	8.6%	8.1%	8.1%	7.7%	7.5%	7.6%	7.1%	7.0%

Source: Economic and research department - ABRAS

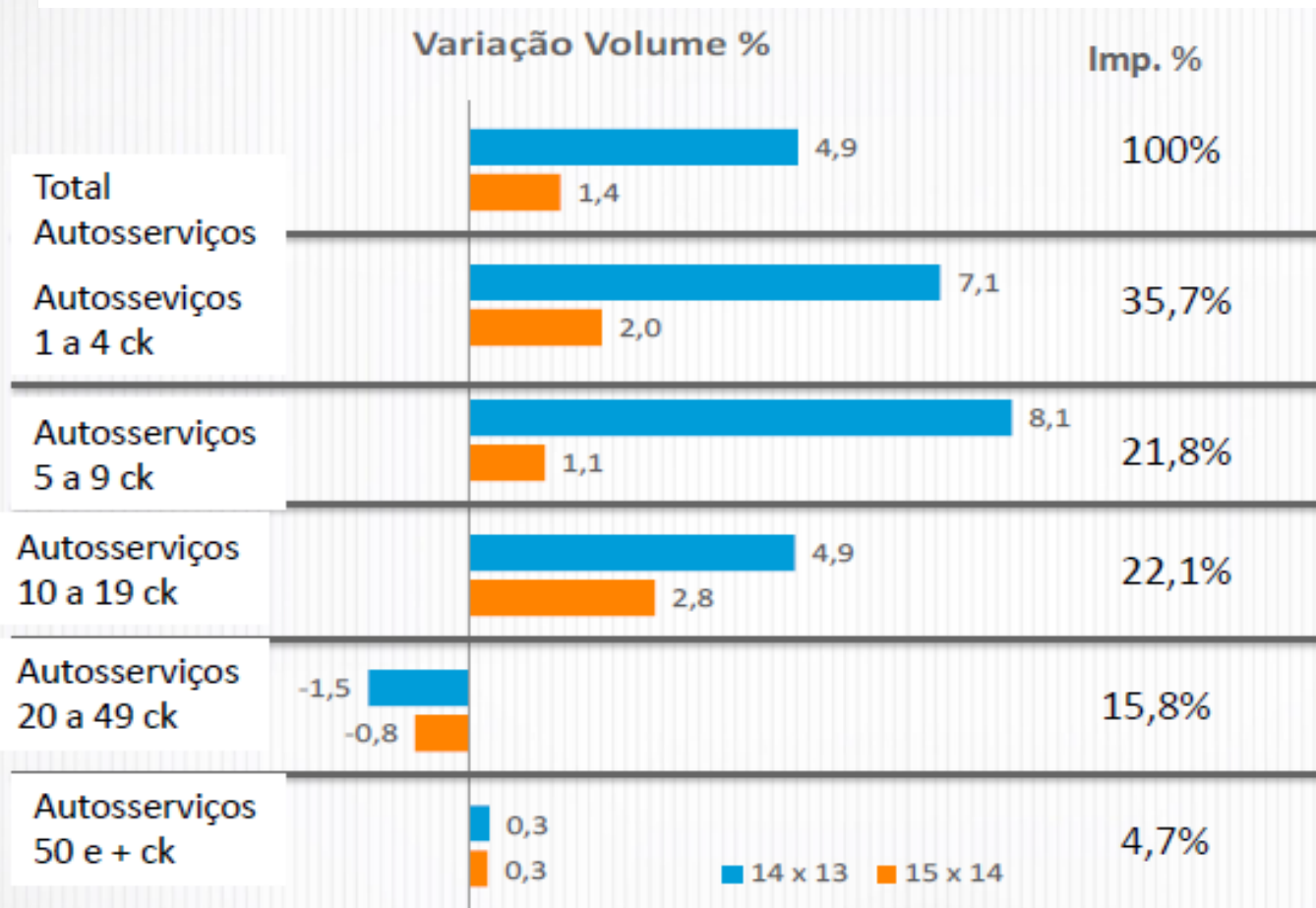
2015年度 スーパーマーケット売上前年比(実質)



	Jan	Fev	Mar	Abr	Mai	Jun	Jul	Ago	Set	Out	Nov	Dez
— 単月前年比	3.4%	0.4%	0.6%	-1.6%	0.3%	-3.0%	-1.3%	-4.0%	-3.1%	-1.6%	-7.1%	-4.4%
— 累計前年比	3.4%	1.9%	1.5%	0.7%	0.6%	0.0%	-0.2%	-0.7%	-1.0%	-1.0%	-1.6%	-1.9%

Source: Economic and research department - ABRAS

スーパーマーケットの取り扱い高(重量ベース)は 15年度になっても伸長



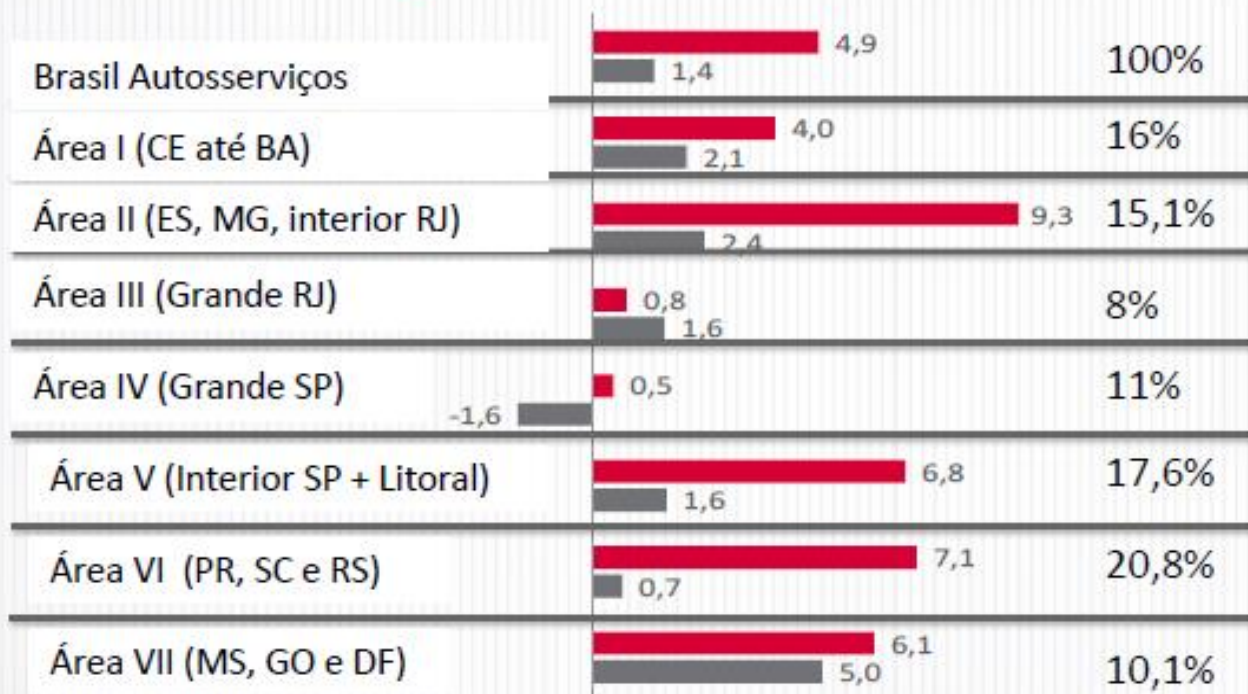
Variação de Volume e Preço – YTD15 x YTD14 (ASO15) – Total Brasil – TOTAL BRASIL COM EXPANSÃO
Base 135 Categorias de Produto (sem Cigarros) – Total Brasil – Fonte: Nielsen | Retail Index

全地域で取り扱い高の伸長率が前年から減少、 サンパウロ都市圏で最も顕著な減少

Variação Volume %

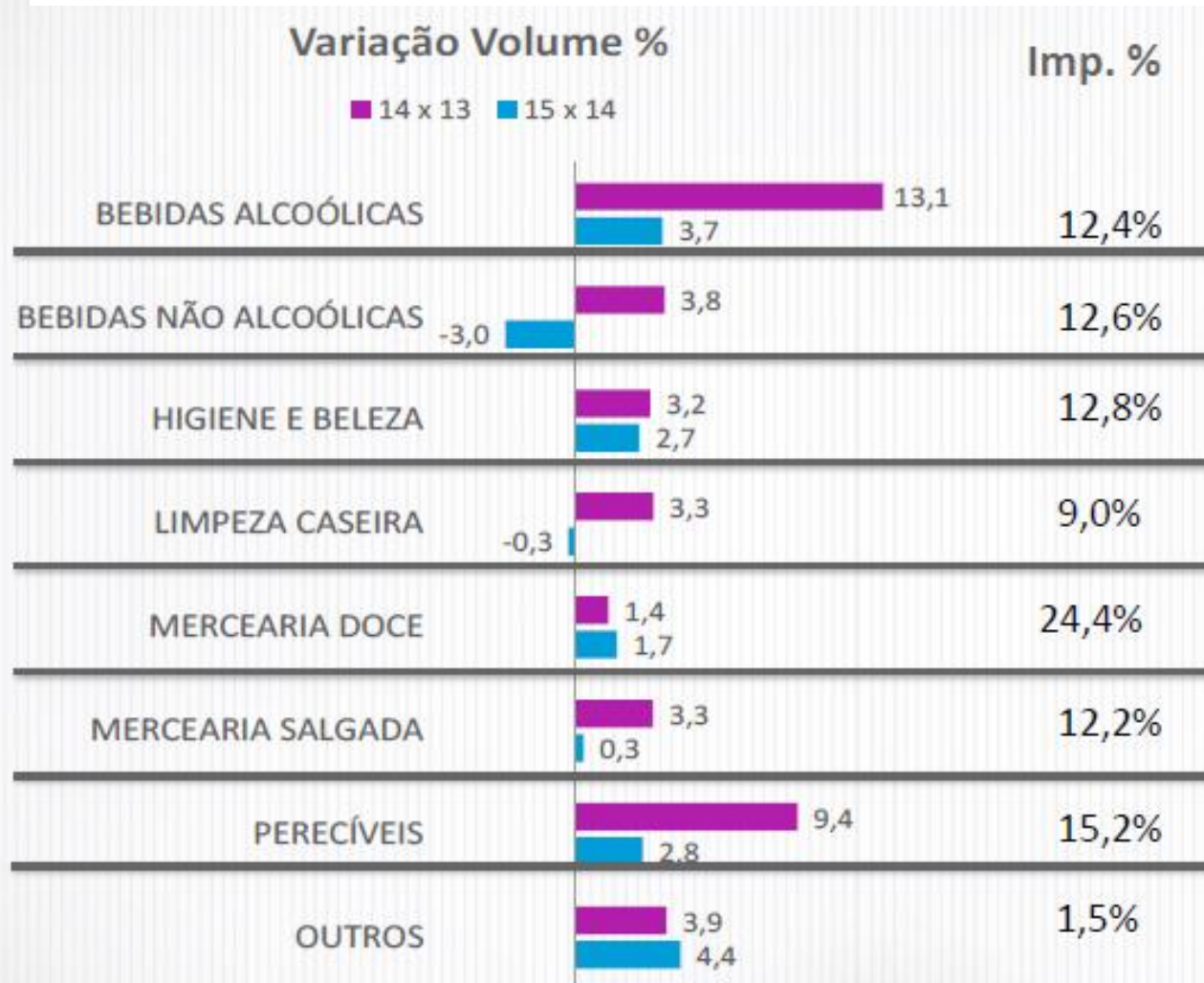
Imp. %

■ 14 x 13 ■ 15 x 14



Variação de Volume e Preço – YTD15 x YTD14 (ASO15) – Total Brasil – TOTAL BRASIL COM EXPANS
Base 135 Categorias de Produto (sem Cigarros) – Total Brasil – Fonte: Nielsen | Retail Index

主要カテゴリーでの取り扱い高の伸長率 (前年比)



Variação Volume, Valor e Preço (YTD15 x YTD14 (FMA15) – TOTAL BRASIL AUTOSSERVIÇO COM EXPANS

Fonte: Nielsen | Retail Index - base: 135 Categorias de Produtos (sem Cigarros)

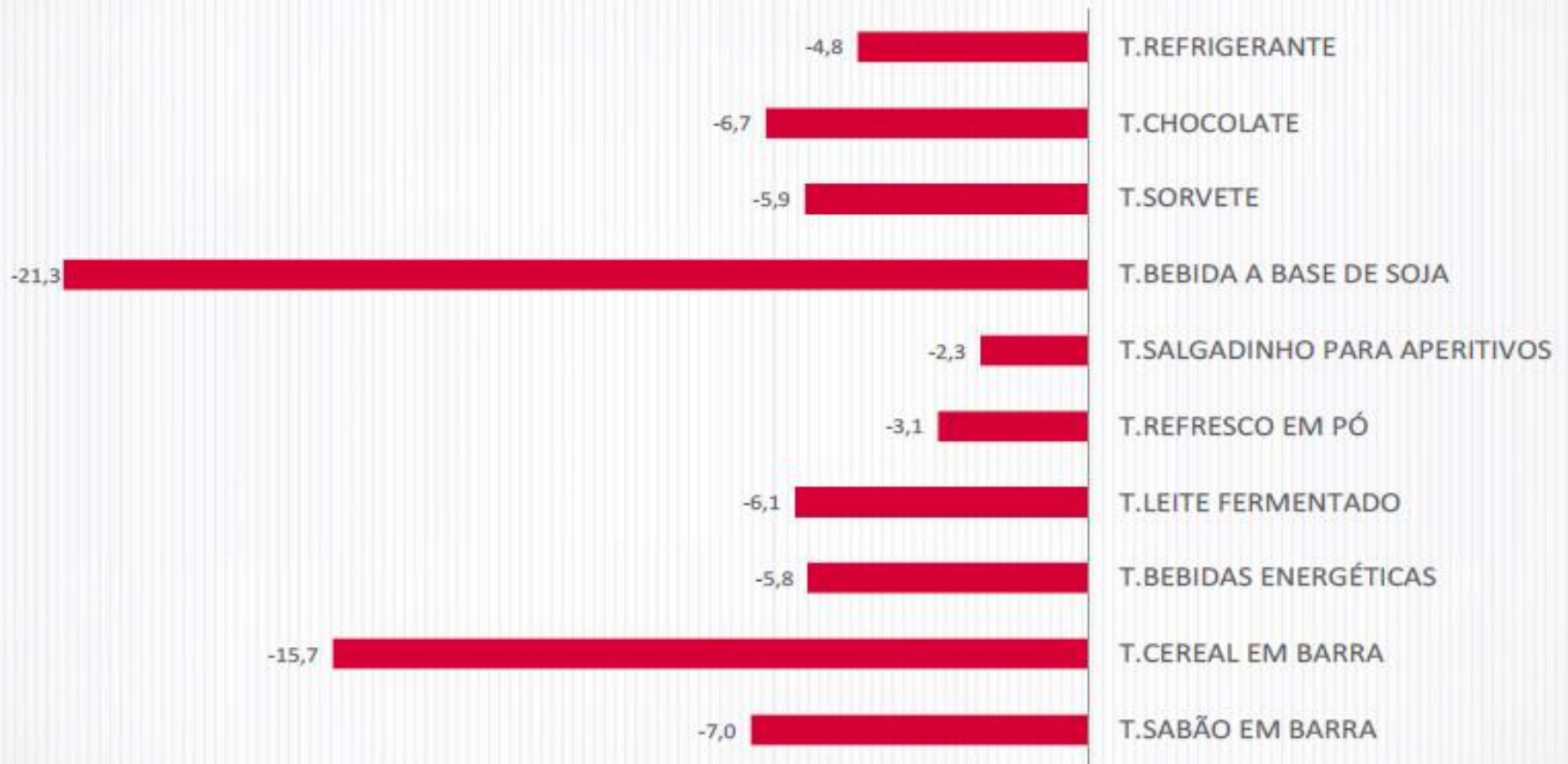
伸長している「TOP10」サブカテゴリー (前年比)



Top 10 Crescimentos (var.% > 2,0) YTD15 x YTD14 – Total Autosserviços Brasil

Ranking: Variação ponderada pela importância em faturamento das categorias para o Total Cestas - Fonte: Nielsen | Retail Index

減少している「TOP10」サブカテゴリー (前年比)



Top 10 Quedas (var. % < 2,0) YTD15 x YTD14 – Total Autosserviços Brasil

Ranking: Variação ponderada pela importância em faturamento das categorias para o Total Cestas - Fonte: Nielsen | Retail Index

2016年の展望

「景気低迷期だから見えてくるビジネス機会」

～経済回復期はいつか？日系企業はどう備えるか～

(1)消費マインドの低迷は当面継続すると想定。

⇒全体としては相対的に底堅い食品業界の特長を活かし、かつ消費者の動向や社会的変化を見据えた商品開発や市場開拓。

⇒この景気低迷域だから見えてくるビジネス機会を活かす。

例：好条件での投資。(人材、設備、広告等)

買収・提携などによる将来の成長への布石

2016年の展望

「景気低迷期だから見えてくるビジネス機会」

～経済回復期はいつか？日系企業はどう備えるか～

- (2) 様々な要因によるコスト上昇は継続する一方で、市場環境が厳しい中、販売価格への転嫁が困難で、短期的に収益が悪化することを想定。
⇒変化の時期を構造変化や体質強化のチャンスと見て取り組む

第二回日伯農業・食料対話に向けて

- ◆ 日時:2月29日～3月1日、場所:トカンチンス州の州都パルマス市
- ◆ 日本側参加者:企業20社30名、官20名 計50名(2/15時点)
- ◆ ブラジル側:アブレウ農務大臣に加え、マトピバ地域4州(マラニャン州、トカンチンス州、ピアウイ州、バイーア州)の州知事および連邦、州や市の関係者多数が出席予定(約500名を想定)
- ◆ 内容
 - ①ブラジルへの投資環境の改善・整備(日本提案)
 - ②インフラ・ロジスティック及びマトピバ地域開発(両国提案)
 - ③日本食の普及(日本提案)
 - ④伯の牛肉や穀物生産団体などから日本へプレゼン(ブラジル提案)
 - ⑤AGIR提言(発言者:松永委員長)外貨導入によるインフラ整備の促進

第二回日伯農業・食料対話に向けて

◆ 食品部会の対応

在ブラジル日本国大使館、CAMARA・政策対話委員会等と連携し、日伯農業・食料対話を通じた日伯関係強化と食品部会加盟会社の要請事項の実現に向け取り組み中。

食品部会からの提言事項(案)

1. Farm

- 食品加工に適した作物の検討
- 環境負荷の低く、品質に貢献できる技術

2. Harvest

- 収穫物の加工事業を通じた小規模農家への支援
- 残留農薬分析、農薬管理技術支援

3. Treatment

- 選別装置・センサーの技術(要請、支援)

4. Transportation …インフラ以外

- ICMS等加工工程での移動税免除による加工野菜事業の育成

5. Export/ Clients /Process

- 輸出許認可 簡素化
- 野菜加工技術の育成 / アレルゲン分析技術支援

食品部会からの提言事項(案)

1. Origin Country

- 日本の和牛の明確な定義づけ

2. Export

- 許認可のライセンス制、必要書類の簡素化による頻度高い商品流通

3. Custom

- 湾岸費用の軽減、通関検査などの迅速化による、製品価値の確保

4. Transportation

- ICMS減税措置の検討による、消費者への価値還元

5. Market

- 適切なブランド定義による、正しい製品認識とバラエティある市場形成

運輸サービス 部会

細谷 浩司 部会長

Departamento de Transportes e Serviços

Presidente: Koji Hosoya

2015年の回顧と2016年の展望

**景気低迷期だから見えてくるビジネス機会
～経済回復期はいつか？ 日系企業はどう備えるか？～**

運輸サービス部会 細谷 浩司

2016年2月25日

運輸サービス部会の対象業界

- **物流**
- **構内物流・機工・整備**
- **海運**
- **航空貨物**
- **航空旅客**
- **旅行、ホテル**
- **通信、IT**



物流業界

2015年回顧

- ・ 港湾関係ではペーパーワークを減らし省力化が進みつつある。
- ・ 10年間凍結していたサントス港湾諸料金が31.7%値上。(5月より)

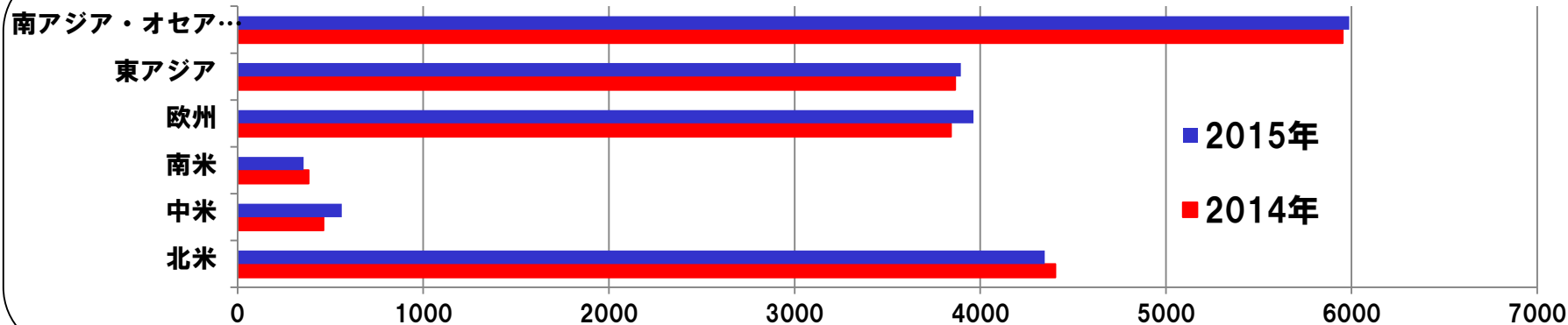
2016年展望

- ・ 税関スト継続により審査は部分的に停滞。
- ・ 梱包木材規制強化等、輸入通関は審査、検査が厳しくなると予測。
- ・ レアル安からくる輸出の活性化に期待。
- ・ 引越の荷動きを見る限り、日本人駐在員数は減と予測。

日本発 各地域向け船便引越件数動向

(単位 発送件数)

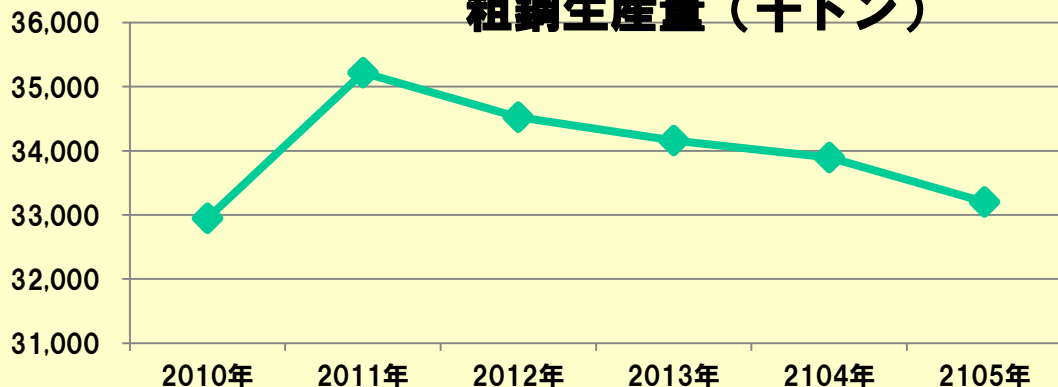
資料提供：日通



鉄鋼業界内：機工・整備・構内物流

2015年回顧

粗鋼生産量（千トン）



- 鉄鋼業界はコスト維持の為に給与インフレ調整率を公定インフレ率の0%から60%程度の調整率で交渉中。

2016年展望

- 高炉メーカーの資金繰り悪化に伴い、今後さらに厳しい状況が継続する事は確実、経営環境もさらに悪化、最低4年間はこの状態は継続するとの前提で、その先を見た経営体制の確立が勝負となると考えている。

2015年国内生産量は前年比▲1.9% 33.2百万トン 生産能力の66.4%に留まる。

2015年国内販売は前年対比▲16.1% 18.2百万トン、2015年12月単月で前年比▲26.1%。

2015年国内消費量は前年比▲16.7% 21.3百万トン、2015年12月単月で前年比▲28.2%。

熱延コイル	Jan	Dez	価格低下率%
輸入FOB価格	US\$531	US\$285	-46%
ブラジル工場FOB価格	US\$832	US\$410	-51%



世界粗鋼生産量ランキング（千トン）

Group	Jan~Nov		15/14	2015年 シェアー
	2015	2014	%	
中国	738,380	754,990	-2.2%	50.2%
E.U.(28)	154,482	156,845	-1.5%	10.5%
日本	96,564	101,667	-5.3%	6.6%
C.E.I.	92,883	97,273	-4.7%	6.3%
米国	73,138	80,964	-10.7%	5.0%
Brasil	30,784	31,274	-1.6%	2.1%
その他	285,172	290,136	-1.7%	19.4%
Total	1,471,403	1,513,149	-2.8%	100%

海運業界

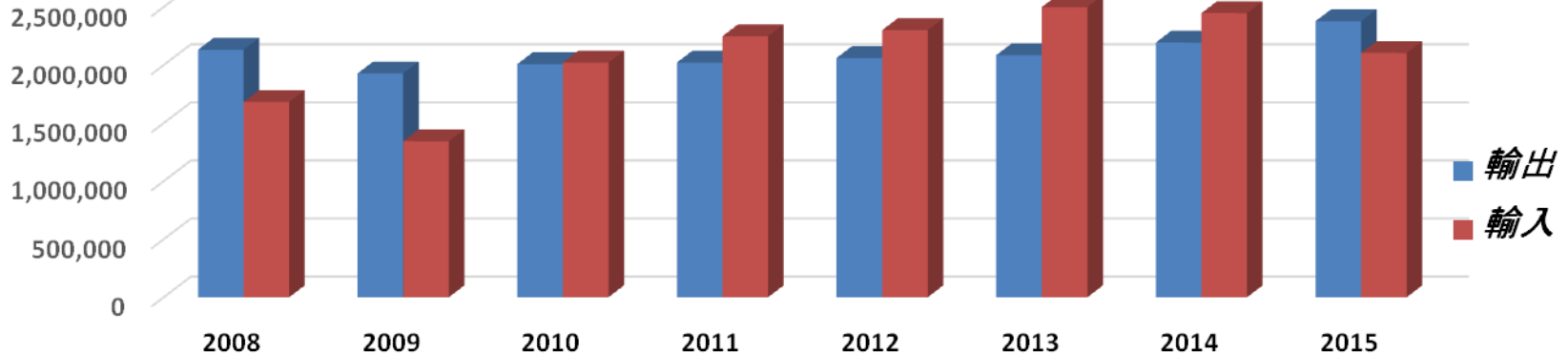
2015年回顧

- ・ コンテナ船はブラジル経済不調・レアル安の影響により前年同期比にて**輸入が14%減少、輸出は8%の増加、輸出入合計の全体の物量では3.4%の減少となった。**
ブラジル全体では2009年以来6年ぶりに輸出量が輸入量を超えた。
輸入貨物量減少の為、特にアジア-南米東岸トレードの運賃レベルは記録的な低レベルまで下落した。
- ・ 不定期船は中国向けの鉄鉱石輸出量が前年比で約20%増加するも、大型鉄鉱石運搬船ヴァーレマックス（40万トン船型）の稼働率上昇もあり、船腹供給量大幅超過の状態となりケーブサイズ船の傭船料市況は歴史的低水準まで下落。

2016年展望

- ・ コンテナ船はレアル安とブラジル経済不調の影響を受けて輸入の停滞傾向は昨年に引続き暫し続く見込み。レアル安は輸出には追い風だが、中国を始めとして輸入国側の経済減速による買い付け量の減少が輸出量の伸びに影響を与える可能性もある。
- ・ 不定期船は運賃市況が運航コストを大幅に下回る水準にある為に係船される船腹が増加傾向にある。一方で今年新たに竣工する新造船も控えており、マーケットがどの程度反発するかは不透明である。
- ・ 需要減と資金難により、新たな港湾整備や拡張計画の進展が遅れる可能性がある。

ブラジル 外航コンテナ貨物量推移 (単位: TEU)



航空貨物業界

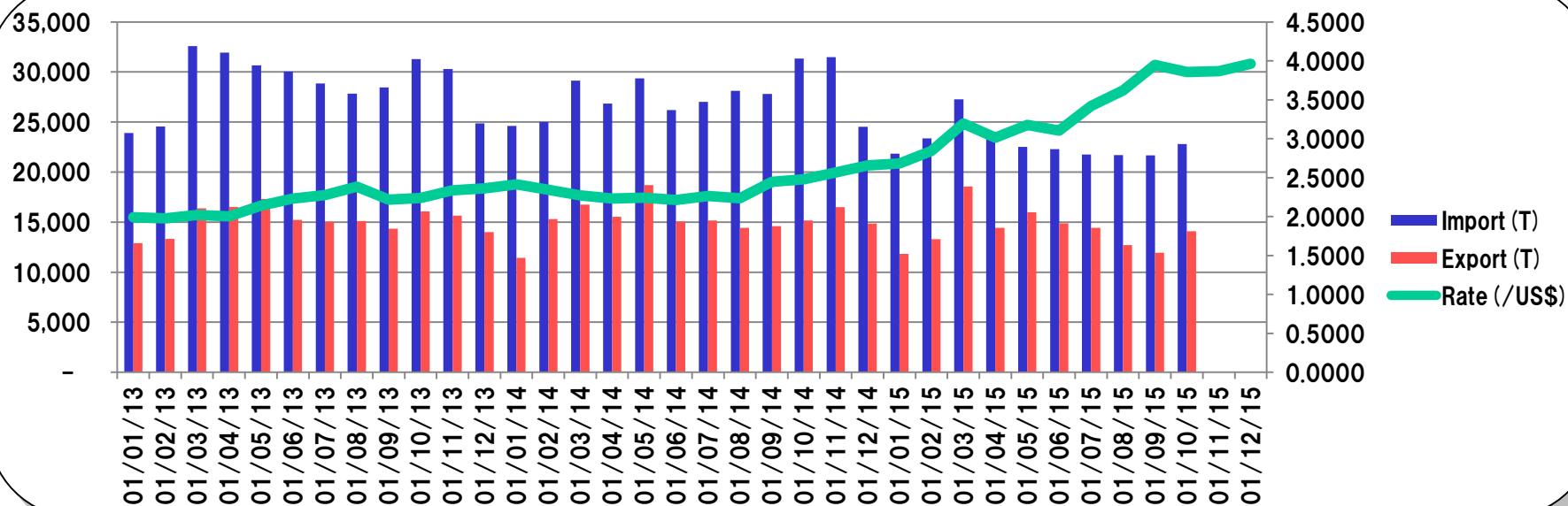
2015年回顧

- ・ 主要3空港での比較(GRU,VCP,Manaus)※1-10月実績比較
 輸入量は対前年同期比 ▲ 16.9 %
 輸出量は対前年同期比 ▲ 5.9 %

2016年展望

- ・ レアル安で、新たな輸出商品・産業が出てくることを期待。
- ・ オリンピック商戦に呼応した航空貨物需要に期待。

GRU,VCP,MAO 3 空港 航空貨物輸出入取扱数量&為替動向 (単位: トン、対US\$)



航空旅客業界

2015年回顧

- 国内線は、年計で見ると座席拡大に応じて旅客増。
有償旅客キロ＝対前年＋1.1%、提供座席キロ＝同＋1.0%、利用率＝0.1pt向上。
下期のみではブラジル景気悪化影響で前年割れ。
- 国際線は、ブラジル航空会社計で、引き続き旅客が10%以上伸長。
有償旅客キロ＝対前年＋13.8%、提供座席キロ＝同＋15.3%、利用率＝▲1.1pt
- ブラジル経済伸び悩みの影響で、日本へのデカセギ需要が徐々に増加。

2016年展望

- 国内線は、TAM航空やGOL航空の業績悪化に伴い、低需要路線を減便・運休する可能性が高く、2015年に比べて旅客数は横這い、もしくは低減すると想定。
- 国際線は、オリンピック・パラリンピックの開催に伴って海外からの旅行者は増えるが、ブラジル経済の低迷と為替の影響(レアル安)で、ブラジルからの出国者数は減少と予想。

特記・周知事項

- 新規就航 2015年 6月 全日空 成田⇄ヒューストン線
2015年 11月 日本航空 成田⇄ダラス線
※米経由日本行きの乗継空港の選択肢が増。
- サンパウロ国際空港のターミナル・ゲート番号の名称が変更。
ターミナル IBT4⇒T1、IBT1・2⇒T2、T3⇒変更なし
ゲート 番号が3桁(ターミナル番号+通し番号)
- 需給調整やコスト抑制による運休・減便、疫病(ジカ熱)による旅客流動の鈍化を懸念。

旅行・ホテル業界

2015年回顧

	2014年第1～3四半期		2015年第1～3四半期		比較	
	売上高（千）	発券枚数	売上高（千）	発券枚数	売上高	発券枚数
国内線航空券	R\$4,011,351	6,824,282	R\$4,290,564	7,715,175	+6.96%	+13.05%
国際線航空券	R\$2,860,663	965,106	R\$3,521,515	1,016,453	+23.10%	+5.32%
ホテル	R\$1,770,024		R\$1,682,929		-4.92%	

2016年展望

プラス要因

- オリンピック・パラリンピックの開催 / ■オリンピック・パラリンピック期間中の観光査証免除
- ドル高レアル安（海外からの旅行者にとって）

マイナス要因

- デング熱、ジカ熱などの感染症の流行/■景気低迷による治安の悪化/■ドル高レアル安（国内から海外への旅行者にとって）
- 旅行費用の海外送金額に対する25%の源泉徴収所得税（IRRF）の課税

（展望）ブラジルに来る海外旅行者の増加と海外旅行をあきらめ国内旅行にシフトするブラジル人の増加により、国内旅行はホテル、航空業界とも潤うことが見込まれる。

一方でブラジル人の海外旅行者は激減することが見込まれる。

トピックス

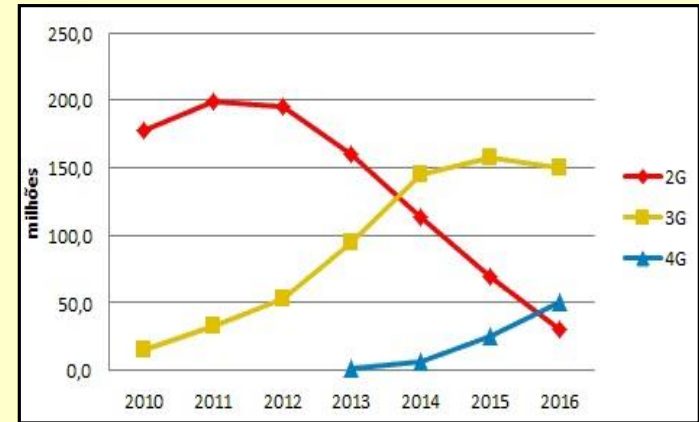
- 日伯間で、有効期限が最大3年で一回の滞在が最大90日のマルチ観光査証を相互に発給することを合意。ビザ免除に一步進んだ。

通信業界（携帯電話・モバイル）

2015年回顧

- 年々増加傾向にあった携帯電話契約数は、ブラジル経済の減速により8%減。
- 携帯電話の販売台数も景気後退の影響を大きく受け、特にフィーチャフォンの落ち込みが大きく、全体として約2割減。しかしながら、スマートフォン販売台数は堅調で、全体比率の9割近くになっている。
- 急速に2Gから3G/4Gへ移行が進んでいる。

	2013年	2014年	2015年
携帯電話契約数 [万]	27,110	28,073	25,779
普及率 [%]	134	138	125
プリペイド比率 [%]	78.0	75.8	71.5
スマートフォン販売台数比率 [%]	52	71	88



2016年展望と課題

- 2016年についても、景気低迷がしばらく続くとの予想から、携帯電話の加入者数および販売台数が上向き可能性は低い。ただ4Gに関しては、スマートフォンの販売増および2Gからの移行も手伝って今後も順調に契約数は増加する見通し。
- IoT/M2M関連のサービスの普及およびニーズの高まりに伴い、M2M専用のモバイル回線の契約数も増加する見通し。

通信業界（テレコム・データセンター）

2015年回顧

- インターネットユーザ数：1億1765万ユーザ（**世界第4位**）
- ブロードバンドのマーケットシェア：NET32%、Vivo29%、OI25%
- ブロードバンドアクセス数：2557万（2015年12月） 2014年同時期比較で9.4%UP
- インターネット普及率は約58%（**世界第81位**）
- Windows10のアップグレードなどアプリケーションの提供が従来のメディアからクラウド型へシフト

2016年展望と課題

- 通信業界再編が活発化、通信インフラ基盤の安定化、低廉化が期待され、今後、FTTH、FTTOが普及、利用が増加する見込み
- コモディティ化したICT要素（メール、サーバー等）はより柔軟でコスト効果の高いクラウド型（データセンター）へシフトが進むが、通信インフラ基盤の脆弱性がネック
- インターネットがビジネス基盤化する中、大都市中心部以外（郊外の工業団地等）で高速化/安定化/低価格化が求められている

*技術者不足、人経費の高騰→IT専門家の確保の困難が慢性化

IT業界（ハード、ソフト、サービス、インフラ）

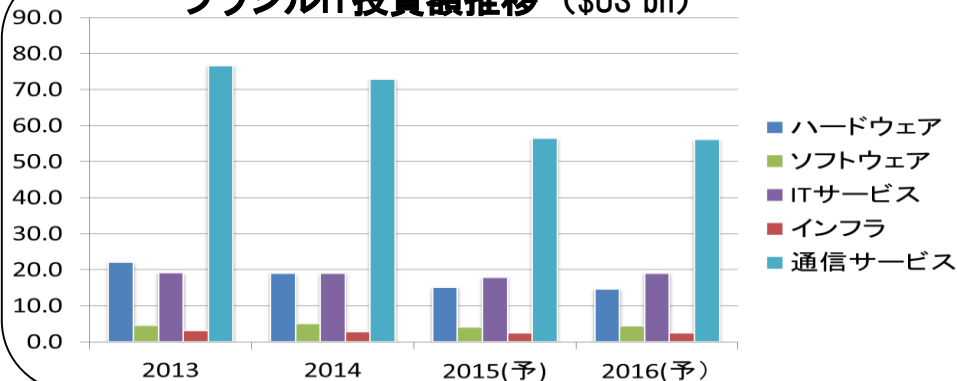
2015年回顧

- IT投資予想額は、ガートナーによるとUS\$125bnからUS\$95.8bnに下方修正、前年比5%増(IDC)。
- ハードウェアはレアル安もあり、輸入価格高騰の影響等により、販売低迷。
- ソフトウェアは、Windows Server 2003のサポート終了による買い替え需要、Windows 10も登場。
- ITサービスは、景気低迷であるが必要性は増大。
- 新規日本企業進出案件は減少、顧客からのコスト削減要求や既存案件の規模縮小要求は増加。
- 人件費等が年々増大する環境下、作業効率を向上させるための基幹システムの必要性が増大。

2016年展望

- IT投資予想額は、ガートナーによると前年比0.6%増のUS\$96.4bn、IDCによると前年比2.6%増。
- ハードウェア(前年比3.5%減)は、部品の大半が輸入品のため、レアル安がコスト増に繋がり、消費者へ転換した結果、買い控えが発生すると予想される。
- ソフトウェア(前年比5.4%増)やITサービス(前年比6.4%増)は、投資の先送りが見られる一方で、コスト抑制に寄与するSaaSやクラウドサービス、IoT等の先進的なサービス需要は引続き見込まれる。
- ITインフラ(前年比2.4%増)は、ITサービスに連動した需要が期待される。
- 人の動きが活性化し、モバイル需要が継続増大する傾向にある。また、3Dプリンターの浸透にも期待。
- 引き続き、優秀なIT人材の育成やIT専門家の確保、人件費の高騰への対応は大きな課題。
- 競争力強化に向けて、Big Data等を活用した情報の分析が基礎的な鍵となる。

ブラジルIT投資額推移 (\$US bn)



出所: Gartner

	2013	2014	2015(予)	2016(予)
ハードウェア	22.0	18.9	15.1	14.6
ソフトウェア	4.6	5.0	4.1	4.3
ITサービス	19.1	18.9	17.9	19.0
インフラ	3.0	2.8	2.3	2.4
通信サービス	76.6	72.8	56.4	56.1
全体	125.2	118.5	95.8	96.4

景気低迷期だから見えてくるビジネス機会 ～経済回復期はいつか？ 日系企業はどう備えるか？～

<経済回復期はいつか>

- ・ 今年1年は我慢の年。/ 2017年以降の景気回復に期待。
- ・ 回復は2020年と考えられる。

<どう備えるか>

- ・ コスト削減や業務効率化に寄与するサービスに成長を期待。
- 回復までの期間に、マーケットで余剰となっている優秀な人材の発掘、既存人材、新規人材の教育、トレーニングを重点的に行い将来経済回復時に向けての体制の再構築を行う。
- ・ この状態を乗り切る為の新規事業領域の模索を継続的に行う事が必要。
- ・ ドル高騰により国内観光のチャンスも見出せるが、観光シーズン外のパッケージ企画に関して大きな想像力及び革新、販売促進策、製品、サービス及びプロセス等の開発が必要。
- ・ ブラジル及び欧米系の航空会社との協業事業を強化し、ブラジル＝日本間の路線網の拡大と乗継ぎの利便性向上を促進する。

ご清聴有難う御座いました。



運輸サービス部会一同

(資料) 航空旅客

(参考) 利用率について

A → B 路線の距離 10 km

A → C 路線の距離 100 km

項目	A → B	A → C	計
旅客数 (人)	80	50	130
座席数 (席)	100	100	200
占有率 (%)	80.0	50.0	65.0
RPK (旅客キロ)	800	5,000	5,800
ASK (座席キロ)	1,000	10,000	11,000
利用率 (%)	80.0	50.0	52.7

- 単体の路線では、占有率と利用率は同じ。
- 但し、路線距離が異なる複数路線を合算して利用率を示す場合は、旅客数と座席数のそれぞれに距離を乗じて算出する。

(資料) 航空旅客

参考：ブラジルとの2国間の輸送実績（2015年版、年間10万人以上）

順位	路線	有償旅客数 (人)	一日当たり (人)
1	サンパウロ＝ブエノスアイレス	1,570,707	4,303
2	サンパウロ＝マイアミ	1,310,697	3,591
3	サンパウロ＝サンティアゴ	1,064,475	2,916
4	サンパウロ＝ニューヨーク	764,282	2,094
5	サンパウロ＝マドリード	676,610	1,854
6	リオデジャネイロ＝ブエノスアイレス	577,120	1,581
7	サンパウロ＝パリ	573,153	1,570
8	サンパウロ＝オランダ	503,288	1,379
9	サンパウロ＝モンテビデオ	442,887	1,213
10	サンパウロ＝ロンドン	439,485	1,204
11	サンパウロ＝フランクフルト	432,833	1,186
12	サンパウロ＝ボゴタ	396,280	1,086
13	サンパウロ＝パナマ	394,539	1,081
14	サンパウロ＝リマ	366,037	1,003
15	リオデジャネイロ＝マイアミ	341,753	936
16	リオデジャネイロ＝パリ	329,370	902
17	リオデジャネイロ＝サンティアゴ	307,146	841
18	サンパウロ＝アスンシオン	293,678	805
19	サンパウロ＝リスボン	286,499	785
20	サンパウロ＝メキシコシティ	282,822	775
21	リオデジャネイロ＝ニューヨーク	245,706	673
22	サンパウロ＝アムステルダム	239,358	656
23	リオデジャネイロ＝リスボン	229,998	630
24	サンパウロ＝アトランタ	226,423	620

<トピックス>

- 米国との2国間旅客数が圧倒的に多く、全体の25.1%を占めている。
- 歴史的背景(含 移民政策)から、欧州諸国との旅客流動は大きい。

データ元：ANAC

(資料) 航空旅客

参考：国際線路線別実績（2015年版、年間20万人以上）

順位	国名 (ブラジルとの2国間)	有償旅客数 (人)	一日当たり (人)	シェア (%)
1	アメリカ	5,379,356	14,738	25.1
2	アルゼンチン	3,067,647	8,405	14.3
3	ポルトガル	1,419,333	3,889	6.6
4	チリ	1,408,546	3,859	6.6
5	スペイン	975,694	2,673	4.5
6	フランス	970,423	2,659	4.5
7	パナマ	925,300	2,535	4.3
8	ドイツ	844,153	2,313	3.9
9	ウルグアイ	618,583	1,695	2.9
10	イギリス	594,153	1,628	2.8
11	ペルー	563,457	1,544	2.6
12	イタリア	502,446	1,377	2.3
13	コロンビア	477,723	1,309	2.2
14	アラブ首長国連邦	426,374	1,168	2.0
15	オランダ	398,910	1,093	1.9
16	メキシコ	352,659	966	1.6
17	パラグアイ	304,322	834	1.4
18	カナダ	205,932	564	1.0
19	南アフリカ	169,937	466	0.8
20	ドミニカ共和国	169,450	464	0.8
21	スイス	160,256	439	0.7
22	ボリビア	148,729	407	0.7
23	カタール	130,150	357	0.6
24	アンゴラ	101,735	279	0.5

<トピックス>

- サンパウロ=ブエノスアイレス間の旅客数は多く、年間約1,570千人を超える。
- 米国マイアミは非常に人気が高く、特に富裕層はマイアミのリゾートホテルで休日を過ごし、買物を楽しむ傾向にあり、利用旅客の大半が観光目的である。

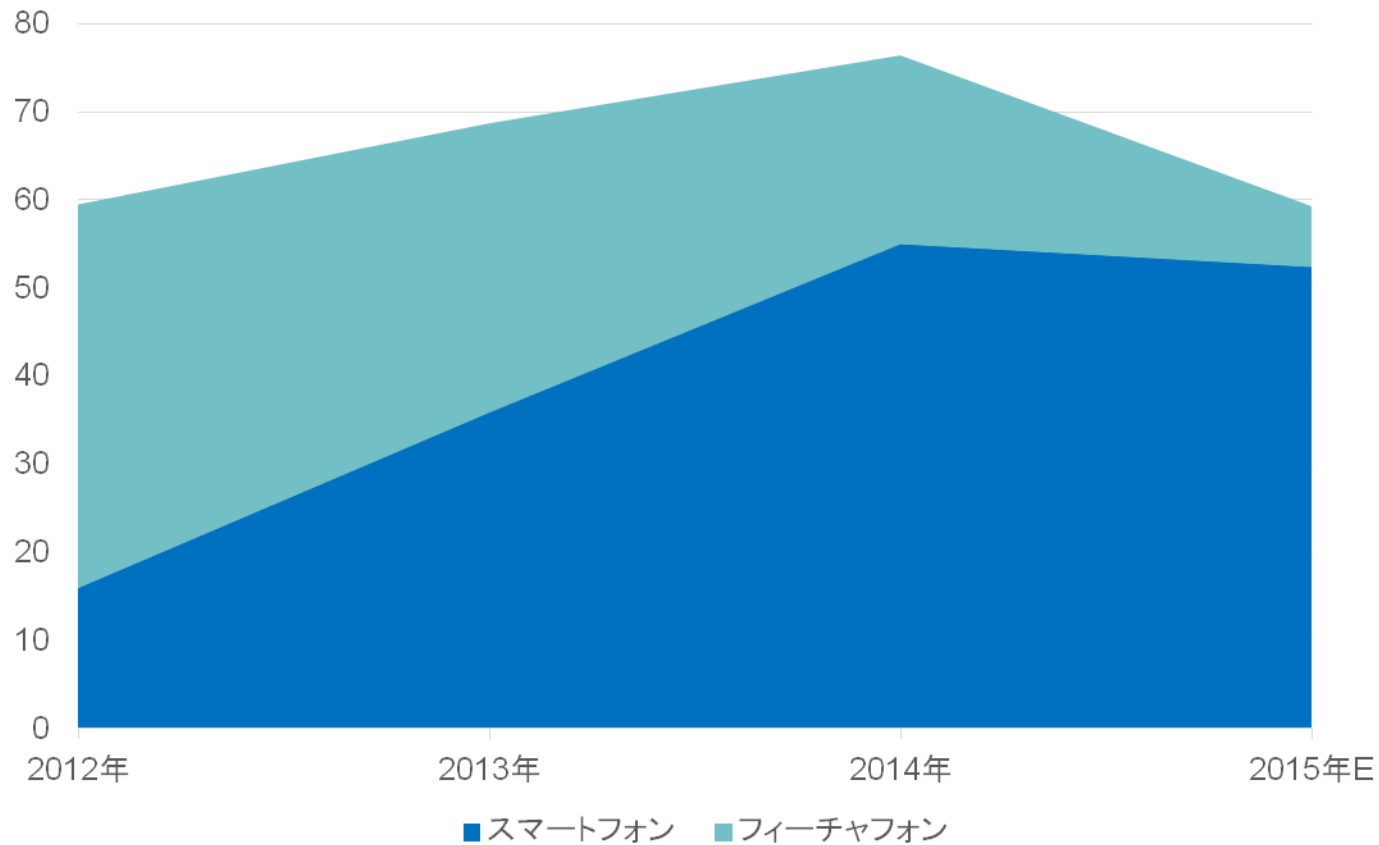
(注)

- サンパウロ … グアリュアリーヨス空港、ヴィラコッポス空港
- ブエノスアイレス … エセイサ空港、ホルヘ・ニューベリー空港
- マイアミ … マイアミ空港、フォートローダーデール空港
- ニューヨーク … JFK空港、ニューアーク空港

データ元：ANAC

(資料) ブラジルにおける携帯電話の販売台数の推移

(単位: 百万台)



(資料) 世界のインターネットユーザ数

インターネットユーザ数では、ブラジルは1億1700万ユーザで世界第4位、日本は次いで5位。

	国	2000年	2015年Q2
1 ^o	中国	22.500.000	674.000.000
2 ^o	インド	5.000.000	354.000.000
3 ^o	米国	95.354.000	280.742.532
4^o	ブラジル	5.000.000	117.653.652
5 ^o	日本	47.080.000	114.963.827
6 ^o	ロシア	3.100.000	103.147.691
7 ^o	ナイジェリア	200	92.699.924
8 ^o	インドネシア	2.000.000	73.000.000
9 ^o	ドイツ	24.000.000	71.727.551
10 ^o	英国	15.400.000	59.333.154
11 ^o	メキシコ	2.712.400	59.200.000
12 ^o	フランス	8.500.000	55.429.382

建設不動産 部会

藤井 健 部会長

Departamento de Construção e Imobiliária

Presidente: Takeshi Fujii

建設不動産部会

「2015年の回顧と2016年の展望」

副題: 景気低迷期だから見えてくるビジネス機会

～経済回復期はいつか？日系企業はどう備えるか？～

1. 前期の回顧と今期の展望
2. 建設業界
3. 不動産業界
4. プレハブ、サッシ、大型発電機業界
5. 特殊技術

1. 上期の回顧と通期の展望

1-1) アンケート結果

2015年の実績

2016年の展望

ゼネ
コン

前期順調、後期失速の受注
大変厳しい年となった
非日系企業の受注競争が激化

非日系顧客の取込
価格競争力の推進

不動産

事務所地代が下落、工場用地下止まりか
マンション価格が下落開始

賃貸客の減少
付加価値をつけて賃
貸提供

プレハブ
サッシ
発電機

日系企業の建設投資の延期や凍結が相次
非日系はブロックや合板との価格競争激化
受注は厳しいが、施工はスムーズ
失業率UP→マンション解約40%
電力料金高騰により設備稼働増

プレハブレンタル開始
マンション着工件数低
下、集合住宅市場は
停滞する
業務用ビルや工場に
需要有

特殊
技術

財政削減でSABESP等社会資本整備減
RJオリンピック関連急増

問題工事救済
工法の宣伝

1-2) アンケート結果 日系・非日系比率

	日系企業	非日系企業
ゼネコンA	70	30
ゼネコンB	30	70
不動産	100	0
プレハブ	5	95
特殊技術	0	100

2. ゼネコン業界

活路目指して～ジャパンハウスで日本政府とコラボ（戸田建設）

2/25 プレイベント・一般向けセミナー（於：MASP、14時開始）

ジャパン・ハウス コンセプト映像放映

講演①「ジャパン・ハウスを通じて感じて欲しい、真の日本(仮)」：原氏

講演②「ジャパン・ハウス建築に込められた日本文化のエッセンス(仮)」：隈氏

パネルディスカッション 「ジャパン・ハウスの構想、今後の展望について(仮)」

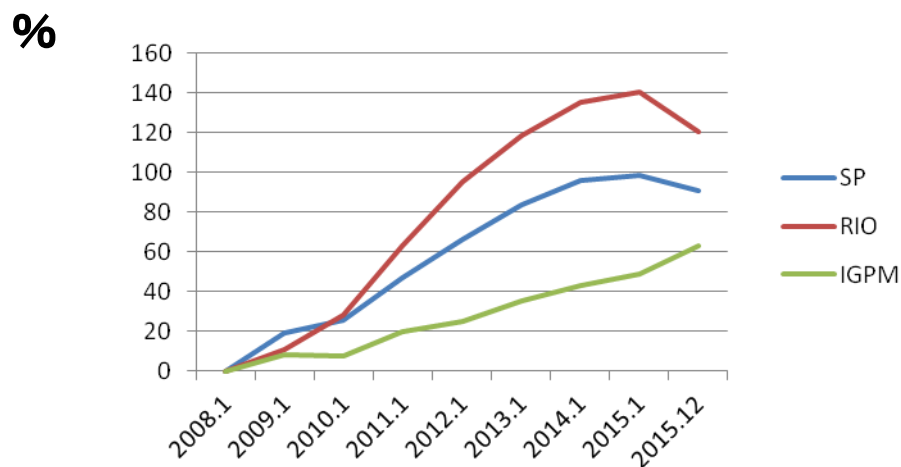


（ジャパン・ハウスの外観イメージ）

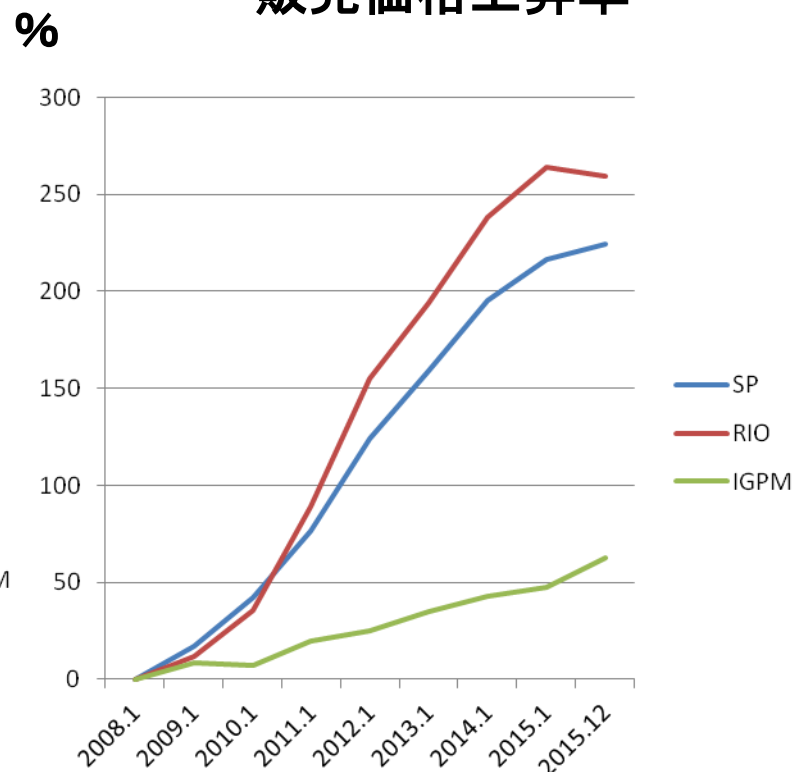
3. 不動産業界

3-1 賃貸マンション賃料と販売価格の推移と見通し（STARTS）

賃貸価格上昇率

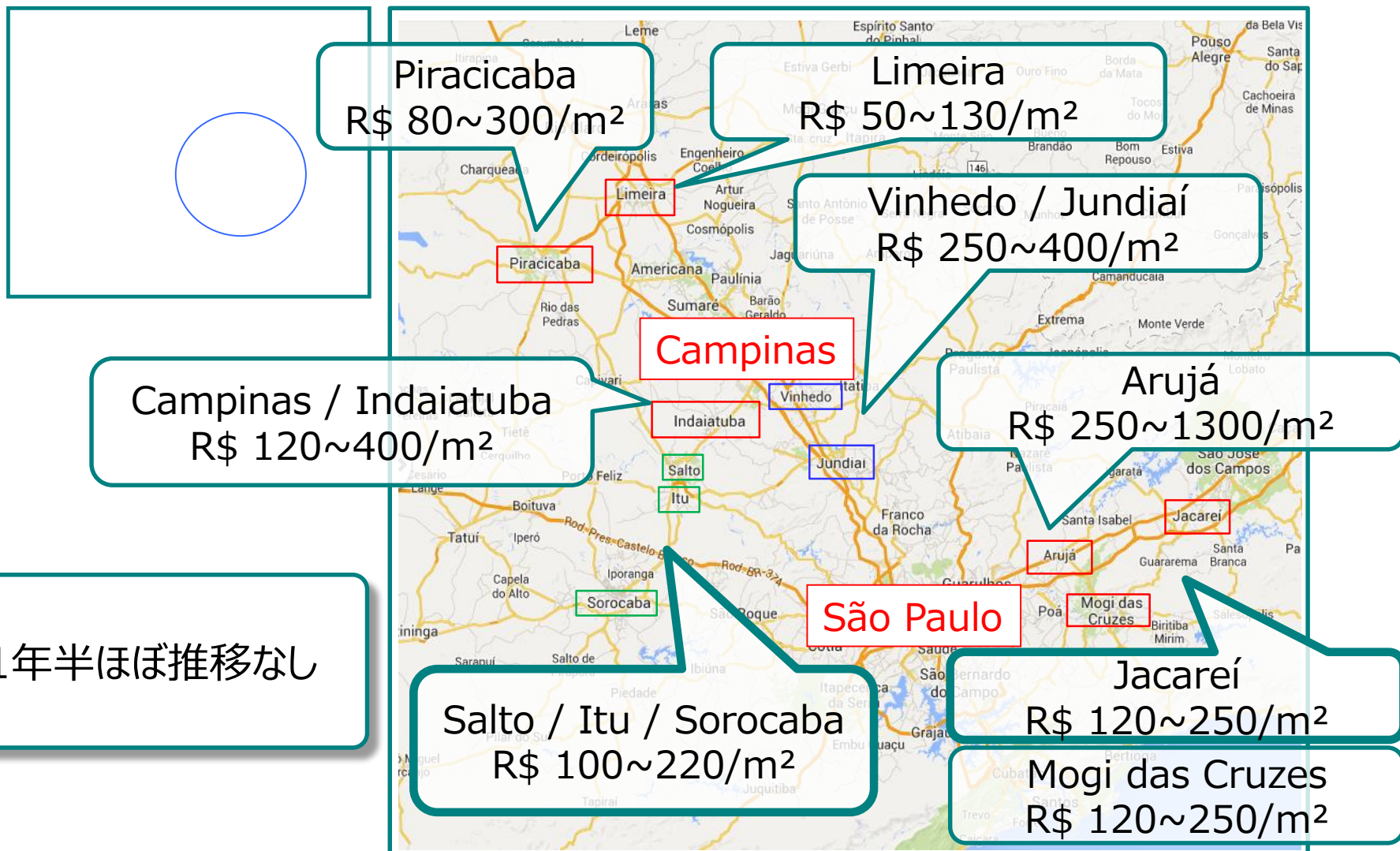


販売価格上昇率



不動産市場

サンパウロ近郊の工業用地価格（2016年1月）



4. プレハブ業界 (NAGAWA)

販売だけだったものから ⇒ 日本と同じ様にレンタル開始
オリンピック関連に出番がありそうである。
早い・安い・高品質・移設可能 等々

工場内での検査室



2週間で出来る本設建造物



5. 特殊技術

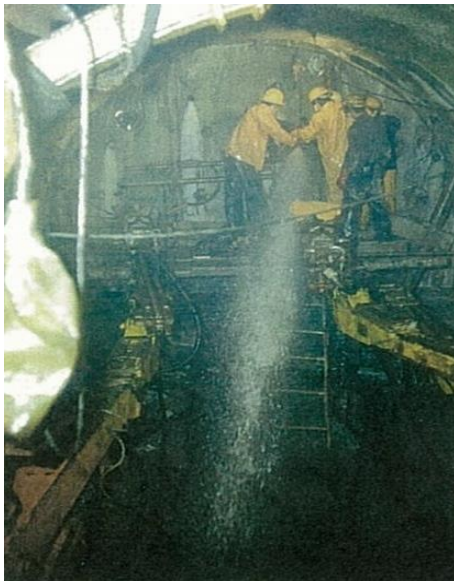
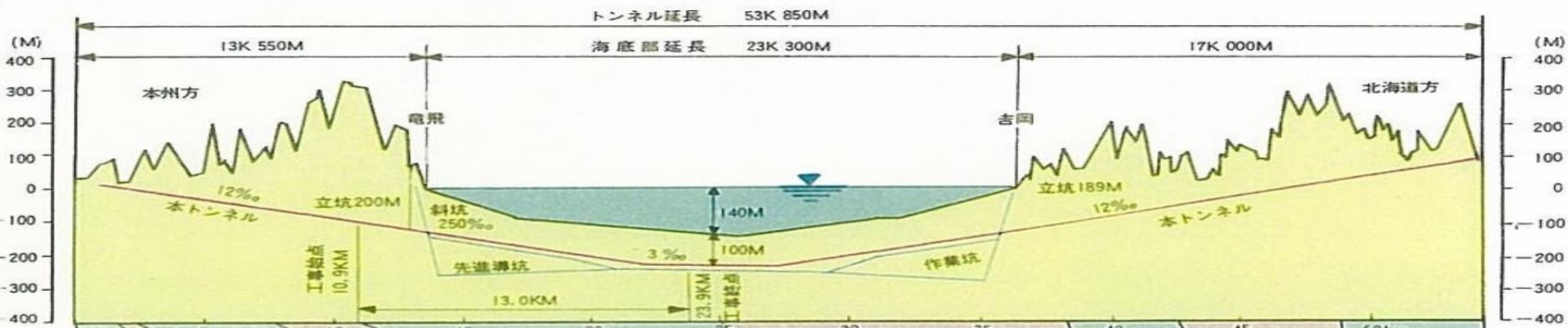
5-1) リオデジャネイロ地下鉄工事に貢献 (CGC)



5. 特殊技術

5-2 トンネル学会

12/1~2に開催されたトンネル学会で日本の止水技術を発表



5. 特殊技術

5-3 道路の陥没

サンタアマロ通りで発生した、陥没事故



- オリンピック関連の駆け込み需要に対応しているか？
- 工場用地価格が下げ止まりか？マンション価格はもう少しか？
- 欧州企業がBR企業を買い漁っている今、日本企業のM&Aがあるか？
- 失業率の上昇により、有能な人材が集まっているか？



不況の今を生き抜くために、多くのアンテナを立てているか。



ビジネスチャンスは待っていてもやってこない

人材を育成し、コストの低減を図り、生産性を上げ、攻めの営業を展開し、更なる**新分野を開拓するチャンスが今です。**

繊維 部会

浅川 哲 部会長

Departamento de Fiação e Tecelagem

Presidente: Satoshi Asakawa

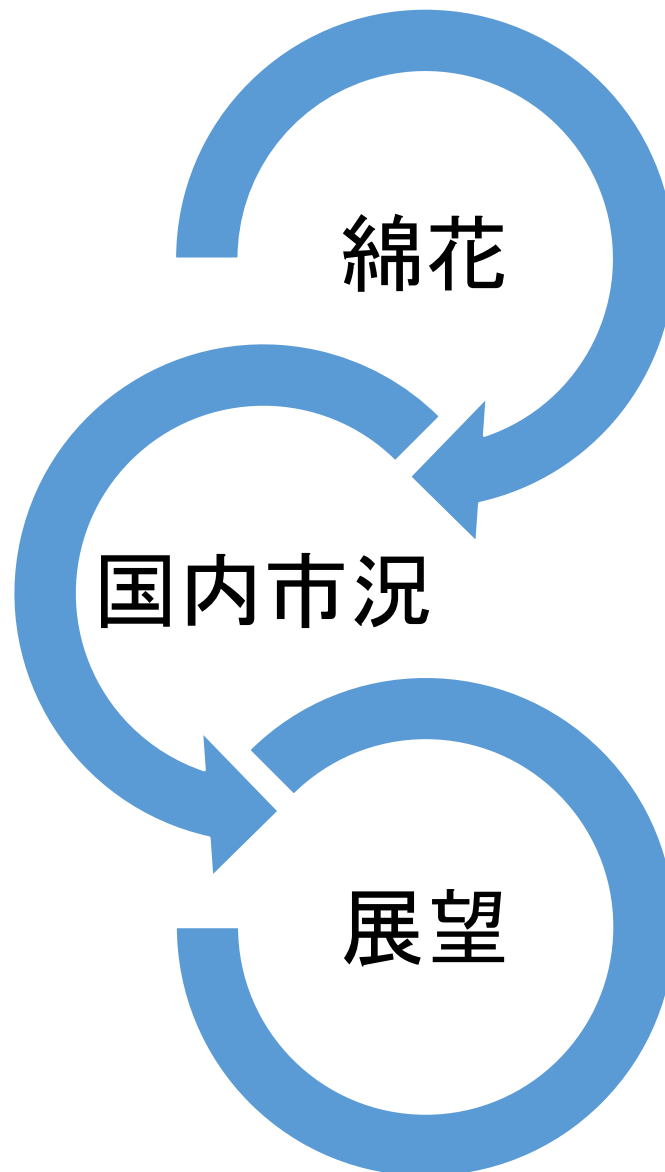


TÊXTIL

2015年の回顧と2016年の展望

景気低迷期だから見えてくるビジネス機会
～経済回復期はいつか？日系企業はどう備えるか？

繊維部会 2016年2月25日

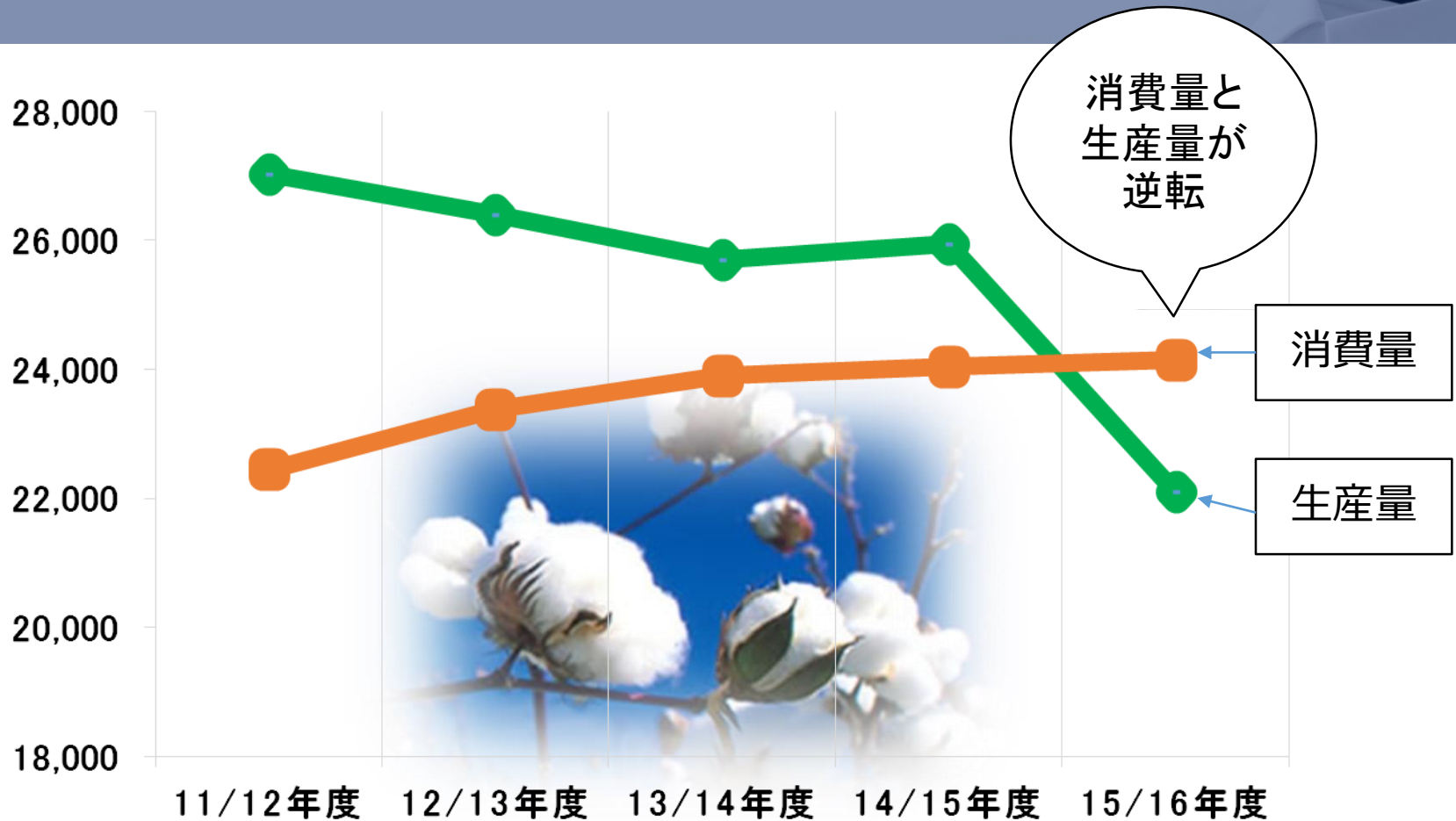


- ・ 世界の綿花 需給バランス
- ・ 世界の綿花 在庫と相場
- ・ ブラジルの綿花 為替と相場
- ・ 綿糸相場推移と損益分岐
- ・ 合成繊維マーケット
- ・ 繊維製品別輸入動向
- ・ 市況総括
- ・ 2016年展望
- ・ 2016年課題
- ・ 政府への提言



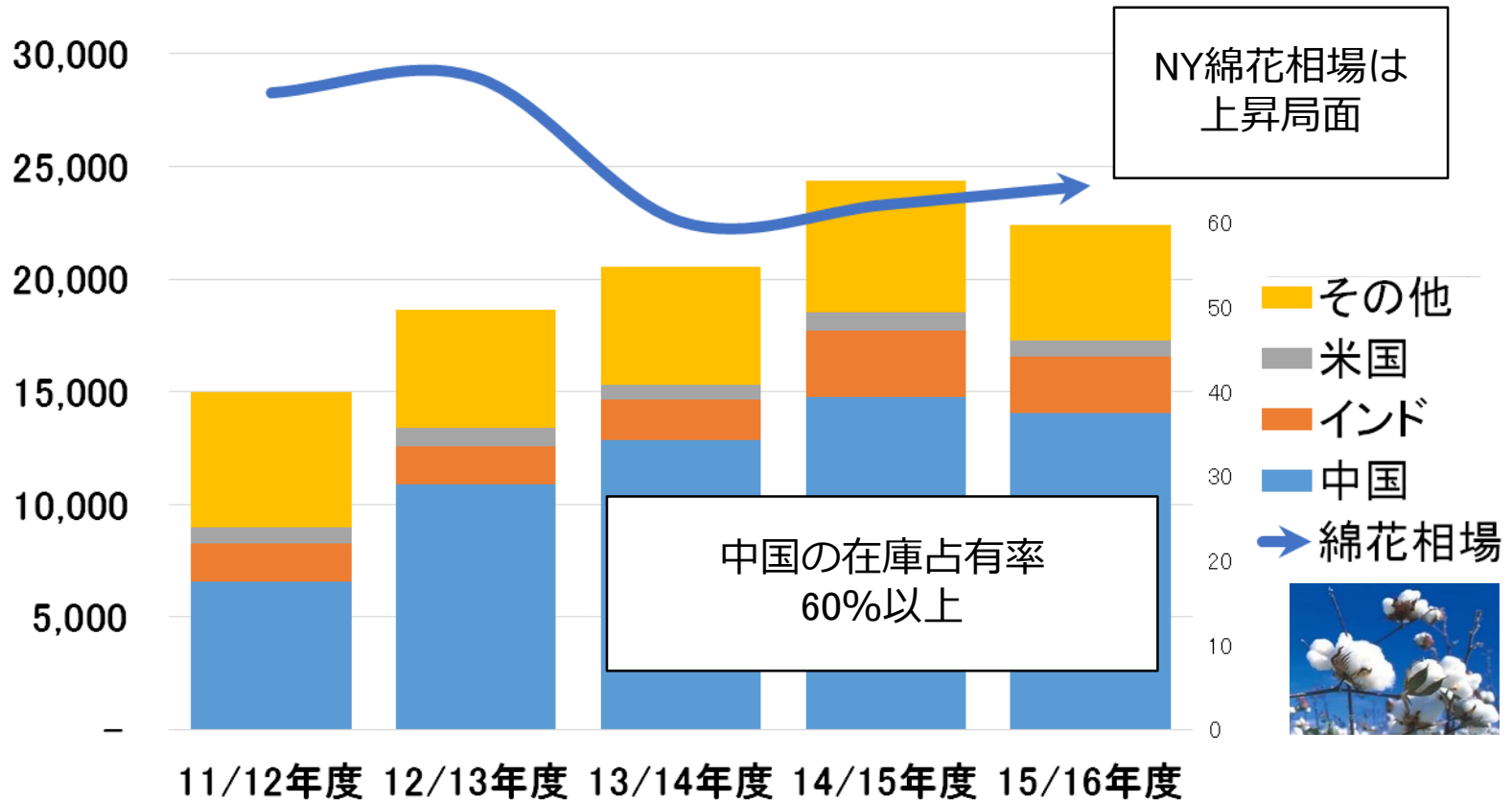
- ・ 世界の綿花 需給バランス
- ・ 世界の綿花 在庫と相場
- ・ ブラジルの綿花 為替と相場
- ・ 綿糸相場推移と損益分岐
- ・ 合成繊維マーケット
- ・ 繊維製品別輸入動向
- ・ 市況総括
- ・ 2016年展望
- ・ 2016年課題
- ・ 政府への提言

世界の綿花 需給バランス



※世界綿花年度は8月1日から翌年7月31日まで 米国農務省発表 単位：千トン

■ 15/16年度は綿花主要産国(中国、インド、米国)がそろって減産となり、6年ぶりに消費量が生産量を上回る見通し。

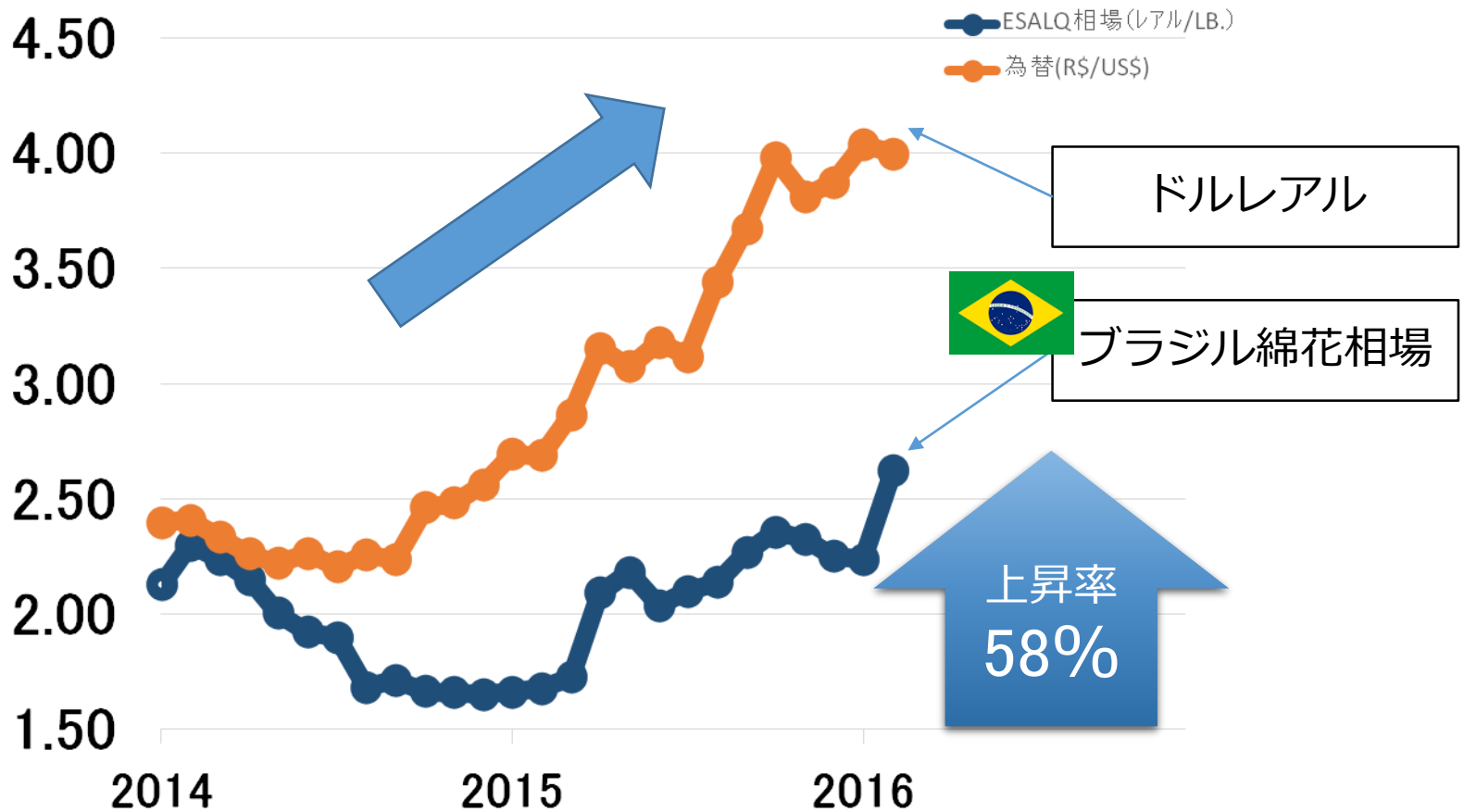


※世界綿花年度は8月1日から翌年7月31日まで 米国農務省発表 単位：千トン

- 世界の季末在庫減少に伴いNY綿花相場(セント/lb)は上昇局面。
- 中国の在庫占有率は60%以上と依然高く、相場に影響を及ぼす懸念がある。

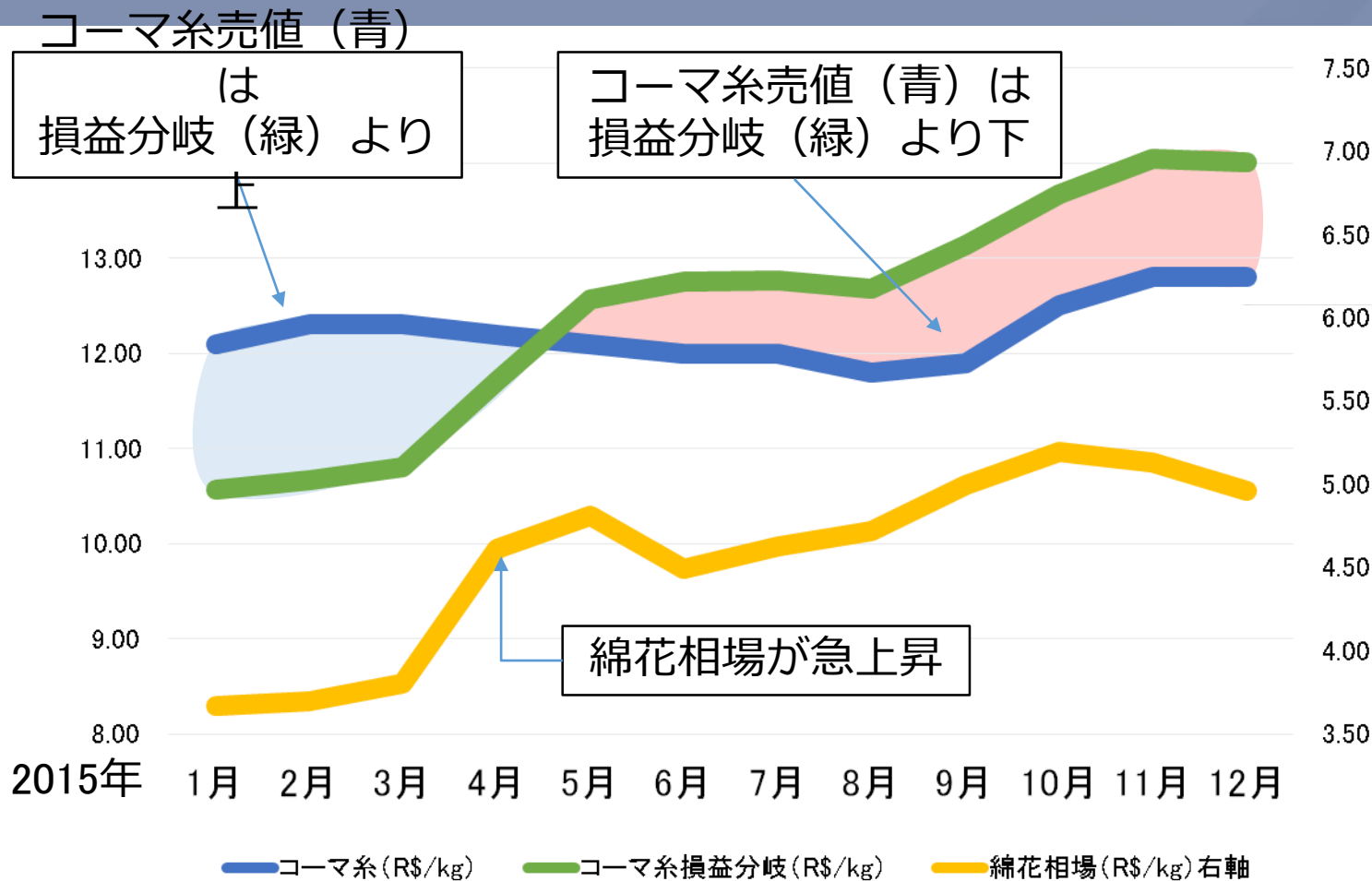


- ・ 世界の綿花 需給バランス
- ・ 世界の綿花 在庫と相場
- ・ ブラジルの綿花 為替と相場
- ・ 綿糸相場推移と損益分岐
- ・ 合成繊維マーケット
- ・ 繊維製品別輸入動向
- ・ 市況総括
- ・ 2016年展望
- ・ 2016年課題
- ・ 政府への提言



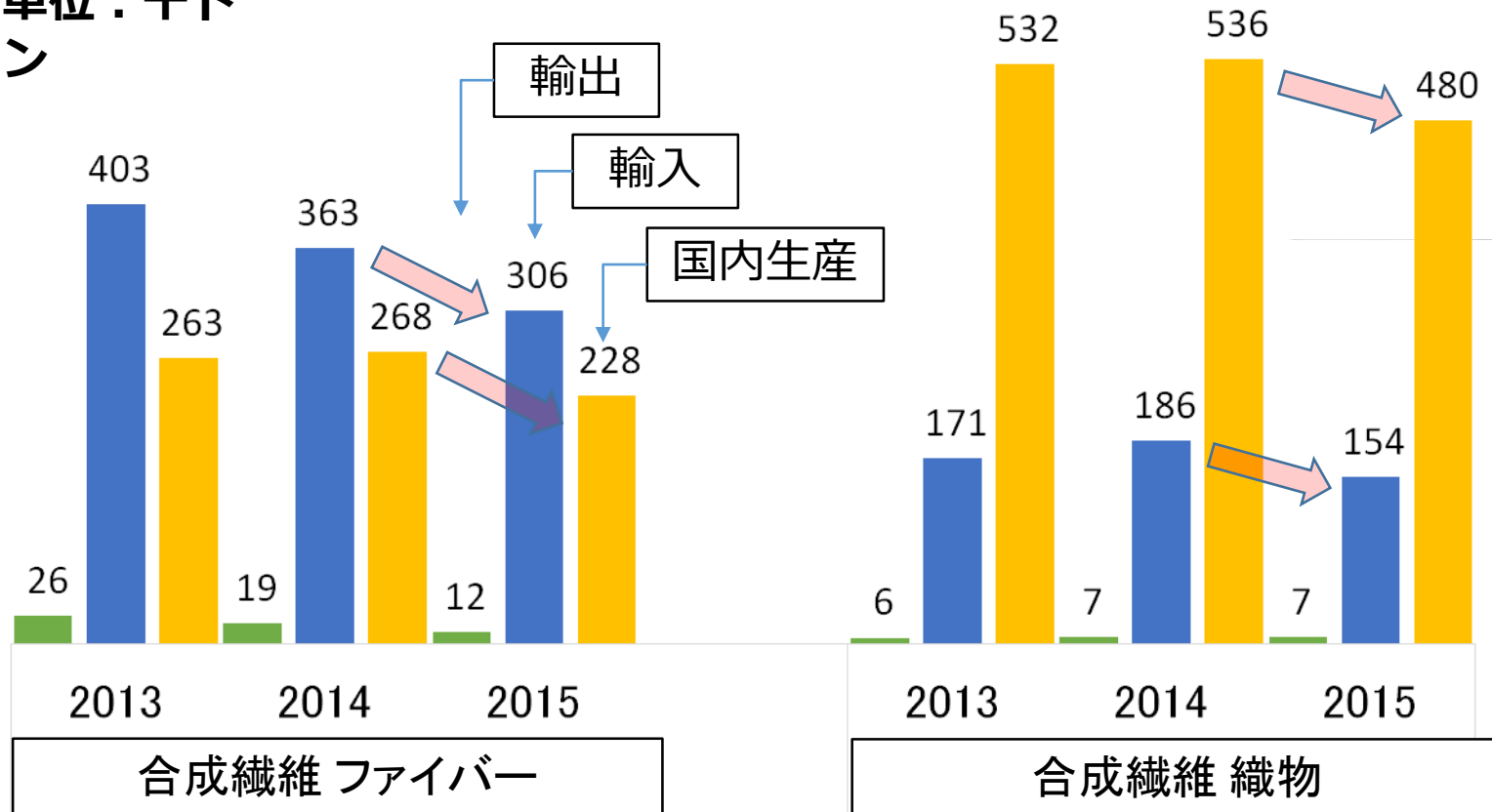
■ レアル安により綿花農家が収益性の高い輸出を優先した影響で国内綿花相場は上昇傾向を強めている。

綿糸相場推移と損益分岐



- 4月に国内綿花相場が急上昇した。消費不振から小売、アパレル、生地メーカーの在庫増で、綿糸相場は上がり探算悪化。
- レアル安による国内生産回帰も期待はずれ。
- 綿糸輸出が可能なレベルの為替水準(1ドル=4レアル)になった。

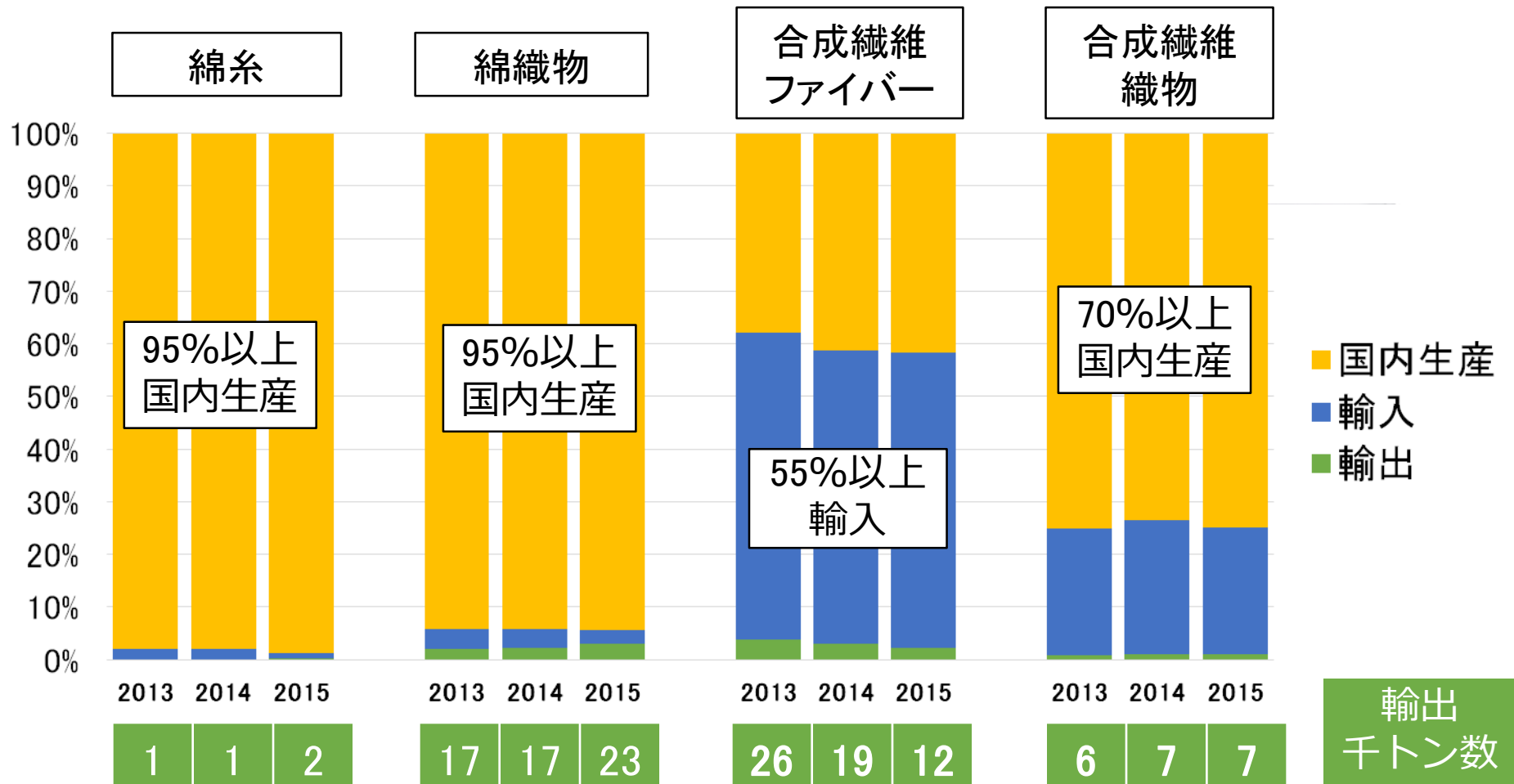
単位：千トン



※合成繊維はポリエステル、ナイロン、アクリル、レーヨン他

■消費不振により輸入・生産とも減少。実需は昨年対比20%減と推察される。期待の輸出は近隣諸国の経済不振と競争力の無さから微増に止まる。



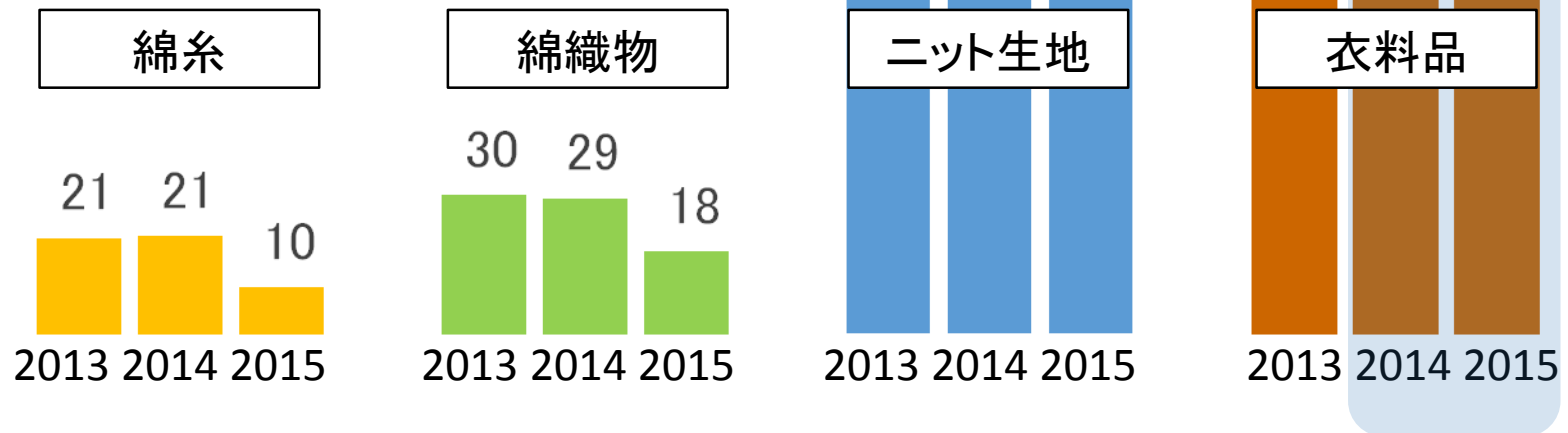


■ 綿糸、綿織物は圧倒的に国内生産。レアル安で輸出は増加。

■ 合成繊維ファイバーは輸入に依存。

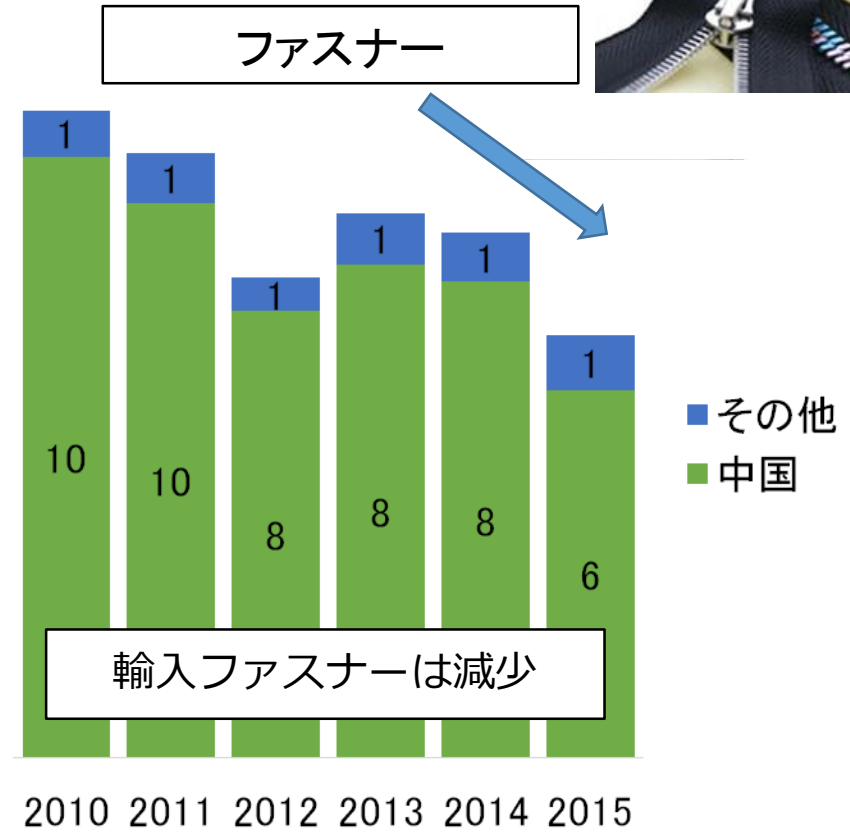
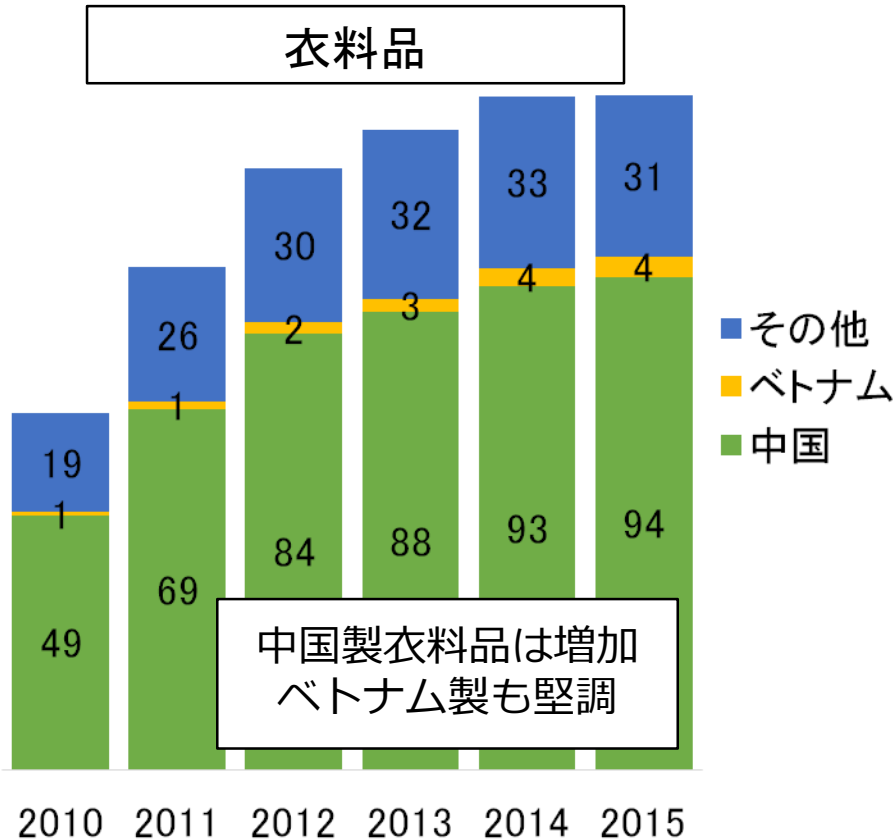
単位：千トン

レアル安で輸入が減る中、
衣料品だけは横ばい



■ ドル高レアル安を受け、衣料品を除き輸入トン数は減少。
2016年から総じて輸入は減少か？

単位：千ト
ン



- 金額ベースでは衣料品は昨年対比7%減少。
- 輸入ジーンズ増加の影響で中国製ファスナーは2年連続減少

綿花



レアル安で輸出採算向上と国内相場上昇。一部綿花産地は天候不順による生産性低下で厳しい状況。

テキスタイル



消費の冷え込みにより昨年比14.5%の生産減。在庫調整も進まず、年末には20日以上の子団休暇実施。

小売全体



急激な売上ダウンで大苦戦、下期は最低限の仕入で在庫調整。クリスマスセールを前倒し。

➤ アパレル



衣料品売上減少に伴い昨年比10%の生産減と10万人の就労者減。

➤ ジーンズ



高い在庫水準が継続。量販店はモデル数を増やしながらかも生産を抑え、セールを行いながら在庫調整。

➤ 婦人服

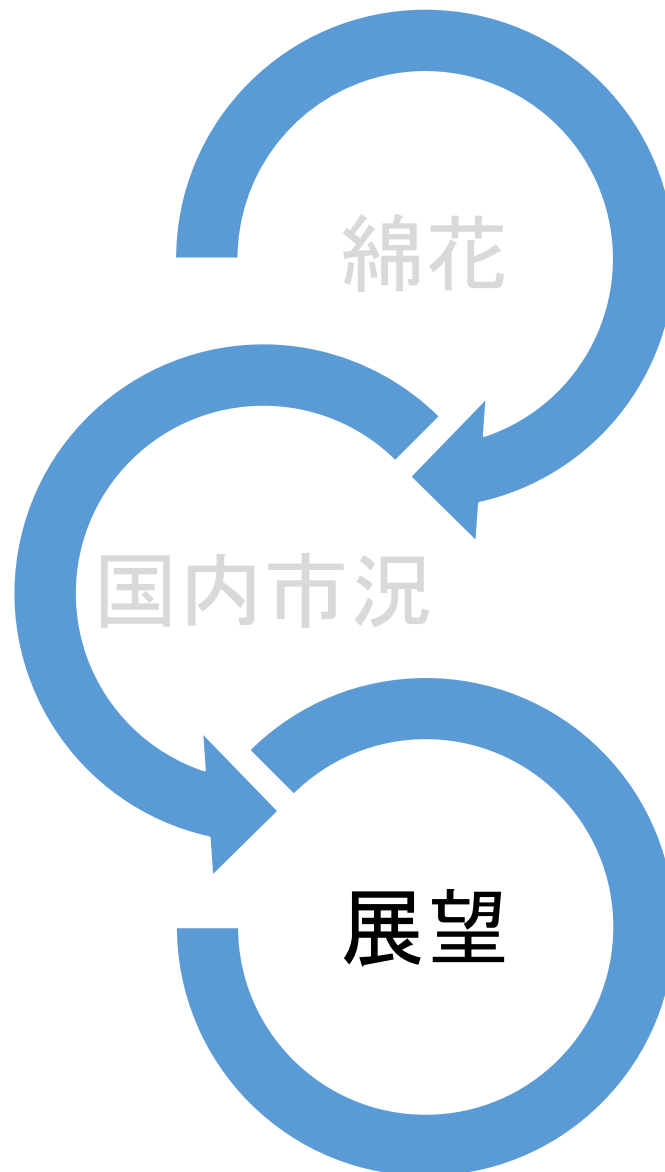


中国、ベトナム、バングラディッシュから安価な輸入衣料品が流入。

➤ 靴



大手メーカーの減産による生産調整、中堅メーカーの倒産。



- ・ 世界の綿花 需給バランス
- ・ 世界の綿花 在庫と相場
- ・ ブラジルの綿花 為替と相場
- ・ 綿糸相場推移と損益分岐
- ・ 合成繊維マーケット
- ・ 繊維製品別輸入動向
- ・ 市況総括
- ・ 2016年展望
- ・ 2016年課題
- ・ 政府への提言

Algodão

世界の綿花需給

- 世界的にバランスは緩んでいるが、米国・中国・インドの生産抑制により国際相場は堅調局面へ移行か。

Câmbio

為替影響

- 綿花相場の上昇を懸念。
- 綿糸・織物の輸入は減少。製品輸入の歯止めを期待。

Mercado

市況

- 景気回復の材料が無く、更に厳しい局面を予想。
- 原料高・製品安は当面解消されず。

Perspectiva

まとめ

- 市況自体の回復が望めない中、レアル安による輸入の歯止めと国内生産回帰による需要増に期待。

Estratégia

戦略

- 中長期的なブラジル経済のあり方を想定して中長期の目線で戦略を策定・実行する。

Colaboração

連携

- 同業他社・他業種とも連携して、用途開発・市場開拓を優先する。

P&D

開発

- 高付加価値製品・独自製品へのシフトによる価格競争からの脱却。

Confiança

信頼

- Made by Japanの日本的な良さを生かして、市場・顧客の信頼を勝ち取る。

Treinamento

教育

- 人材の質的向上を着実に実行する。

潜在成長力を引き出す経済政策の推進

- 行財政改革の推進によりブラジル経済への信用回復

ブラジルコストの改善

- 複雑な税制の整理、撤廃や効果的な減税
- 労働法の見直し。インフラの整備

繊維産業の重要性の再認識を

- 自国で綿花を生産し、かつ伸張する大量消費市場を有する恵まれた国
- 150万人が従事している産業がコスト高と輸入で疲弊
- 産業強化のため人的競争力を高める教育機関の充実

講評

在サンパウロ日本国総領事/
ブラジル日本商工会議所名誉顧問

中前 隆博

Avaliação do
Cônsul Geral do Japão em São Paulo/
Conselheiro de Honra da
Câmara de Com. E Ind. Japonesa do Brasil

Takahiro Nakamae

講評

經濟産業省中南米室長

菅原 廣充

**Avaliação do
Presidente de Dept. America Latina
de Ministerio economia e indust**

Hiromitsu Sugawara

コメント

在ブラジル日本国大使館

小林 和昭 参事官

**Comentário do
Secretário da Embaixada do Japão**

Kazuaki Kobayashi

閉会の辞

樹神 幸夫 総務委員長

ENCERRAMENTO

Presidente da Comissão
de Coordenação Geral:

Yukio Kodama